

S41 埋土層記号

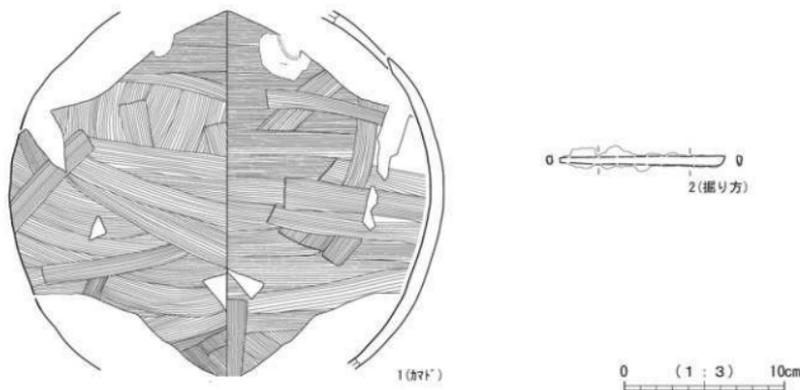
部位	層位	土色	土性	備考
埋土	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	10YR4/4褐色が全体的に混入、焼土が散在しやや混入
	2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	10YR3/3暗褐色が部分的に混入
	3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	10YR3/3暗褐色が混入
カマド	4	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	10YR4/4褐色が混入
	5	10YR4/4 褐色	砂質シルト	10YR3/3が混入、底面に焼け面あり
埋土	6	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	焼土がブロック状に混入、炭化物が散在し混入
	7	10YR3/2 暗褐色	砂質シルト	10YR4/4褐色がやや混入、炭化物が散在し混入
	8	10YR2/2 黒褐色	粘質シルト	焼土がブロック状に混入、炭化物が散在し混入
	9	10YR2/2 黒褐色	シルト	10YR4/4褐色が混入、焼土が部分的に混入
	10	10R3/3 暗赤褐色	粘質シルト	焼面
	11	10YR2/2 黒褐色	粘質シルト	炭化物の層
周溝	12	10YR4/3 に多い黄褐色	砂質シルト	10YR3/3暗褐色が混入
	13	10YR4/4 褐色	シルト	10YR2/2黒褐色を含む、カマド内面に焼土あり
カマド・ソダ	14	10YR3/3 暗褐色	シルト	10YR4/4褐色を含む、カマド内面に焼土あり
	15	10YR4/6 褐色	砂質シルト	10YR3/3暗褐色を含む、カマド内面に焼土あり
	16	10YR4/4 褐色	砂質シルト	10YR3/3暗褐色がブロック状に混入
掘り方	17	10YR4/4 褐色	砂	

S42 施設埋土層記号

部位	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	10YR4/4地山ブロックを含む、焼土が散在し混入
	2	10YR4/3 に多い黄褐色	砂質シルト	10YR4/4地山ブロックを含む
P2	1	10YR4/3 に多い黄褐色	シルト	焼土・炭化物が散在し混入、10YR4/4地山ブロックを含む
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	
P3	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物が散在し混入、10YR4/4地山ブロックを含む

S41 施設断面表

遺構名	平面図	規模(cm)	高さ(cm)	備考	遺構名	平面図	規模(cm)	高さ(cm)	備考
P1	本型形	60×55	14.7		P3	掘り方	37×25	23.9	
P2	円形	55×45	30.3						



第158図 S41 竪穴住居跡出土遺物

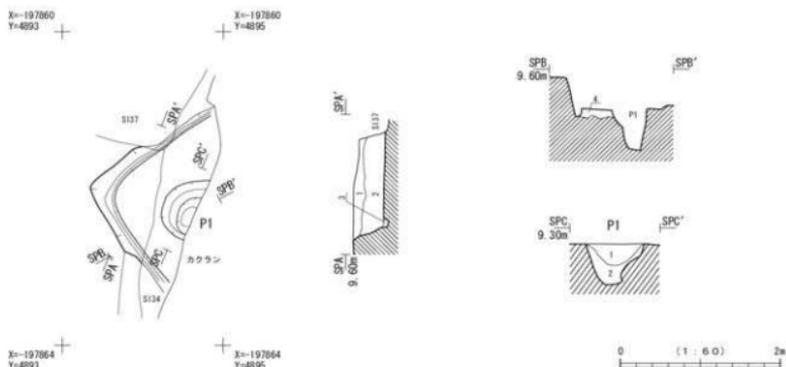
図説番号	登録番号	出土遺構	層位	類別	器種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真掲載
1	C-123	SH1	4F?	土師器	甕	- × - (18.3)	胴部37"	胴部25"		62
2	N-16	SH1	掘り方	鉄製品	刀子	長10.4.幅0.7.厚0.6cm				62

〔掘り方〕 大部分が失われており、詳細は不明だが、底面中央部がやや低くなるものと考えられる。

〔出土遺物〕 土師器甕1点、刀子1点を掲載した。

S42 竪穴住居跡(第159図)

〔位置・確認面〕 3A区南半部、東側の掘乱に沿う形で、僅かに住居のコーナー付近のみが確認された。



第159図 SI42 竪穴住居跡

SI42 埋土柱記表

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
埋土	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	炭化物・地山ブロックを少量含む
	2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	地山ブロックを多く含む
周溝	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	
掘り方	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質土	地山ブロックを密、暗褐色シルトブロックを少量含む

SI42 残留埋土柱記表

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
P1	1	2.5YR3/2 暗赤褐色	シルト	炭化物較多入、2層との層界面に濃い灰の乱積層
	2	10YR3/2 暗褐色	砂質シルト	

SI42 施設概要表

遺構名	平面形状	規模(cm)	深さ(cm)	備 考
P1		84×(80)	51.8	

[重複] SI34に切られる。

[規模・形態] 残存部は長軸1.88m、短軸1.7mで、平面形はコーナー形状から隅丸方形と推測される。

[方向] 西辺を基準とした主軸方位は、N-30°-Wである。

[堆積土・構築土] 4層に分層した。1・2層は住居埋土、3層は周溝内埋土、4層は掘り方埋土にあたる

[壁面] N層中を壁面とし、壁高はコーナー付近で35cm前後が残存する。立ち上がりは床面付近で緩やかに広がり、15cm前後から垂直に近くなる。

[柱穴] SI34の掘り方底面よりP1を検出した。位置関係・形状などから、主柱穴となる可能性が高い。

[周溝] 検出部である西側コーナーで壁際に検出した。幅8cm～10cm、深さ5.7cm～6.7cmである。

[掘り方] 大部分が失われており、詳細は不明である。

[出土遺物] 掲載した遺物はない。

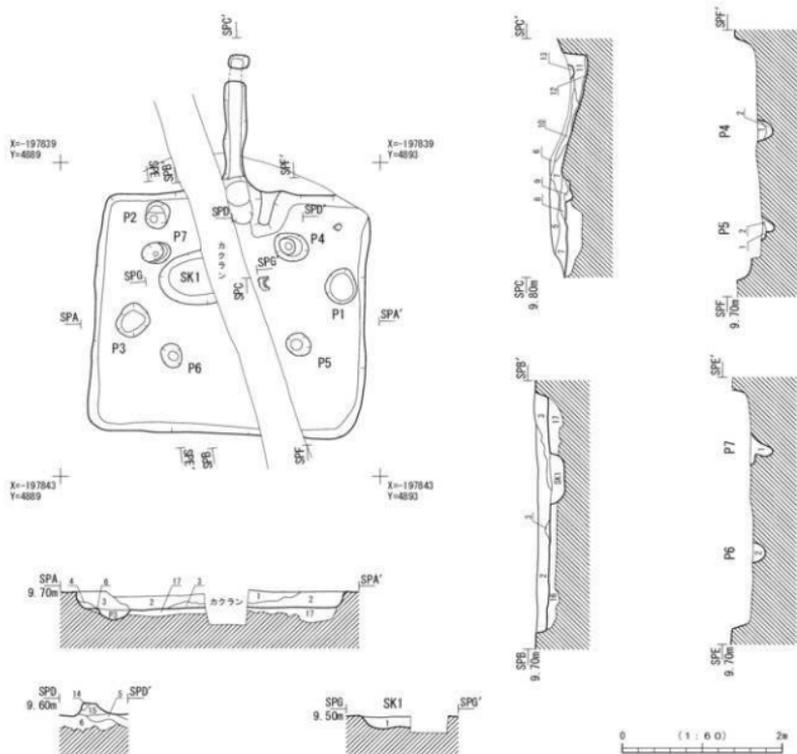
SI43 竪穴住居跡(第160～161図)

[位置・確認面] 3A区中央部で確認した。

[規模・形態] 規模は3.37m×3.13mで正方形に近く、平面形は隅丸方形を呈する。

[方向] 主軸方位は、N-2°-Wである。

[堆積土・構築土] 17層に分層できた。1～4層は住居埋土、7～13層はカマド及び煙道内の埋土である。下面



第160図 S143雙穴住居跡

S143 埴土柱記表

部位	層位	土色	土性	備考
埴土	1	10YR2.2 黒褐色	砂質シルト	地山ブロック・炭化物粒を少量含む
	2	10YR4.2 に濃い黄褐色	砂質シルト	地山ブロックを密に含む
	3	10YR2.2 暗褐色	砂質シルト	炭化物・焼土粒を少量含む
	4	10YR4.2 に濃い黄褐色	砂質シルト	炭化物・焼土粒を少量含む
キマド・棟通	5	10YR2.2 暗褐色	砂質シルト	炭化物・焼土粒を少量
	6	10YR2.2 暗褐色	砂質シルト	炭化物・焼土ブロックを少量
	7	10YR4.4 褐色	砂質シルト	炭・焼土ブロックをやや多く
	8	10YR4.2 に濃い黄褐色	シルト	φ1.0cm内の焼土ブロックを多量、8層は明確な天井・根の痕跡上、下面にうすい焼層がみられる
	9	10YR2.2 暗褐色	シルト	φ5.0cm内の焼土ブロックを多量
	10	10YR2.2 暗褐色	シルト	φ1.0cm内焼土ブロック・地山ブロックを少量含む
	11	10YR4.2 に濃い黄褐色	シルト	一部に地山ブロック・焼土ブロックを少量含む
	12	10YR7.2 1 灰色	シルト	炭化物粒
	13	10YR4.2 に濃い黄褐色	砂質シルト	一部、棟通天井部が残存している、地山土とは異なる
キマド・ソデ	14	10YR2.2 暗褐色	砂質シルト	炭化物粒を少量含む
	15	10YR4.4 褐色	砂質シルト	炭化物粒を少量、暗褐色ブロックをやや多く含む
キマド	16	10YR4.2 に濃い黄褐色	砂質シルト	焼土ブロック・炭化物の粒を少量、キマド下部及び北半部のみの埴土
掘り方	17	10YR2.2 暗褐色	シルト	炭化物ブロックを少量含む、柱石全体埴土

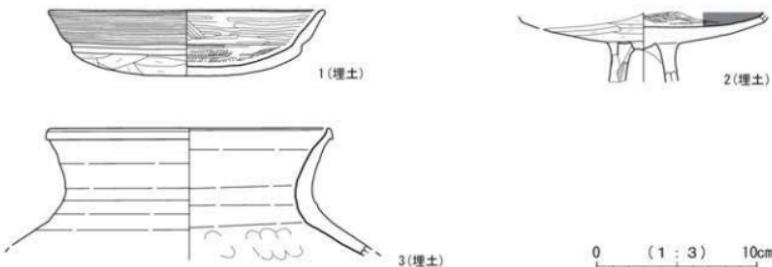
S143 施設掘削土柱記号

部位	層位	土色	土質	備考
P1	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	
P2	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	
P3	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	
P4	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	地山ブロック少量
	2	10YR4/6 褐色	砂質土	地山ブロック密
P5	1	10YR4/4 褐色	砂質土	地山ブロック密
	2	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質土	
P6	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	φ3cm内の地山ブロック多量
P7	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	
SK1	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	φ5cm内の地山ブロックを多量含む

S143 施設断面表

遺構名	平面図	幅間(cm)	深さ(cm)	備考
P1	楕円形	44×40	8	
P2	楕円形	35×30	23.6	
P3	不整形	41×35	11.1	
P4	不整形	42×35	18	

遺構名	平面図	幅間(cm)	深さ(cm)	備考
P5	円形	30×25	20	
P6	楕円形	31×25	16	
P7	楕円形	37×27	27	
SK1	楕円形	70×90	36.8	



第161図 S143竪穴住居跡出土遺物

図録番号	出土遺物	層位	種類	器種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真掲載	
1	C-126	S143	埴土	土師器	環	17.0××4.2	1.1部一部→19°、底部→19°	1.1部部→12°		62
2	C-125	S143	埴土	土師器	高環	×××(4.4)	1.1部部→19°、胴状部→18°	1.1部部→18°	1.1部部→18°	62
3	E-023	S143	埴土	須恵器	甕	17.4××(7.4)	調整	調整	調整	62

に被熱痕跡が認められる8層については、天井部の崩落土と考えることが出来る。また、13層は残存する煙道の天井部分である。14・15層はカマドの構築土、16・17層は掘り方の埋土にあたる。

〔壁面〕 IV層中を壁面とし、壁高は15cm～21cmが残存する。立ち上がりは床面付近でも直線的で垂直に近い。

〔床面〕 16層、ないし17層上面を床面とする。

〔柱穴〕 P1～P7を確認した。位置関係からP4～P7が主柱穴になるものと考えられる。柱間は主軸方向で1.2m、直行方向で1.5mとなる。

〔カマド・煙道〕 北辺中央部に設けられている。西側が大きく覆乱されているが、袖部はやや内湾するものと考えられる。カマドの底面は床面より10cm程度低い。煙道は長さ150cm、幅26cmで一部に天井が残存している。底面は先端部へ向けて低くなる形で大きく傾斜し、深さは14cm～20cmである。

〔その他の施設〕 主柱穴の内側、やや北西寄りに浅い掘り込みであるSK1を確認した。

〔掘り方〕 底面は中心部から周辺にかけて緩やかに傾斜している。落差は5cm前後である。

〔出土遺物〕 土師器環1点、高環1点、須恵器甕1点を掲載した。1は体部と底部の境目に段を持ち、緩やかに外傾し口唇部にいたる。2は三方透かしの脚を持つ。

SI44 竪穴住居跡(第162～165図)

〔位置・確認面〕 3A区中央部、調査区西壁沿で検出された。南西コーナーが調査区外となった。

〔規模・形態〕 東西方向で5.1m、南北方向で4.8mの隅丸方形を呈する。

〔方向〕 主軸方位は真北である。

〔堆積土・構築土〕 21層に分層した。1～5層は住居埋土で4層下部、床面直上にはグライ化も認められる。6層は貼床、7～10層はカマド内の埋土で、多くの焼土・炭化物を含んでいる。11・12層は煙道内の埋土、13層は周溝の埋土にあたる。14～16層はカマドの構築土である。掘り方の埋土である17層には10YR 3/2と10YR 5/3がブロック状に混在する。18～21層は、北辺東側、新しいカマドの煙道に並行して検出された、相対的に古いカマドの煙道部分の埋土である。

〔壁面〕 IV層中を壁面とし、壁高は24cm～40cmが残存する。立ち上がりは垂直に近い。

〔床面〕 6層が貼床にあたる。

〔柱穴〕 P1～P10を確認した。状況から、P1～P4が主柱穴になるものと考えられる。P1、P3、P4には柱の痕跡も認められた。柱間は、2.2m前後である。東側の壁沿いで検出されたP5及び、これと内側に並んで位置するP6の埋土には大量の焼土が含まれ、内部からは土器片も出土した。また、カマド東側のP7の埋土にも焼土が多く含まれる。

〔周溝〕 南西コーナーが未確認ではあるが、北側、東側ではほぼ壁際を回る。西側、南側では、壁からやや離れており、南東コーナーがわずかに切れる。幅は北側・東側で10cm～18cm、西側・南側で17cm～30cm、深さは3cm～9cmである。

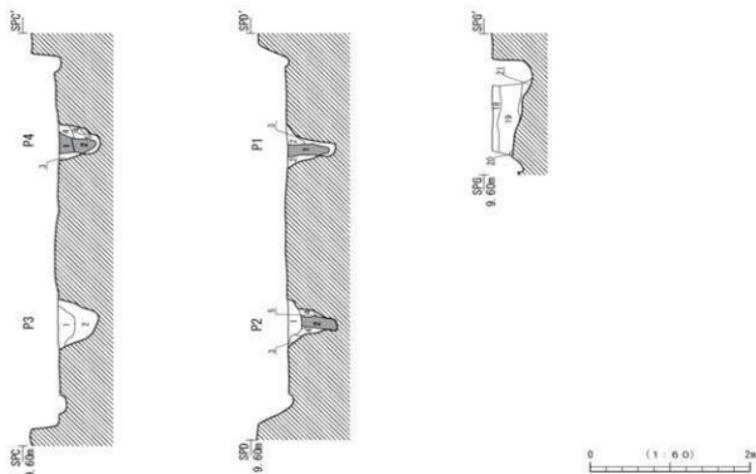
〔カマド・煙道〕 新旧の2基が確認された。新しいものは北辺中央部に設けられ、袖は小さくハの字型に開いており、前底部には焼土の分布が認められた。外幅120cm、奥行73cmで、底面は住居床面との高低差を持たない。煙道の長さは159cmで幅32cm、深さは14cm～19cmを計り、煙道先端部付近からは土器が検出された。古いものは、煙道のみが新しいカマドの東側から検出されている。長さ124cm、幅27cm、深さ35.4cmで、先端部は平面46cm×44cm、深さ51.8cmのピット状に窪んでいる。新旧のカマドの相対的な位置関係はSI45と類似する。

〔その他の施設〕 SK1～SK3を確認した。いずれも埋土中には焼土・炭化物が多く含まれている。

〔掘り方〕 住居中心部を鳥状に残して周辺部を掘りこんでいる。底面の落差は比較的大きく、最大で15cmを超える箇所もある。

〔出土遺物〕 土師器坏13点、ミニチュア土器1点、壺1点、甕5点、須恵器坏2点、瓶1点、蓋3点、鉄製品1点を掲載した。カマドから土師器、須恵器の見込みが深い器形の4・9・10・22が出土した。P1から5が、P6から16、P3から23、P5から19、17層から3・7・8・11・15が出土し、21は床面直上である。

1・5・8・9・11は体部と底部の境目に段を持つ坏である。2・6・7は体部と底部の境目に稜を有する。2層出土の24をはじめ、25・26はカエリを有する蓋である。17は台付甕と考えられる。床直出土の21は、郡山I期後半に出土している。



第163図 SI44 竪穴住居跡(2)

SI44 掘土目録表

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
所土	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒混入。2層との層界面に炭化物の薄い乱層がみられる
	2	10YR2/3 黒褐色	シルト	10YR5/4に多い黄褐色土ブロック状に混入(特に西側に多い)炭化物混入
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物混入。カマド上にのる3層土は、他のところに比べ色調が明るい
	4	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	シルト	床面上にのみでクマイ化が見られている
床面	5	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	砂質シルト	10YR4/3に多い黄褐色砂がブロック状に混入。プラン西壁側～北壁(西)にかけてみられる層
	6	10YR4/1 暗灰色	シルト	床面中央部では2.5Y4/2暗灰黄色土が互層状に入る。南壁側では10YR5/6黄褐色土が混入
カマド	7	10YR4/3 に多い黄褐色	シルト	2.5Y5/4黄褐色土ブロック状混入。層上部と5YR3/2暗赤褐色焼土粒-炭化物粒混入
	8	5YR3/3 暗赤褐色	焼土層	炭化物・灰混層
	9	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	5YR3/3暗赤褐色焼土混入
カマド+煙道	10		焼土炭化物集積層	互層状にみられる
	11	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼成面の崩落土ブロックを混。炭化物・焼土粒混入
周溝	12	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼成面崩落土ブロックが多く入り。焼土ブロックや炭化物混入層
	13	10YR2/2 黒褐色	シルト	10YR5/4に多い黄褐色土塊に混入。南壁側では砂質シルトに多い土質(南壁側壁土は10YR2/3黒褐色シルト。10YR5/4に多い黄褐色土塊に混入で、他の部分より多い)
カマド+土管	14	2.5YR3/4 暗赤褐色	焼成面	
	15	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	
	16	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒混入
掘り方	17	10YR2/2 黒褐色	シルト	ブロック崩落・東壁・西・北壁は10YR5/3に多い黄褐色砂質シルト10YR3/3暗褐色ブロック混入
	18	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	シルト	10YR3/2がブロック状に混入
カマド+煙道(古)	19	10YR3/2 暗褐色	シルト	焼土ブロック-炭化物混入
	20	5YR3/1 黒褐色	焼成面	
	21	5YR3/3 暗赤褐色	焼成面	炭化物混入

SI44 掘土目録表(1)

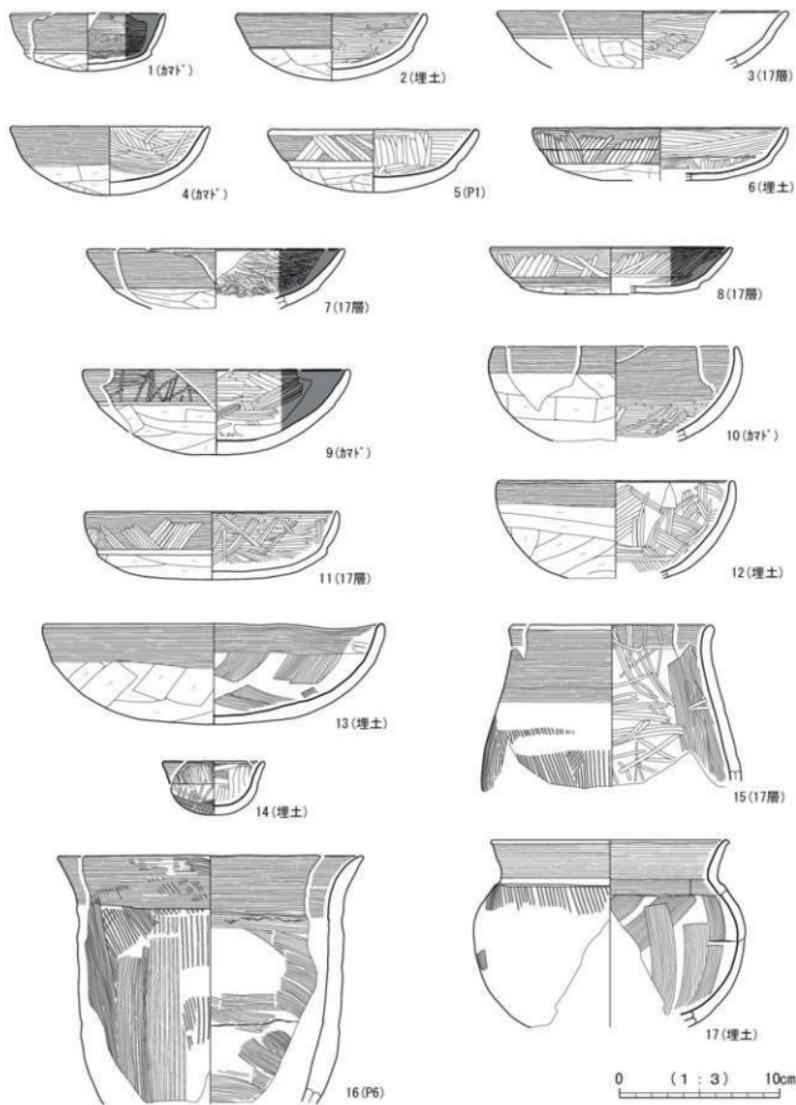
部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
P1	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	10YR5/4土塊に混入。炭化物混入
	2	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物粒混入
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	10YR3/2がブロック状に混入
	4	10YR2/3 黒褐色	シルト	炭化物粒混入
P2	1	10YR3/2 暗褐色	シルト	炭化物粒混入
	2	10YR3/2 暗褐色	シルト	炭化物粒混入
	3	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	
	4	10YR2/3 黒褐色	シルト	
P3	5	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	10YR2/3がブロック状に混入
	1	10YR5/2 暗褐色	シルト	10YR5/4に多い黄褐色土塊に混入。炭化物粒混入
	2	10YR3/2 暗褐色	シルト	10YR5/4土塊に混入。1層に比べ粘性あり
	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物粒混入
P4	2	10YR2/3 黒褐色	シルト	
	3	10YR4/3 に多い黄褐色	砂質シルト	
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	5YR3/3焼土ブロック混入。炭化物粒混入
	5	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	

S144 施設埋土封込断面①

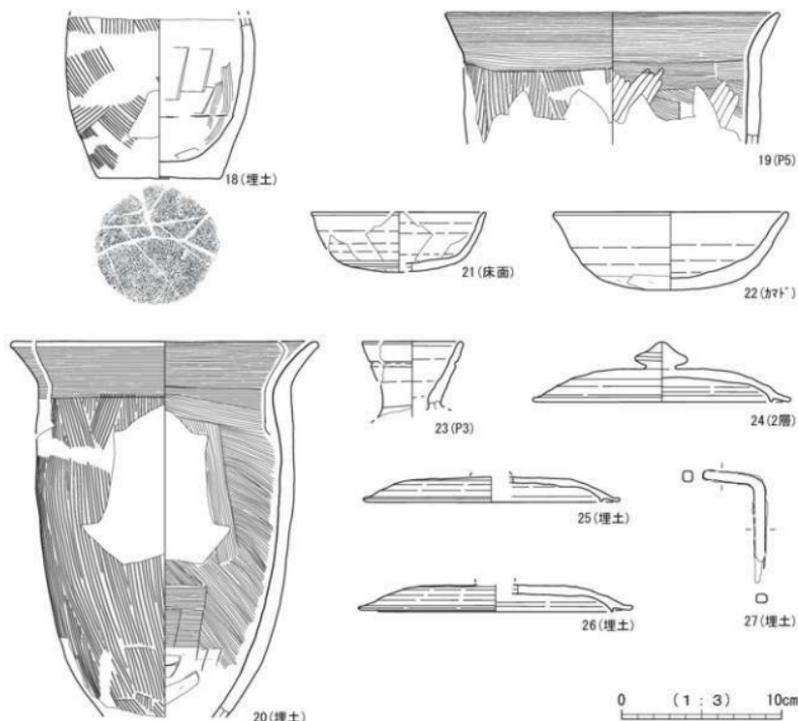
部 位	層 位	土 色	土 質	備 考
P5	1	5YR2/3 緑暗赤褐色	焼土層	10YR5/4ブロック炭、5YR3/3焼土・炭化物混入
	2	10YR4/2 灰青褐色	シルト	10YR5/4ブロック炭
	3	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト(若干砂質)	
P6	1	10YR5/4 に近い黄褐色	シルト(細床層)	焼土粒・炭化物粒混
	2	10YR4/1 黄褐色	シルト	
P7	1	5YR3/3 暗赤褐色	焼土層	10YR5/2ブロック炭、5YR3/6焼土・炭化物混
	2	5YR2/2 暗赤褐色	焼土炭層	5YR4/6焼土・炭化物、10YR5/4に近い黄褐色層状に混入
P8	1	5YR3/2 暗赤褐色	焼土層	炭化物・焼土(5YR4/6)混
	2	10YR4/1 黄褐色	シルト	炭化物粒・焼土粒混入
P9	1	7.5YR2/1 黒色	シルト	5YR3/3焼土ブロック・炭化物混
P10	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒混入層、セクション写真あり
	1	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	10YR3/3、5YR3/3焼土粒混層、炭化物粒混
SK1	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒混入層、10YR5/4ブロック炭混
	2	10YR3/2 暗褐色	シルト	
SK2	1	10YR3/2 暗褐色	シルト	10YR5/4ブロック炭、炭化物混
	1	10YR3/2 暗褐色	シルト	炭化物粒混
SK3	2	10YR5/4 に近い黄褐色	シルト	10YR3/2ブロック炭
	3	7.5YR2/2 黒褐色	シルト	5YR2/3焼土ブロック層、炭集積層、10YR5/4ブロック炭

S144 施設埋土封込断面②

遺構名	平面図	幅員(cm)	深さ(cm)	備 考	遺構名	平面図	幅員(cm)	深さ(cm)	備 考
P1	円形	67 × 60 柱距離9 × 7	67.6		P6	小壘形	68 × 60	33	
P2	円形	61 × 58	60.8		P7	小壘形	69 × 60	15.1	
P3	楕円形	66 × 57	65.3		P8	円形	35 × 32	18.4	
		柱距離14 × 13			P9	円形	24 × 22	13.5	
P4	方形	49 × 45 柱距離24 × 22	52.5		P10	円形	41 × (30)	5.6	
P5	円形	65 × 57	33.4		SK1	楕円形	60 × 55	11.8	
					SK2	楕円形	154 × 105	14.8	
					SK3	楕円形	103 × (50)	21.3	



第164図 SI44竪穴住居跡出土遺物(1)



第 165 图 SI44 竖穴住居跡出土遺物(2)

図号	登録番号	出土遺物	形状	種別	器種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真掲載
1	C-146	S44	87°	土胎器	杯	φ9.5××4.4	11線部~体部277°、底部292°	11線部~底部218°	内面黑色地層	63
2	C-148	S44	埋土	土胎器	杯	11.7××4.3	11線部277°、体部~底部292°	11線部~底部218°		63
3	C-150	S44	77°	土胎器	杯	(8.0)××3.6	11線部277°、体部~底部292°	11線部~底部218°		63
4	C-127	S44	87°	土胎器	杯	(2.3)××4.3	11線部~体部277°、底部292°	11線部~底部218°		63
5	C-133	S44	P1	土胎器	杯	(2.8)××4.0	11線部~体部277°→218°、底部292°	11線部~底部218°		63
6	C-138	S44	埋土	土胎器	杯	(3.8)××(4.4)	11線部~体部277°→218°、底部292°	11線部~底部218°		63
7	C-136	S44	77°	土胎器	杯	(6.0)××(4.8)	11線部~体部277°、底部292°	11線部~底部218°	内面黑色地層	63
8	C-131	S44	77°	土胎器	杯	(5.6)××3.0	11線部~体部277°→218°、底部292°	11線部~底部218°	内面黑色地層	63
9	C-137	S44	87°	土胎器	杯	(6.5)××3.4	11線部277°→218°、体部~底部292°	11線部~底部218°	内面黑色地層	63
10	C-140	S44	埋土	土胎器	杯	(5.2)××(6.0)	11線部277°、体部~底部292°	11線部~底部218°		63
11	C-141	S44	77°	土胎器	杯	(5.7)××4.3	11線部~体部277°→218°、底部292°	11線部~底部218°		63
12	C-142	S44	埋土	土胎器	杯	(4.6)××(6.2)	11線部277°、体部~底部292°	11線部~底部218°		63
13	C-129	S44	埋土	土胎器	杯	(2.0)××(6.4)	11線部277°、体部~底部292°	11線部277°、体部~底部292°		63
14	C-144	S44	埋土	土胎器	杯	φ3.1××3.4	11線部277°→218°、体部~底部218°→292°	11線部277°→218°、体部~底部218°		63
15	C-135	S44	77°	土胎器	盃	12.8××(10.6)	11線部277°、胴部277°	11線部277°→218°、胴部277°→218°		63
16	C-128	S44	P6	土胎器	盃	(9.0)××(15.8)	11線部277°、胴部277°	11線部277°、胴部277°		63
17	C-130	S44	埋土	土胎器	盃	(4.3)××(11.9)	11線部277°、胴部277°	11線部277°、胴部277°	台付本	63
18	C-132	S44	埋土	土胎器	盃	×7.6×(10.1)	胴部277°、帯縁	胴部277°→218°		63
19	C-143	S44	P5	土胎器	盃	30.8××(8.4)	11線部277°、胴部277°	11線部277°、胴部277°→218°		63
20	C-149	S44	埋土	土胎器	盃	(8.8)××(24.0)	11線部277°、胴部277°	11線部277°、胴部277°→下半部292°		63
21	E-027	S44	床面	須恵器	盃	(9.8)××(4.8)	277°調整、底面斜軸292°→392°	277°調整		64
22	E-029	S44	87°	須恵器	盃	(8.6)××5.0	277°調整、底面斜軸292°→277°	277°調整		64
23	E-028	S44	P3	須恵器	瓶	(6.4)××(4.8)	277°調整、底面沈陥1条	277°調整	内外面片煎輪	64

探検番号	登録番号	出土遺物	層位	種別	器種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真掲載
24	E-026	SI44	2層	須恵器	蓋	(15.9) × (3.8)	070調整、天井部縁部→991°、宝珠状991	070調整→091°、849有		64
25	E-025	SI44	埋土	須恵器	蓋	(16.0) × (1.6)	070調整、天井部縁部→991°	070調整、849有	外面自然釉	64
26	E-024	SI44	埋土	須恵器	蓋	(17.2) × (1.7)	070調整、天井部縁部→991°、重ね焼き面	070調整→091°、849有		64
探検番号	登録番号	出土遺物	層位	種別	器種	備 考				写真掲載
27	N-17	SI44	埋土	鉄製品	鏡	残存径6.9、幅3.7、厚0.6cm				64

SI45 竪穴住居跡(第166～170図)

[位置・確認面] 3A区中央部で検出した。

[規模・形態] 南北5.5m、東西5.45mの隅丸正方形を呈する。

[方向] 主軸方位はN-11°-Wである。

[堆積土・構築土] 22層に分層した。1～5層は住居埋土、6層はカマド内のみ認められる埋土だが、いずれの層にも焼土・炭化物が含まれている。また、12・13層の周溝内の埋土にも同様に炭化物粒が含まれる。7～11層は煙道内埋土で7層は天井の残存部と考えられる。14・15層はカマドの被熱部位にあたり、16・17層はカマドの構築土である。18層～20層は掘り方の埋土で、焼土・炭化物粒の含有が認められる18・19層はカマドの焚き口付近に位置する。21・22層は、北辺中央部東側より検出された旧煙道内の埋土である。

[壁面] IV層中を壁面とし、壁高は31cm～42cmが残存する。立ち上がりは垂直に近い。

[床面] 20層上面を床面とする。

[柱穴] P1～P12を検出した。P1～P4が主柱穴にあたり、いずれも柱の痕跡が認められる。また、P7～P12およびP4北側のピットは壁柱穴と考えられ、これらは、主柱穴の軸を延長する形で并桁状に位置している。P8・11・12には断面に柱の痕跡も認められた。P5は位置的に考えて、入り口施設の可能性がある。

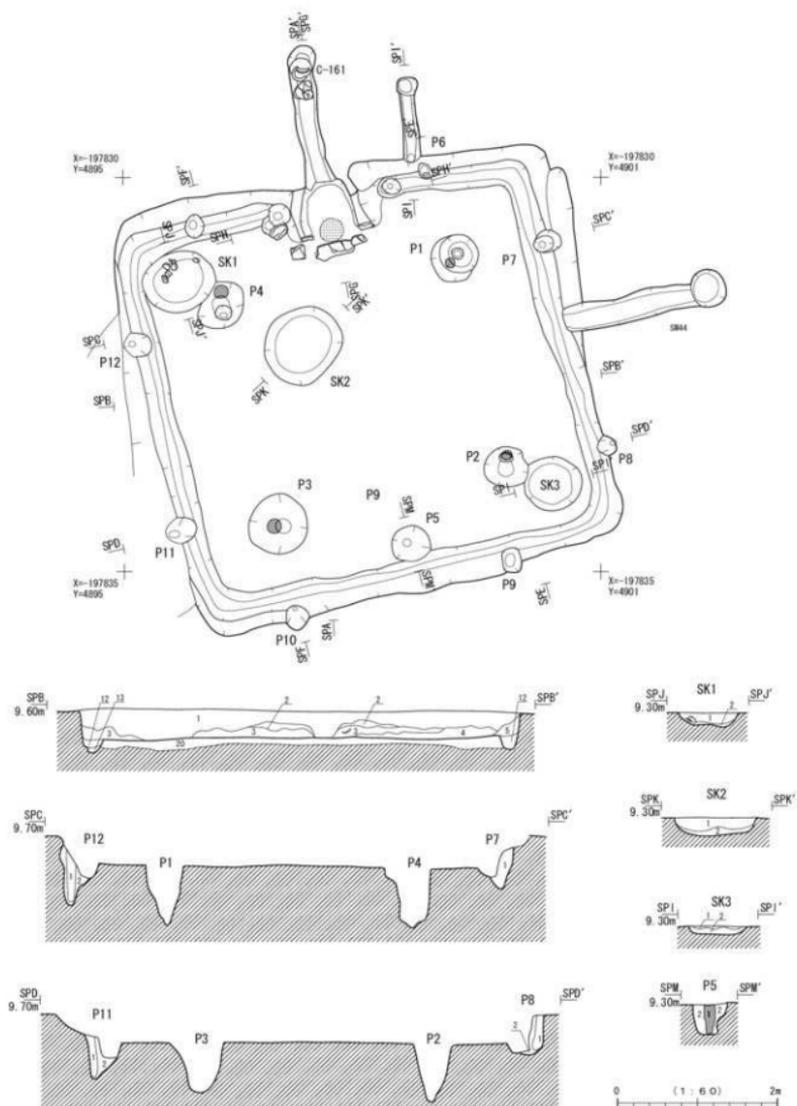
[周溝] カマドを除き、壁際を全周している。底面には上述の壁柱穴が認められる。幅13cm～30cm、深さ8.2cm～13.2cmである。

[カマド・煙道] 新旧2基が認められた他、SM44と先端部のピットが東壁中央に直行しており、これもこの住居に帰属するカマドの煙道である可能性も存在する。新しいカマドは住居北壁の中央部に設けられている。両軸はわずかに内湾しており、先端部には自然石が配されて補強される。加工された石を据えて支柱としており、焚き口付近からは構造の一部と見られる平板な石が検出されている。外幅117cm、奥行90cmで底面は6cm～7cm程度窪んでいる。焚き口の幅は、50cm前後と推定できようか。煙道は長さ174cm、幅28cmで、底面は先端部へ向かって低くなっており、深さは8cm～20cmである。先端部は平面45cm×32cmで深さ54cmのピット状に窪み、土師器の甕が据えられる。旧煙道は北辺東側に位置し、長さ170cm、幅18cmで深さは10cm～24cmで、底面は新しいものの同様先端が深くなっている。先端は平面26cm×22cm、深さ27.3cmのピット状に窪む。主軸変更も伴った数度にわたるカマドの造り替えが行なわれたとも考えられる。

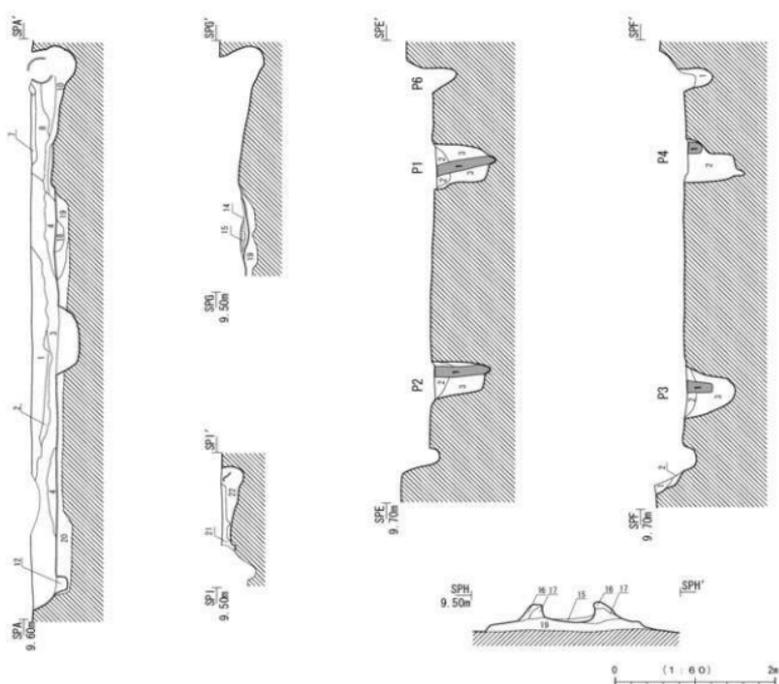
[その他の施設] SK1～3を確認した。北西コーナーで検出されたSK1は底面から破損した土器が検出されており、埋土中にも焼土・炭化物粒が多く認められることから、廃棄物を人為的に埋めたものとも考えられる。SK3の埋土にも焼土・炭化物が含まれる。

[掘り方] 底面は、中央部から周辺部へ向かって緩やかに掘り下げられている。底面の落差は8cm前後である。

[出土遺物] 土師器壺1点、甕6点、須恵器坏3点、甕1点、砥石1点を掲載した。1は丁寧なヘラミガキを施す。口唇部がやや内傾気味に直立する。3、5は長胴甕である。7は内外面を丁寧にナデ、ミガキ状の調整を施している。胴部中央よりやや上位に2ヶ所焼成後穿孔がある。



第166圖 SI45豎穴住居跡(1)



第167図 SI45竪穴住居跡②

SI45 竪土層記簿

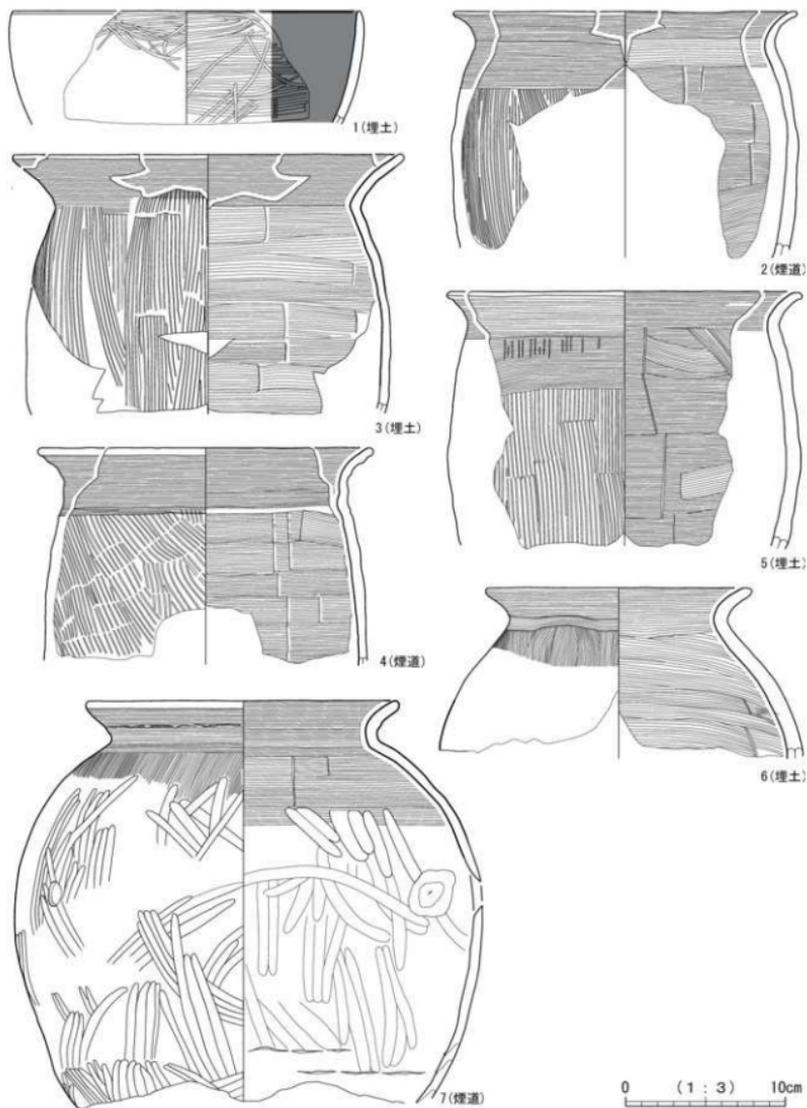
層位	層号	土色	土性	備考
周土	1	10YR2/4 暗褐色	砂質シルト	炭化物・焼土粒ブロックを少量含む
	2	10YR2/4 暗褐色	砂質シルト	炭化物ブロックを一部層状に含む
	3	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	炭化物・焼土ブロックを少量含む
	4	10YR4/4 褐色	砂質シルト	灰黄褐色ブロックをやや多く含む
	5	10YR4/4 褐色	砂質土	
カマド	6	10YR2/4 暗褐色	砂質シルト	φ5cm内の焼土ブロック・炭化物ブロックを多量含む。カマド内のみ層積
	7	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	焼土ブロックを少量
カマド・煙道	8	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	φ2cm内の焼土ブロックをやや多く含む
	9	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	φ1cm内の焼土ブロックを多量含む
	10	10YR2/3 暗褐色	砂質シルト	焼土・炭化物ブロックをやや多く含む
	11	10YR5/4 に近い黄褐色	砂質土	細かい焼土ブロックを少量含む
	12	10YR2/4 暗褐色	砂質シルト	(周縁全体を占める)炭化物粒を少量含む
川溝	13	10YR2/4 暗褐色	砂質シルト	焼土ブロックを密に含む(この部分のみは確認)
	14	2.5YR4/6 赤褐色	焼成面	
カマド	15	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	5YR2/3焼土ブロック・炭化物粒。2.5YR4/6焼土粒混入
	16	10YR2/3 暗褐色	シルト	(住居跡土の残り?) 10YR5/4に近い黄褐色粒混入
カマド・ソツ	17	10YR2/3 暗褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒混入
	17	10YR5/4 に近い黄褐色		
掘り方	18	10YR2/4 暗褐色	シルト	5YR2/3焼土ブロック・炭化物粒混入
	19	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	10YR5/4ブロック混入・焼土粒・炭化物粒混入
	20	10YR2/2 黒褐色	シルト	赤・黒層では10YR2/3に近い色調。10YR5/3に近い黄褐色ブロック状に混入
	21	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	焼土ブロックを微量含む
目録道	22	10YR2/2 黒褐色	シルト	φ1cm内の焼土ブロックを多く含む

S145 施設埋土目録表

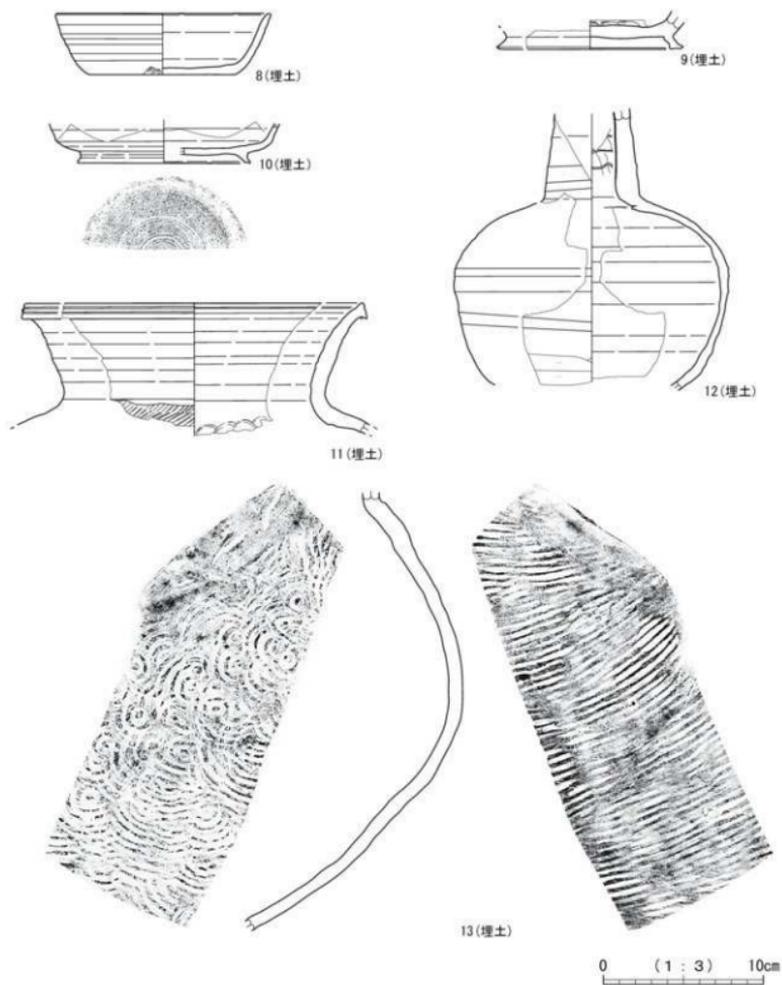
部 位	層 号	土 色	土 性	備 考
P1	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物粒を少量含む
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物粒少量、地山ブロックを散在含む
P2	1	10YR4/4 暗褐色	砂質シルト	地山ブロック、炭化物粒を少量含む
	2	10YR4/3 に5:1黄褐色	砂質シルト	地山ブロックを少量含む
P3	1	10YR4/4 暗褐色	シルト	炭化物粒を少量含む
	2	10YR4/3 に5:1黄褐色	砂質シルト	地山ブロックを密に含む
P4	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	地山ブロックを散在含む
	2	10YR4/3 に5:1黄褐色	砂質シルト	地山ブロックを密に含む
P5	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	粒状に炭化物が混入、柱状
	2	10YR4/3 に5:1黄褐色	シルト	粒状に炭化物が混入、10YR4/4地山が混入
P6	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	地山ブロック、炭化物粒を少量含む
P7	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	炭化物粒を散在含む
	1	10YR3/3 暗褐色	粘性シルト	
P8	2	10YR4/4 暗褐色	シルト	地山小ブロック少量、炭-焼土粒を微量
	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	
P9	2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	地山ブロックを少量
	3	10YR4/3 に5:1黄褐色	砂質シルト	地山ブロックを少量、炭化物粒を少量
	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	
P10	2	10YR4/4 褐色	砂質土	
	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	炭化物粒を微量
P11	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	地山小ブロック、炭-焼土粒を少量含む
	1	10YR3/2 黒褐色	粘性シルト	炭化物粒を少量
P12	2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	地山小粒、焼土粒、炭化物粒を少量
	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	地山ブロックを少量
P14	1	10YR2/3 黒褐色	砂質シルト	粒状焼土、炭化物が混入
	2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	
SK1	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	粒状の焼土、炭化物が多数混入
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	10YR5/4地山が混入、粒状の焼土、炭化物が混入
SK2	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	10YR5/4地山ブロック混入、粒状の焼土、炭化物が混入
	2	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物が階層部にブロック状に混入
SK3	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	10YR4/6がブロック状に混入、焼土、炭化物が粒状に混入
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土が粒状やブロック状に混入、階層部に炭化物のかたまりあり、中央部は炭化が少し弱にはなる

S145 施設概要表

遺構名	平面図	幅員(cm)	深さ(cm)	備 考	遺構名	平面図	幅員(cm)	深さ(cm)	備 考
P1	楕円形	64 × 55	73.8		P8	楕円形	25 × 22	62.2	
		柱形跡14 × 12			P9	長方形	32 × 22	62.4	
P2	円形	56 × 53	65.2		P10	小型形	25 × 30	35	
		柱形跡13 × 13			P11	楕円形	40 × 33	59.4	
P3	円形	76 × 72	63.3		P12	円形	35 × 30	50.6	
		柱形跡19 × 19			P13	楕円形	30 × 23	45.3	
P4	楕円形	60 × 53	74.3		P14	-	-	-	
		柱形跡16 × 16			SK1	円形	90 × 77	23.5	
P5	円形	47 × 45	44.3		SK2	円形	100 × 90	22.7	
		柱形跡φ13			SK3	円形	170 × 58	12.7	
P6	楕円形	(20) × 20	41.2						
P7	不整形	36 × 28	54.6						



第168図 SI45竪穴住居跡出土遺物(1)



第169図 SI45 竪穴住居跡出土遺物(2)

図版番号	登録番号	出土遺跡	層位	種別	器種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真 掲載
1	C-160	SI45	雑土	土師器	陶	φ2.2 × × (7.2)	1) 腹面→11°、体部磨光	1) 腹面→体部11°	内面黒色処理	64
2	C-152	SI45	雑土	土師器	甕	φ2.2 × × (15.7)	1) 腹面→11°、胴部→11°	1) 腹面→11°、胴部→11°		64
3	C-159	SI45	雑土	土師器	甕	φ2.4 × × (16.5)	1) 腹面→11°、胴部→11°	1) 腹面→11°、胴部→11°		64
4	C-154	SI45	雑土	土師器	甕	φ2.0 × × (13.9)	1) 腹面→11°、胴部→11°	1) 腹面→11°、胴部→11°		64
5	C-155	SI45	雑土	土師器	甕	φ2.2 × × (16.4)	1) 腹面→11°、胴部→11°→10°	1) 腹面→11°、胴部→11°		64
6	C-156	SI45	雑土	土師器	甕	φ6.3 × × (10.8)	1) 腹面→11°、体部11°	1) 腹面→11°、体部11°→10°	地味黒色穿孔、内面赤土	64
7	C-161	SI45	雑土	土師器	甕	19.6 × × (25.6)	1) 腹面→11°、胴部→11°→11°	1) 腹面→11°、胴部→11°→下平部11°		64
8	E-031	SI45	雑土	灰磁器	杯	(13.4) × (9.0) × 3.9	070調整、底面回転→99.1°→99°	070調整	外面自然釉、内面火罨裏	65
9	E-034	SI45	雑土	灰磁器	杯	- × (11.6) × (1.9)	070調整、底面回転→99.1°、胎付高台	070調整、足台基部磨損調整	高台	65
10	E-032	SI45	雑土	灰磁器	杯	- × (10.8) × (2.7)	070調整、底面回転→99.1°、胎付高台	070調整	高台	65
11	E-033	SI45	雑土	灰磁器	甕	φ2.0 × × (7.7)	070調整、胴部平行叩き目	070調整、胴部11°→11°	内外面自然釉	65
12	E-030	SI45	雑土	灰磁器	甕	- × × (17.0)	070調整	070調整	外面自然釉、長頸	65
13	E-036	SI45	雑土	灰磁器	甕	- × × (27.4)	070調整、胴部平行叩き目	070調整	青海文	65



第170図 SI45竪穴住居跡出土遺物(3)

図版番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 掲載
1	K-6022	SI45	雑土	3A	石製品	磨石	ⅡA2	10.2 × 5.0 × 2.9	135.39	凝灰岩	完全磨、面取り、板状、集孔、自然面あり	65

SI46 竪穴住居跡(第171～172図)

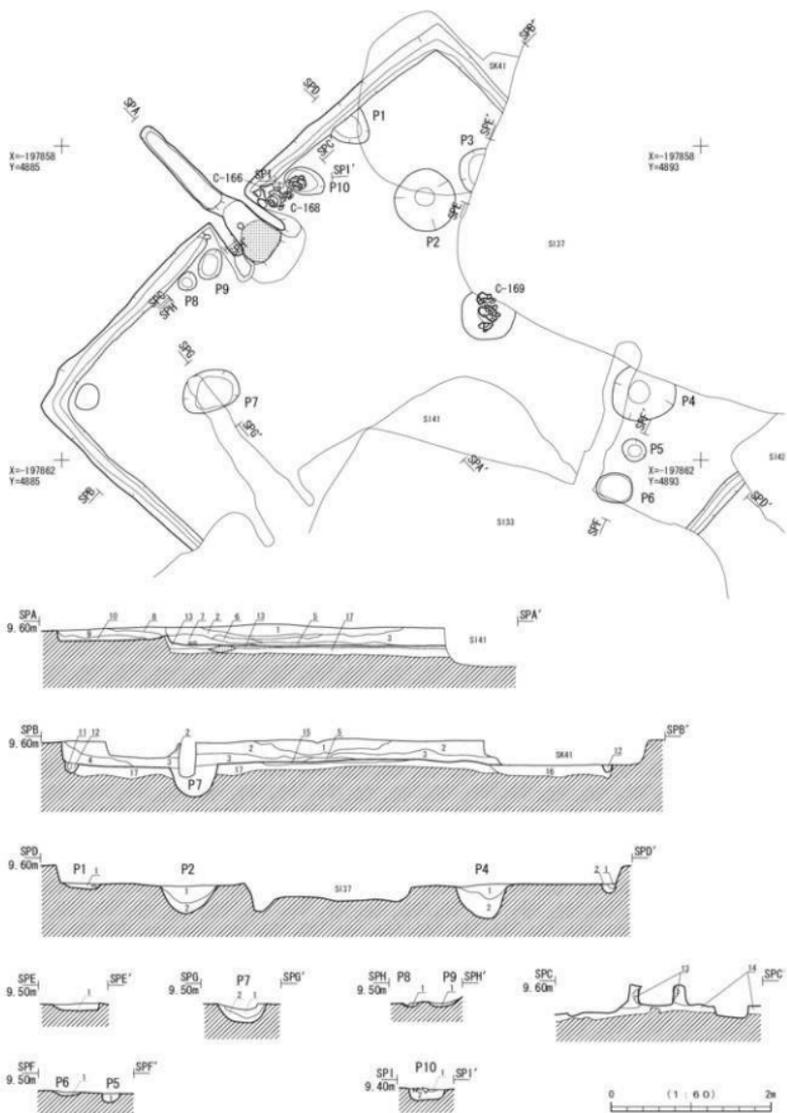
[位置・確認面] 3A区南半部で確認した。比較的大型の住居跡であるが、南側はSI 33、SI 37、SI 41、SI 42の掘り方によって大きく攪乱を受けている。

[重複] SI33、SI37、SI41、SI42、SK41に切られる。

[規模・形態] 7.1m × 7.06mのほぼ正方形である。面積は50㎡前後とみられる。

[方向] 主軸方位はN-43°-Wである。

[堆積土・構築土] 17層に分層した。1～5層は住居埋土、6・7層はカマド燃焼部付近の埋土にあたり、6層は焚き口の全面で認められた焼土と炭化物を含む土層である。8～10層はカマド煙道内部の埋土である。11・12層



第171圖 SI46雙穴住居跡

S146 埋土柱記録

部位	層位	土色	土性	備考
埋土	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR2/2黒褐色10YR4/3に赤い黄褐色がプロック状に混入
	2	10YR4/3 に赤い黄褐色	シルト	10YR3/3暗褐色シルトが層の下部にスジ状に混入、10YR3/4暗褐色シルトが層の上部に多く混入
	3	10YR4/4 褐色	シルト	10YR2/2黒褐色シルトが全体的に散状に混入
	4	10YR2/2 黒褐色	シルト	層の上部に10YR3/3暗褐色シルトが混入
	5	10YR4/4 暗褐色	シルト	
カマド	6	10YR4/4 暗褐色	シルト	柱状の焼土・炭化物が混入
	7	10YR2/2 暗褐色	シルト	柱状プロック状の焼土が多く混入、炭化物が多く混入
カマド・煙道	8	10YR4/3 に赤い黄褐色	シルト	炭化物が散状に混入、層の下部に炭土あり
	9	10YR4/4 褐色	砂質シルト	プロック状に炭化物が混入
	10	10YR4/3 に赤い黄褐色	砂質シルト	1部分に炭化物の混入あり
周溝	11	10YR2/2 黒褐色	シルト	10YR2/2黒褐色シルトが混入、周溝に並べた板の跡であると考えられる。周溝の大部分で見られた
	12	10YR3/3 暗褐色	シルト	10YR4/4褐色土山が混入
カマド・土管	13	10YR4/4 褐色	砂質シルト	10YR2/2黒褐色がやや混入
	14	10YR3/4 暗褐色	砂	10YR4/4褐色砂質シルトを多く含む。基本層の15層に対応する
掘り方	15	10YR4/3 に赤い黄褐色	砂質シルト	10YR2/2暗褐色シルトをプロック状に含む。掘り床の層
	16	10YR4/4 褐色	シルト	10YR2/2黒褐色シルトを多く含む
	17	10YR4/4 暗褐色	砂	10YR4/4褐色シルトを多く含む

S146 施設埋土柱記録

部位	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	焼土プロックを多数混入、炭化物の層ビット内から破損土器が見つかるなど生活廃棄物を人為的に埋めたと考えられる
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	10YR2/2黒褐色がプロック状に混入、10YR4/4褐色がプロック状に混入
P2	1	10YR4/3 に赤い黄褐色	砂質シルト	10YR4/4褐色が混入、赤土質の柱状と考えられる
	2	10YR4/3 に赤い黄褐色	シルト	10YR2/2黒褐色がプロック状に混入、10YR4/4褐色が垂直にスジ状に混入
P4	1	10YR2/2 暗褐色	シルト	10YR2/2黒褐色が混入、10YR4/4褐色がやや混入
	2	10YR4/3 に赤い黄褐色	砂質シルト	10YR2/2黒褐色が部分的に混入、赤土質の柱状と考えられる
P5	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	焼土・炭化物がやや混入
P6	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	10YR5/4に赤い黄褐色がプロック状に混入、炭化物がやや混入
	1	10YR4/4 褐色	シルト	10YR3/3暗褐色がプロック状に混入、10YR2/2黒褐色がプロック状に混入
P7	2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	10YR4/4褐色が混入、赤土質の柱状と考えられる
	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	焼土プロックが多数混入、炭化物の層 ※焼土・炭化物を人為的に埋めたと考えられる
P9	1	10YR2/2 暗褐色	シルト	焼土プロック混入、炭化物の層 ※焼土・炭化物を人為的に埋めたと考えられる
P10	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	
	2	10YR2/2 黒褐色	シルト	灰の層である。焼土プロックが多数混入、破損した土器が混入、燻土したものと考えられる

S146 施設断面表

遺構名	平面図	幅幅(cm)	深さ(cm)	備考	遺構名	平面図	幅幅(cm)	深さ(cm)	備考	
P1	楕円形	380×53	14.2		P7	楕円形	72×52 (22×22)柱状	55.6		
P2	円形	76×76	45			P8	円形	26×21	9.2	
P3	楕円形	56×26	13.4			P9	楕円形	40×28	11	
P4	楕円形	64×74	46.9			P10	楕円形	30×26	14.8	
P5	円形	30×28	12.7							
P6	円形	44×42	6.3							

は周溝内の埋土にあたり、11層については壁材の痕跡と考えられる。13・14層はカマド構築土、15～17層は掘り方の埋土である。

[壁面] 壁高は東側と北側で22cm～24cm程度、西側に16.9cmが残存する。N層中に構築されており、立ち上がりは垂直に近い。

[床面] 15層が貼床の層である。特に

[柱穴] P1～P9を確認した。P2、P4、P7が主柱穴となり、柱間には主軸・直行軸方向共に3.6mである。P9および周辺から多量の遺物を検出したP10はカマドの両脇に位置し、何らかの付帯施設と捉える事も出来る。

[周溝] 検出部分をほぼ全周している。幅は12cm～19cm、深さは10cm前後である。

[カマド・煙道] 北辺のほぼ中央部に設けられている。両袖の平面形はやや直線的で、外側へ小さく広がる。外幅は104cmで奥行は88cmで、燃焼部の奥には自然石が配され支柱としている。煙道は長さが142cmで幅16cm、深さは15cm前後で底面は平坦である。

[掘り方] 南半はほぼ失われているが、カマドの前方を長方形の島状に残して周囲を掘り窪めた状況が認められた。底面の落差は9cm前後である。

[出土遺物] 土師器環2点、甕4点、甗1点を掲載した。1は関東系土師器の環である。2は体部と底部の境目に稜を持ち、底部にヘラ記号が観察される。3・5・6の胴部外面は丁寧なヘラナデあるいはナデ状のミガキが施されている。

SI47 竪穴住居跡(第173～174図)

[位置・確認面] 3A区中央部で確認された。

[重複] SI48を切る。

[規模・形態] 主軸を南北にとり、南北方向で3.35m、東西4.75mの主軸直行方向が長軸となる隅円長方形を呈する。

[方向] 主軸方位は真北、N-0°である。

[堆積土・構築土] 14層に分層した。1・2層は住居埋土であり、大部分を占める1層中には少量だが焼土・炭化物粒が認められた。3層はカマド内の埋土である。カマドの焚き口前面から広がり、炭化物の含有が顕著な4層は、貼床あるいは床面直上の堆積と考えられる。5～7層はカマド煙道内部の埋め土、8層～12層はカマドの構築土にあたる。13・14層は掘り方の埋土である。

[壁面] 上部は大きく削平されているものと考えられる。IV層中を壁面とし、やや外反しつつ立ち上がる。壁高は13cm～23cmが残存する。

[床面] 4層付近が床面と考えられる。

[柱穴] P1、P2を確認した。共に柱の痕跡が認められ、特に顕著なP1は、住居の南北ほぼ中央、西よりに位置する。

[カマド・煙道] 北辺西側に設けられている。両袖は直線的に開き、左袖部の内側には焼けた礫が認められた。外幅は110cm、奥行60cmである。煙道は長さ143cm、幅60cmで底面は先端部へ向けて傾斜し、深さは7.8cm～17cmを計る。煙道の先端部はビット状に窪んでいる。

[その他の施設] 南側の壁沿いで浅いSK1とした浅い掘り込みを確認した。

[掘り方] 底面は中央部から周辺部へむけて緩やかに傾斜している。落差は最大で10cm程度である。

[出土遺物] 土師器坏2点、甕1点、須恵器蓋1点を掲載した。2は平底状の底部から緩やかに立ち上がり口唇部にいたる。3は長胴甕で胴部に横位のナデの後、縦位のヘラケズリを施す。4は口径が大きく、甕の蓋か、カエリが退化し、口唇部に位置したものである。

SI48 竪穴住居跡(第175～176図)

[位置・確認面] 3A区中央部で確認した。

[重複] SI47に切られる。

[規模・形態] 規模は、主軸方向は4.6m、主軸直行方向で4.35m、平面形状は隅円方形となる。

[方向] 主軸方位はN-20°-Wである。

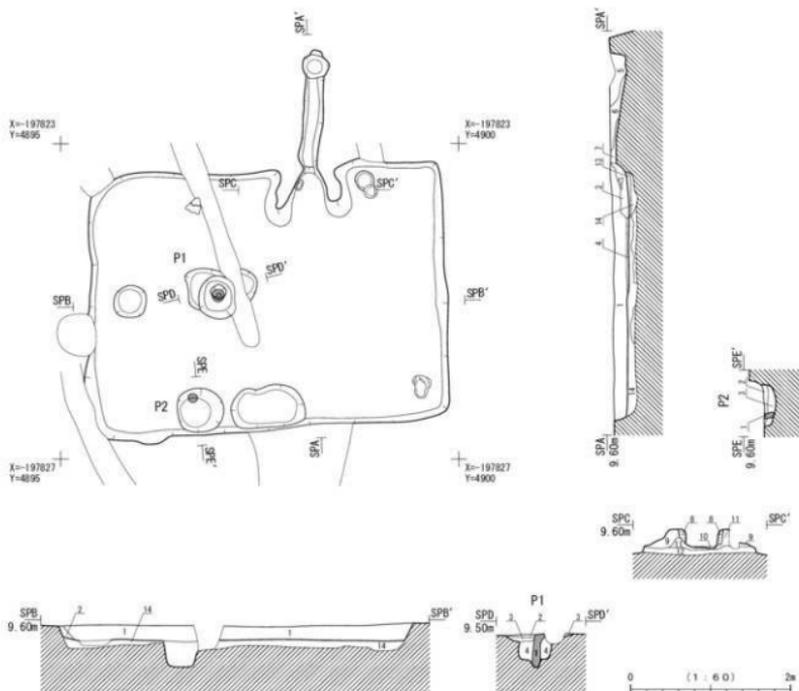
[堆積土・構築土] 23層に分層した。1～5層は住居埋土である。4層は住居の南側で僅かに認められ、少量だが焼土・炭化物を含んでいる。5層は床面直上の薄い堆積である。6～11層はカマド内の埋土にあたるが、このうち7層は3層と同一の層である可能性も存在する。12～16層は煙道内の埋土である。17～19層は周溝の埋土にあたる。ただし、これら大部分は18層が占めている。20～22層はカマドの構築土、24層は掘り方の埋土である。

[壁面] IV層中を壁面としており、壁高は、最も状態のよい東壁で40cm～42cm、一部に攪乱を受けている北壁でも31cm～35cmが残存する。立ち上がりは垂直に近いが、北側のみは緩やかに広がる形となる。

[床面] 5層付近、あるいはその直下を床面とする。

[柱穴] P1～P7を確認した。位置関係と形状から、住居南側のP1・P2が主柱穴となる可能性がある。ただし、北側の床面には柱穴が認められない。P3～P5はP1の周囲に住居のコーナーに沿う形で、ほぼ等間隔に設けられている。

[周溝] カマドを除き全周している。壁の立ち上がりの形状から、北側ではやや壁から離れる形となるが、概ね壁



第173図 SI47 壁穴住居跡

SI47 埋土柱記表

部位	層位	土色	土質	備考
樹土	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	地山小ブロック-炭化物粒-焼土粒少量、人為埋土か否か不明
	2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	
ホマド	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	φ1cm内の焼土ブロック少量、炭化物粒やや多く含む、ホマド内層のみの焼土
	4	10YR2/7 黒色	シルト	炭化物粒
ホマド-埋土	5	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	φ1cm内の焼土ブロックやや多く、炭化物粒少量含む
	6	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	φ1cm内の焼土ブロック少量、地山ブロック少量含む
	7	10YR4/3 に灰い黄褐色	砂質土	暗褐色砂質シルトブロックを少量
ホマド-土管	8	5YR3/2 暗赤褐色	砂質シルト	焼土層
	9	10YR4/4 褐色	シルト	10YR3/3暗褐色シルトが混入
	10	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	10YR2/3黒褐色がまばらに混入
	11	10YR4/4 褐色	砂質シルト	
	12	10YR4/6 褐色	砂質シルト	10YR4/4褐色砂が少し混入
掘り方	13	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	10YR2/3暗褐色がまばらに混入
	14	10YR4/3 に灰い黄褐色	砂質シルト	10YR3/3暗褐色シルトを小ブロック状に含む

SI47 施設埋土柱記表

部位	層位	土色	土質	備考
P1	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物粒を微量含む
	2	10YR4/3 に灰い黄褐色	砂質シルト	炭粒を微量
	3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	地山ブロックを多量
	4	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	砂粒を少量
P2	1	10YR4/3 に灰い黄褐色	砂質シルト	柱痕跡か否か不明
	2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	炭粒微量
	3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	
SK1	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	

際を巡る形となる。幅10cm～30cm、深さは10cm～30cmである。

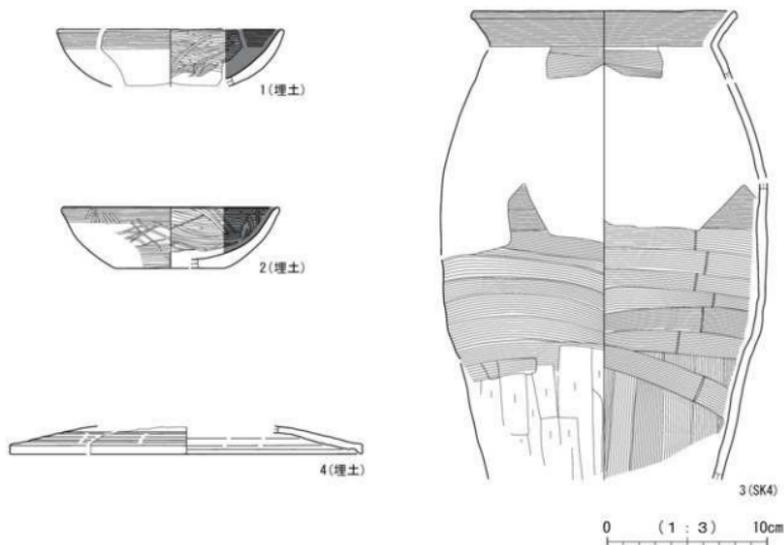
〔カマド・煙道〕 北辺の中央部より東側に設けられる。両袖の平面形はやや内湾している。外幅110cm、奥行47cmで、底面から袖部内面は顕著に被熱している。煙道は長さ212cm、幅30cmで底面は先端へ向かって傾斜しており、深さは21cm～40cmを計る。先端部は平面55cm×45cm、深さ46.6cmのピット状に窪んでいる。

〔掘り方〕 底面はほぼ平坦だが、周辺部の底面がやや深く掘り込まれている。落差は最大で10cm前後となる。

〔出土遺物〕 土師器坏5点、甕1点、須恵器蓋1点を掲載した。1は器高の低い皿状で、2・3・4は、体部と底部の境に段を持つ比較的口径の大きいものである。5は平底の底部から緩やかに内湾しつつ、口唇部にいたる。掘り方出土の7は疑宝珠状つまみが崩れ、ほとんどボタン状にみえる。退化したカエリが外側に移行し、やや垂下し始めている。

SI47 施設観察表

遺構名	平面図	規模(cm)	深さ(cm)	備考	遺構名	平面図	規模(cm)	深さ(cm)	備考
P1	不整形	98×60 柱間距12×12	32		P2	円形	60×57	18.9	
					SK1	他円形	93×55	9.6	



第174図 SI47 壁穴住居跡出土遺物

図版番号	登録番号	出土遺構	器位	類別	器種	11径×口径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-171	SI47	埋土	土師器	坏	(14.0)×(3.6)	11縁部21°、体部磨光	11縁部-体部21°	内面黑色処理	66
2	C-173	SI47	埋土	土師器	坏	(13.6)×(7.0)×3.9	11縁部21°、体部-底部21°、一部磨光	11縁部-底部21°	内面黑色処理	66
3	C-172	SI47	SK4	土師器	甕	(16.2)×(29.8)	11縁部21°、胴部21°→下平21°	11縁部21°、胴部21°		66
4	E-405	SI47	埋土	須恵器	蓋	(25.0)×(1.7)	0°調整、天舟縁部21°	0°調整	内外面白化粧	66

SI48 埋土封記表①

部位	層位	土色	土性	備考
キマド+構造	15	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	上面に5YR3/3暗赤褐色塊状面のある、塊状プロック炭化物粒混入
	16	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	炭化物粒混入
	16	10YR5/4 に近い黄褐色		
	17	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	地山プロックを少量含む
間溝	18	10YR4/4 褐色	砂質シルト	0.5cm以内地山プロックを密に含む
	19	10YR4/6 褐色	シルト	地山プロック土層
	20	5YR2/4 暗赤褐色	塊状面	
キマド+フタ	21	5YR3/3 暗赤褐色	塊状面	2.5YR5.6暗赤褐色塊状炭化物粒混入
	22	2.5YR4/2 灰赤色	シルト	表まで内に塊状プロック混入
	23	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	10YR3/2暗褐色、10YR5/4に近い黄褐色プロック混入

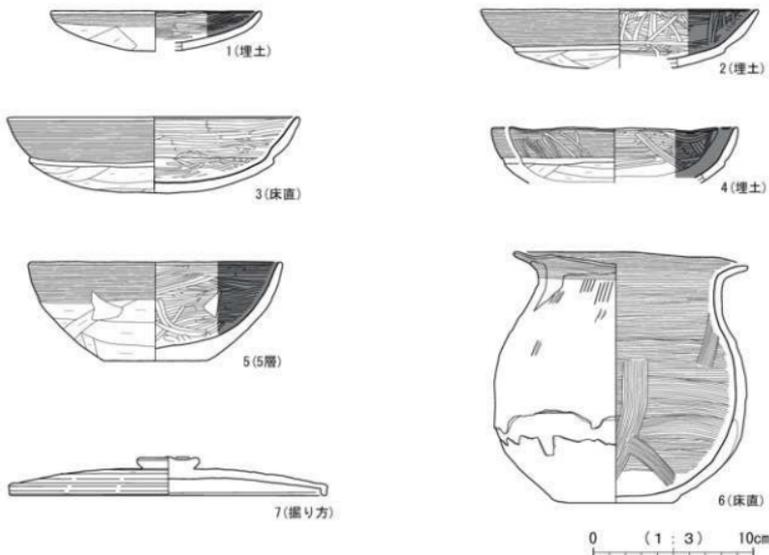
SI48 施設埋土封記表

部位	層位	土色	土性	備考
P1				
P2				
P3	1	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	
	2	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	
P4	1	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	地山プロックを少量含む
P5	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	炭化物・焼土粒をやや多く含む
P6	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	焼土粒を少量含む
	2	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	下層地山プロックをやや多く含む
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	SI48西壁に切り合って検出され壁柱の可能性も考えられるが一層立の柱穴とみられる
P7	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	地山・焼土粒を少量含む
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	0.5cm以内の地山プロックを少量含む
	3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	地山プロックを密に含む
壁柱P6	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	SI48西壁に切り合って検出され壁柱の可能性も考えられるが一層立の柱穴とみられる

SI48 施設断面表

遺構名	平面図	規模(cm)	深さ(cm)	備考
P1	矢倉			
P2	矢倉			
P3	円形	30 × 27	25.2	
P4	楕円形	25 × 19	24.3	
P5	円形	27 × 25	16.4	

遺構名	平面図	規模(cm)	深さ(cm)	備考
P6	不整形	64 × 55	82	
P7	不整形	42 × 33	33.2	
壁柱P6	不整形	25 × 20	34.2	
P1	長方形	44 × 39	18	



第176図 SI48 竪穴住居跡出土遺物

図版番号	登録番号	出土遺物	層位	種別	器種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真掲載
1	C-181	SI48	埋土	土師器	杯	(13.2)××2.6)	1)縁部399°, 体部-底部491°	1)縁部-底部491°	内面黒色処理	06
2	C-180	SI48	埋土	土師器	杯	(17.2)××(3.7)	1)縁部-体部499°, 底部491°	1)縁部-底部491°	内面黒色処理	06
3	C-178	SI48	床直	土師器	杯	(18.3)××(4.8)	1)縁部-体部499°, 底部491°	1)縁部-底部491°		06
4	C-179	SI48	埋土	土師器	杯	(15.2)××3.5	1)縁部399°→491°, 底部491°	1)縁部-底部491°	内面黒色処理	06
5	C-175	SI48	5層	土師器	杯	(15.6)×(6.4)×(6.3)	1)縁部399°, 体部-底部491°	1)縁部-底部491°	内面黒色処理	06
6	C-177	SI48	床直	土師器	壺	14.7×7.5×16.0	1)縁部399°, 胴部-底部499°→491°	1)縁部399°, 胴部-底部499°		06
7	E-036	SI48	掘り方	須恵器	蓋	(19.7)××2.5	399°調整, 丸底部縁部491° 5, 6°調整	399°調整		06

SI49 竪穴住居跡(第177～178図)

[位置・確認面] 3A区南半部の調査区西壁沿いで確認した。壁面の状況から、Ⅱ層あるいはⅢ層によって上部を削平されており、住居内へのⅢ層の落ち込みは認められない。

[重複] SI32, SI39に切られる。

[規模・形態] 規模は未検出を含む推定主軸方向で4.3m、直方向で6.2mを計り、平面形は方形を呈する。

[方向] 東辺の傾きはN-35°-Eを指すが、カマドは未検出の北西部に位置していたと推定できる。

[堆積土・構築土] 10層に分層した。1～6・9層が住居埋土で、特に3層からは多量の土器片が出土している。7・8層は周溝の埋土にあたる。7層については壁材の痕跡と考えられようか。10層は掘り方の埋土である。

[壁面] 壁高は32.7cm～34.2cmが残存しており、壁面の立ち上がりは緩やかだが、周溝内の堆積状況から、内側に壁が存在していた可能性も指摘できる。

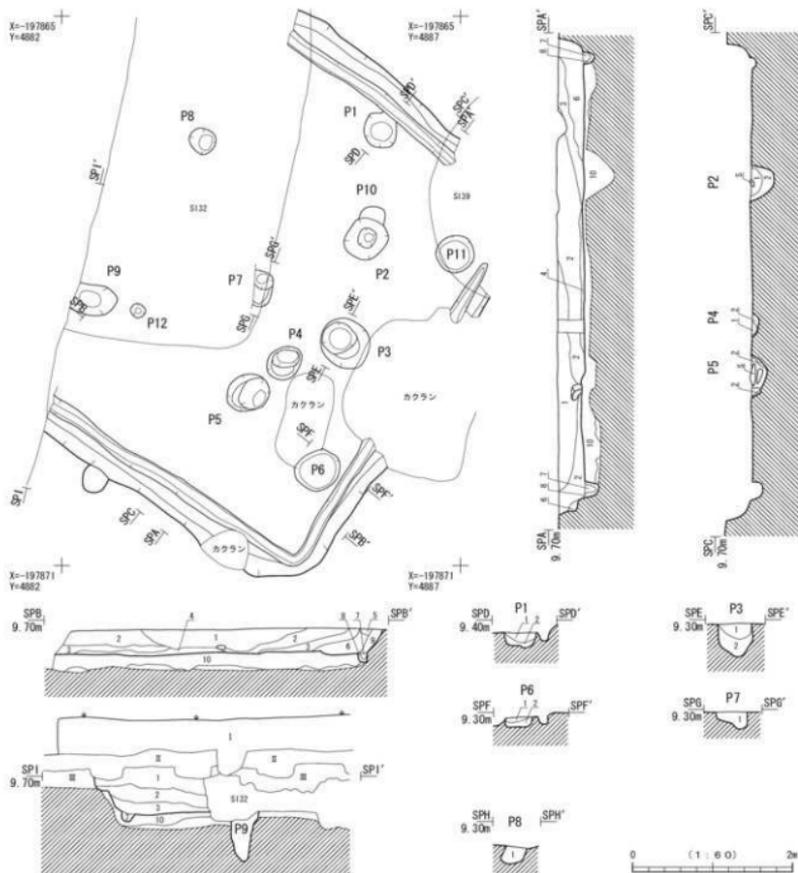
[床面] 西側が失われている。床面上から多数の礫が検出されている。

[柱穴] P1～P11を確認した。位置関係から、P8、P2、P5、P9が支柱穴に当たると考えられ、柱間は2.4m前後である。P2、P5内にも礫の落ち込みが認められた。

[周溝] 検出部を全周しており、東側コーナー付近では壁から僅かに離れる。幅は15cm～20cm、深さは8cm～14.7cmである。

[掘り方] 周囲から中央部へ向かって掘り窪められている。底面の落差は10cm前後である。

[出土遺物] 土師器杯4点、埴もしくは鉢2点、高杯1点、壺1点を掲載した。1・3は、体部と底部の境目に段を有する。2・4は、丸底の底部から緩やかに内湾する。7の高杯は脚部が短く太い。



第177図 SI49竪穴住居跡

S149 埋土層記号

部位	層位	土色	土性	備考
埋土	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	10YR4/4暗色シルトが少し混入
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	10YR4/4暗色シルトがやや多めに混入、10YR2/3黒褐色シルトが部分的にブロック状に混入
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	部分的に粒状炭化物が混入、10YR4/4暗色シルトが少し混入、土器の混入が多く見られる
	4	10YR4/4 褐色	シルト	10YR2/3黒褐色シルトが多めに混入
	5	10YR3/4 暗褐色	シルト	
	6	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	10YR2/3シルトが層の大部分にミジ状に混入
	7	10YR4/4 褐色	砂質シルト	10YR2/3暗褐色シルトがブロック状に混入
	8	10YR4/4 暗褐色	シルト	10YR2/3暗褐色シルトが粒状に混入
	9	10YR4/4 暗褐色	シルト	10YR3/3暗褐色砂質シルトが混入
	埋方	10	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト

S149 竪穴埋土層記号

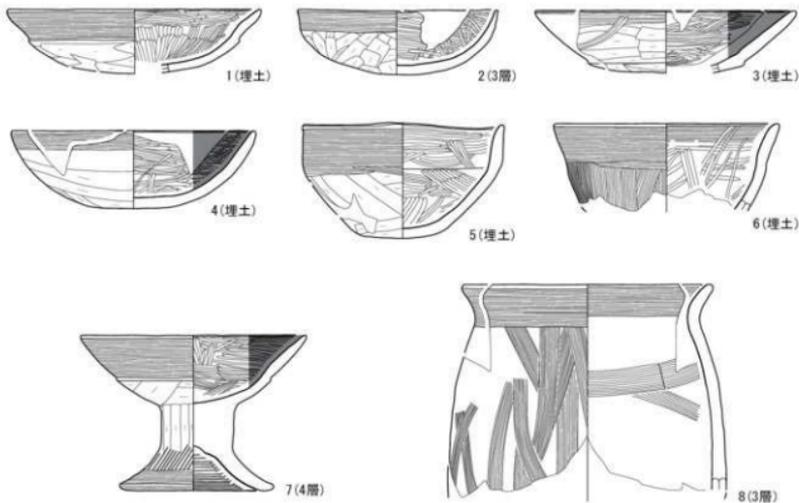
部位	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	10YR4/3に多い黄褐色シルトが混入
	2	10YR3/3 に多い黄褐色	シルト	10YR3/4暗褐色シルトが混入

S149 施設遺土目録表

部位	層位	土色	土性	備考
P2	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	粒状炭化物が混入。10YR4/4シルトが粒状に混入
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	10YR3/3シルトが粒状に混入
P3	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	粒状の炭化物が混入。10YR4/4シルトが粒状に混入
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	10YR4/3シルトがブロッカ状に混入
P4	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	10YR4/4シルトがスリ状に混入
	2	10YR4/4 褐色	シルト	10YR2/2がブロッカ状に混入
P5	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	粒状炭化物が混入。10YR4/4シルトが粒状に混入
	2	10YR4/3 に5%黄褐色	シルト	10YR2/3が混入
P6	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	粒状に炭化物が混入
	2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	10YR2/2シルトが部分的にブロッカ状に混入
P7	1	10YR4/4 褐色	シルト	粒状炭化物が混入。10YR3/3シルトがブロッカ状に混入
P8	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物が部分的に混入
P9	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物が粒状に混入
P10	1	2.5YR3/2 暗赤褐色	砂質シルト	10YR3/3ブロッカ状
P11	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	10YR2/2がブロッカ状に混入。10YR4/4褐色が混入

S149 施設観察表

遺構名	平面図	幅(mm)	長さ(mm)	備考	遺構名	平面図	幅(mm)	長さ(mm)	備考
P1	長方形	44 × 39	18		P7	長方形?	45 × (25)	24	
P2	円形	53 × 48	40.2		P8	円形	34 × 31	27.6	
P3	円形	65 × 59	40.4		P9	楕円形	(33) × 39	37.7	
P4	円形	46 × 40	9.8		P10	円形?	32 × 18	-	
P5	円形	33 × 50	49.2		P11	-	-	-	
P6	円形	34 × 49	14.6						



0 (1:3) 10cm

第178図 S149 竪穴住居跡出土遺物

図版番号	登録番号	出土遺物	層位	種別	器種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真掲載
1	C-183	S149	雑土	土師器	杯	(16.0) × × (4.0)	11線部219°, 体部-底部219°	11線部-底部218°		66
2	C-184	S149	3層	土師器	杯	12.4 × × 4.1	11線部219°, 体部-底部219°	11線部-底部218°, 磨光		66
3	C-186	S149	雑土	土師器	杯	(16.2) × × 3.9	11線部219°, 体部-底部219°→218°	11線部-底部218°	内面黒色処理	66
4	C-191	S149	雑土	土師器	杯	(15.2) × 5.0 × 5.0	11線部219°, 体部-底部219°	11線部-底部218°	内面黒色処理	66
5	C-187	S149	雑土	土師器	鉢	12.7 × 5.8 × 7.3	11線部219°, 体部-底部219°	11線部-底部218°	内内面に黒色、小磨光	66
6	C-182	S149	雑土	土師器	鉢	(14.0) × × (6.5)	11線部219°, 体部219°	11線部219°→218°, 体部218°		66
7	C-185	S149	4層	土師器	高杯	(14.2) × 9.6 × (9.9)	杯部11線部219°, 体部-頸部219°→218°, 頸部219° 杯部219°	杯部218°, 頸部218°	杯部内面黒色処理	67
8	C-190	S149	3層	土師器	甕	(15.7) × × (13.8)	11線部219°, 胴部219°	11線部219°, 胴部219°		67

S150 竪穴住居跡(第179図)

〔位置・確認面〕 3A区中央部の調査区西壁沿いでコーナー部分のみを確認した。大部分は調査区外となる。壁面の状況から、上部はⅢ層ないしⅡ層によって削平されている。住居埋土中へのⅢ層の落ち込みは認められない。

〔規模・形態〕 確認できた範囲は南北で2.15m、東西で1.54mである。

〔方向〕 東壁を基準とした主軸方位はN-40°-Eである。

〔堆積土・構築土〕 7層に分層した。1～4層は住居埋土である。床面上の4層には炭化物が顕著に含まれており、全体的な堆積状況から、竪穴住居跡が人為的に埋められている可能性を指摘できる。5層は周溝の埋土、6・7層は掘り方の埋土である。

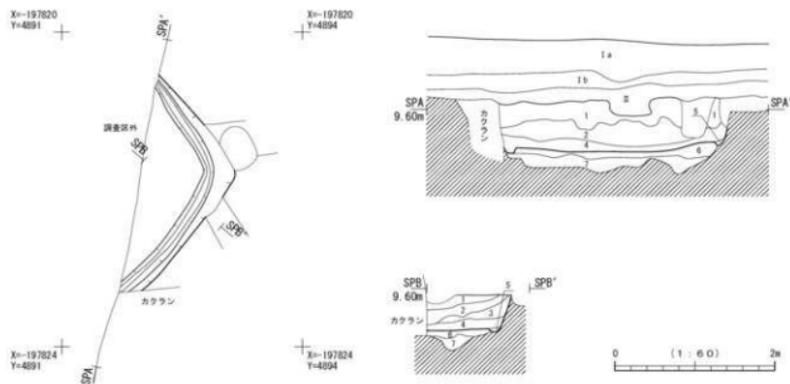
〔壁面〕 Ⅳ層中を壁面としており、調査範囲となった東側コーナーでは42cmが残存する。立ち上がりは直線的で、外側へ向かって傾斜する。

〔床面〕 大部分が調査範囲外となり、詳細は不明である。

〔周溝〕 調査範囲は一部であるが、壁の直下を幅15cm～16cm、深さ5.8cm～8.2cmの溝が設けられている。

〔掘り方〕 大部分の詳細は不明だが、壁際にピット状の掘り込みが認められる。

〔出土遺物〕 掲載した遺物はない。



第179図 S150竪穴住居跡

S150 埋土層記述(1)

層位	層位	土色	土性	備考
埋土	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	地山ブロックをやや多く含む
	2	10YR2/4 暗褐色	砂質シルト	炭化物粒を少量含む
	3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	地山ブロックを少量含む
	4	10YR2/4 暗褐色	砂質シルト	地山ブロックを少量、炭化物ブロックをやや多く含む由全層にわたり、人為埋土の可能性あり

SI50 博士日記表紙

部位	層位	土色	土質	備考
周溝	5	10YR4/4 褐色	砂質シルト	
掘り方	6	10YR4/4 褐色	砂質シルト	地山・黒褐色シルトブロックをやや多く含む
	7	10YR4/4 褐色	砂質シルト	φ3cm内の黒褐色シルトブロックを層上平に含む

SI51 竪穴住居跡(第180～182図)

[位置・確認面] 3A区中央部で確認した。

[重複] SI56、SI57を切る。

[規模・形態] 南北にとる主軸方向の方がやや大きく、主軸方向で5.75m、直行方向で5.3mの隅円方形を呈する。

[方向] 主軸方位はN-7°-Wである。

[堆積土・構築土] 20層に分層した。1～5層が住居埋土である。全体に焼土・炭化物を含んでおり、堆積状況などから考えても、廃絶以後、人為的に埋められた可能性が高い。また、4層については貼床の層と考える事も出来る。6～8層はカマド内に堆積する焼土の層、9層～13層は煙道内の埋土である。14・15層は周溝内の埋土であり、特に14層は壁材の痕跡とも考えられる。16層・17層はカマドの構築土、18層から20層は掘り方の埋土である。

[壁面] IV層中を壁面としている。上部は大きく削平されているものと考えられるが、壁高は25.8cm～28.1cmが残存する。

[床面] 19層、20層の上面、あるいは4層を床面としている。

[柱穴] P1～P14を確認した。位置関係からP1～P4が主柱穴にあたると思われる。住居の平面形との相対的位置関係は、ほぼ左右均等となり、いずれも東西の周溝の縁から90cm前後内側に設けられている。柱間は主軸、両辺共に約3mとなる。カマドの右側から検出されたP5の埋土中には、少量だが焼土・炭化物が認められた。P7～P14は周溝底面または壁際で確認されたピットで、いずれも壁柱穴と考えられる。P8と東辺のピットとの距離は1.8m、P10と南東コーナー部ピットとの距離も同じく1.8mで、P10、P11間およびP12、P13間は2.4mである。各ピット間距離の最大公約数は、ほぼ30cm前後になるものとみられ、平面设计に対する尺貫法の使用も想定できようか。

[周溝] カマド部分を除き、壁際を全周している。底面には複数のピットが認められた。幅18cm～23cm、深さは12.1cm～17.8cmである。

[カマド・煙道] 北辺中央部に設けられる。袖は直線的にやや外側へ開いており、カマド前庭部付近には焼土が広がる。外幅は110cm、奥行72cmで、底面は住居床面との高低差を持たず、奥壁近くに自然石を据えて支柱としている。煙道の長さは170cm、幅は30cmである。底面は先端部へ向けて低くなっており、深さ20cm～39.7cmを計る。

[その他の施設] SK1～SK3を確認した。SK1とSK2は、それぞれカマドの左右、主柱穴の外側に位置し、平面形上の相対的な位置関係はほぼ均等となっている。共に埋土中には焼土が多く含まれる。SK3は掘り方底面からの検出である。

[掘り方] P12とP13の間から中央部付近にかけて舌状に掘り残しているが、底面は概ね平坦で最大落差は5cm前後である。

[出土遺物] 土師器杯3点、壺1点、甕1点、須恵器杯3点、甕1点、砥石1点を掲載した。1は、丸底から緩やかに内湾し口唇部に至る。2は平底の底部から直立気味の口唇部に至る。4は大型の短頸壺である。6・7は底部整形が手持ちヘラケズリ整形である。8は底部回転ヘラ削り整形で、法量と器形から8世紀第3四半期にまで下がるものである。他の遺物は、ほとんどが7世紀後半から8世紀前半代でおさまる時期の須恵器杯である。

S100 博士日記簿

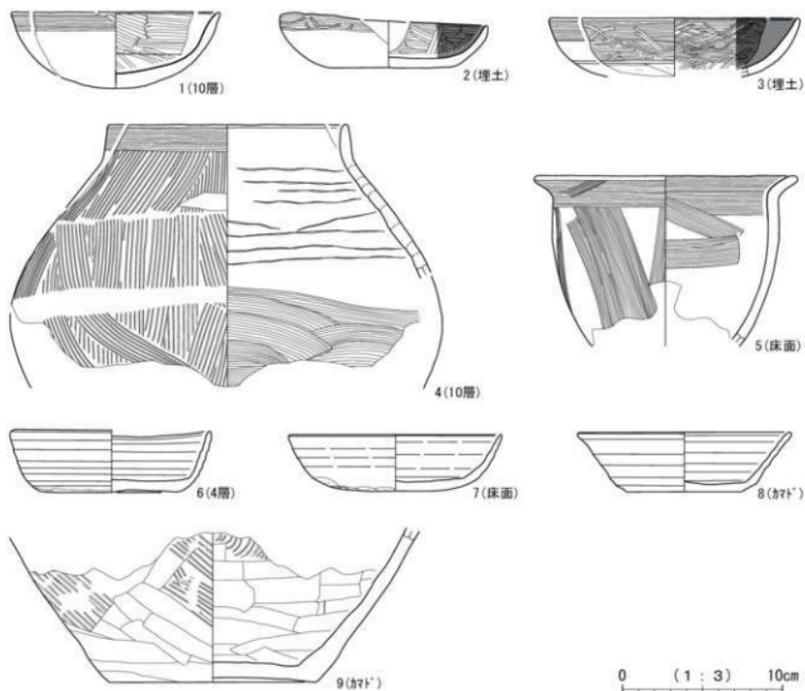
部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
圃土	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	堆山ブロックをやや多く含む
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	炭化物粒を少量含む
	3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	堆山ブロックを少量含む
	4	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	堆山ブロックを少量、炭化物ブロックをやや多く含む中層にわり、人為層土の可能性あり
圃溝	5	10YR4/4 褐色	砂質シルト	
掘り方	6	10YR4/4 褐色	砂質シルト	堆山・黒褐色シルトブロックをやや多く含む
	7	10YR4/4 褐色	砂質シルト	φ3cm内の黒褐色シルトブロックを層土に含む

S101 施設博士日記簿

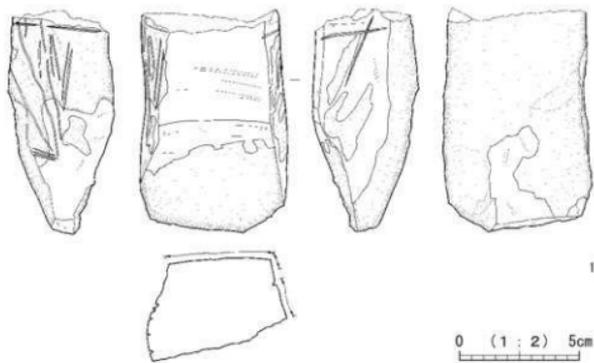
部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
P1	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物・焼土粒を少量含む
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	φ1cm程の堆山ブロックを密に含む
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	φ3cm内の堆山ブロック・暗褐色シルトブロックを密に含む
P2	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	堆山ブロック、炭質暗褐色シルトブロックを密に含む
	2	10YR4/4 褐色	砂質土	暗褐色シルトブロックを少量含む
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物・焼土粒を微量含む
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	φ3cm内の堆山ブロックを多量に含む柱状
	3	10YR4/4 褐色	砂質土 (ブロック土)	
P4	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物・焼土粒を少量含む
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	φ1cm内の堆山ブロックを多量に含む
	3	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	堆山の大小ブロックを密に含む
P5	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	部分的に焼土・炭化物ブロックを少量含む
P6	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	堆山ブロックを少量含む
P7	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	堆山小ブロックを多量に含む、炭化物粒を微量含む
P8	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	下層に堆山ブロックを少量含む
P9	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	
P10	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	堆山ブロックを多量に含む
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物粒を少量含む
P11	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	
P12	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	柱状、表面腐あり
	2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	炭化物粒を少量含む
P13	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	表面腐あり
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	堆山ブロックを多量に含む
P14	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒を微量含む
P15	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	堆山ブロックが少し混入
P16	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	堆山ブロックが少し混入
P17	-	-	-	
P18	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	上半に堆山ブロックを多く含む(層中1)
P19	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	(層中2)
P20	-	-	-	
SK1	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	φ1cm程の焼土ブロックがやや多い
	2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	堆山ブロック層
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	
SK2	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	φ2cm内の焼土ブロックがやや多い
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	φ1cm内の焼土ブロックがやや多く炭化物粒は少量
SK3	-	-	-	堆山ブロック密

S101 施設輪郭表

遺構名	平面図	長径(cm)	短径(cm)	備 考	遺構名	平面図	長径(cm)	短径(cm)	備 考
P1	円形	64 × 62	65.2		P13	楕円形	25 × 19	51	
P2	方形	61 × 50	73.9		P14	楕円形	35 × 27	51	
P3	円形	70 × 64	71.5		P15	楕円形	37 × 26	38	
		柱断面13 × 10			P16	小整形	32 × 29	14.1	
P4	円形	60 × 54	70.7		P17	円形	38 × 36	21.3	
P5	楕円形	43 × 39	20.5		P18	方形	21 × 21	20.4	
P6	楕円形	43 × 42	13		P19	円形	24 × 21	51.5	
P7	小整形	28 × 26	58.5		P20	楕円形	20 × 14	52	
P8	楕円形	28 × 23	44.3		SK1	方形	64 × 59	30.9	
P9	楕円形	19 × 18	43.8		SK2	円形	89 × 80	29	
P10	方形	18 × 16	21.3		SK3	円形	79 × 78	14.1	
P11	楕円形	24 × 15	33.5						
P12	楕円形	31 × 25	柱断面あり	64.9					



第181図 SI51竪穴住居跡出土遺物(1)



第182図 SI51竪穴住居跡出土遺物(2)

図録番号	登録番号	出土遺物	層位	種別	器種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真掲載
1	C-197	SE1	30層	土師器	杯	(13.0) × × 4.8	1層部①②③, 体部-底部磨光	1層部-底部①②③		67
2	C-193	SE1	30層	土師器	杯	(12.9) × 7.7 × 3.0	1層部①②③, 体部-底部磨光	1層部-底部①②③	内面黑色地埋	67
3	C-194	SE1	30層	土師器	杯	(15.8) × × (1.7)	1層部①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	1層部-底部①②③	内面黑色地埋	67
4	C-198	SE1	30層	土師器	甕	15.0 × × (16.7)	1層部①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	1層部①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿		67
5	C-192	SE1	30層	土師器	甕	(16.4) × × (10.8)	1層部①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	1層部①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿		67
6	E-017	SE1	4層	須恵器	杯	(12.2) × 8.4 × 4.0	①②③調整, 体部-底部手持ち①②③④	①②調整		67
7	E-018	SE1	4層	須恵器	杯	(13.3) × 8.2 × 3.6	①②調整, 体部-底部手持ち①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	①②調整		67
8	E-040	SE1	①②③	須恵器	杯	(12.2) × 7.0 × 3.8	①②調整, 体部-底部手持ち①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	①②調整	内外面火焼痕	67
9	E-019	SE1	①②③	須恵器	甕	× 13.0 × 19.1	調整①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	調整①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	外面火焼痕	67

図録番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真掲載
1	K-013	SE1	3A	石部品	砥石		1A2	9.1 × 5.8 × 4.2	300.46	湖沢岩	欠損品, 自然磨, 砥石, 無孔, 自然面あり	67

SI52 竪穴住居跡(第183～184図)

[位置・確認面] 3A区北北部、調査区に西壁沿いでカマド付近のみを確認した。埋土中にはⅢ層の落ち込みが認められる。

[重複] SI53、SI54を切る。

[規模・形態] 検出部は南北で2.5m、東西1.5mである。平面形は隅円方形と推定される。

[方向] 主軸方位はN-77°-Eである。

[堆積土・構築土] 8層に分層した。1層と2層は住居埋土で3層、4層はカマドの焚き口付近の堆積である。5層は煙道先端のビット状窪みの埋土と考えられる。6・7層は掘り方の埋土である。

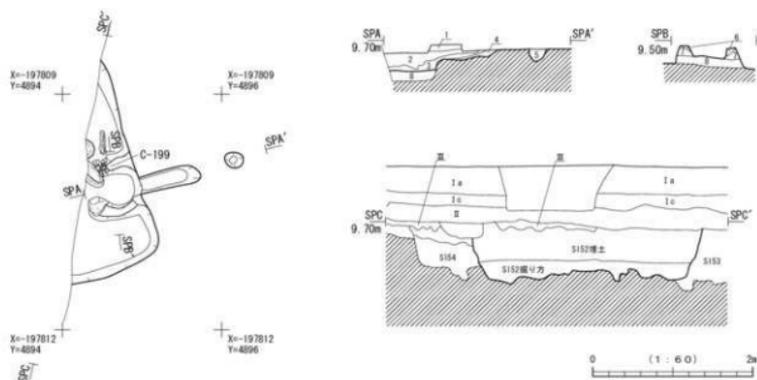
[壁面] Ⅳ層中を壁面としており、東側で24.7cm、南側で22cmが残存する。

[床面] 8層上面を床面としている。

[カマド・煙道] 東辺中央部より南側に寄りに設けられているものと考えられる。袖部は内湾しており、右側の先端部に自然石、左側には自然石と土器が配されている。外幅85cmで、左袖部の脇からは木片が検出された。煙道は上部が削平を受けているものとみられるが、長さ73cm、幅は30cm、深さ平均16.8cmが残存する。底面は先端へ向けて浅くなっていると推定できる。

[掘り方] 大部分が調査区範囲外となるため、詳細は不明である。

[出土遺物] 土師器杯2点、甕2点、ロクロ土師器杯1点、須恵器甕1点を掲載した。1は平底で、手持ちヘラ削

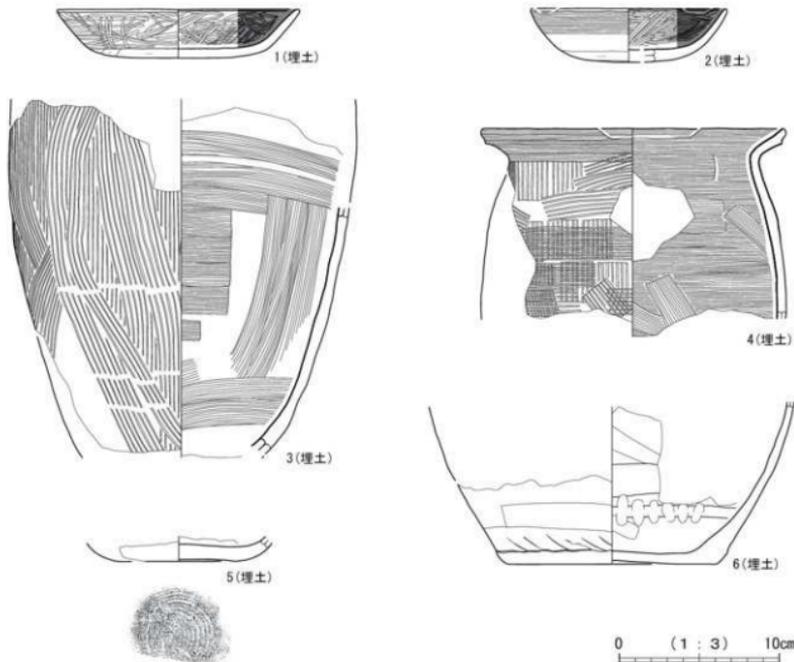


第183図 SI52竪穴住居跡

り整形。4は、外面縦位のタタキ整形の後、横位のハケメ調整を施す。器形は長胴で口唇部に段をもつ、いわゆる受け口状口縁で、北陸系もしくは陸奥型などの搬入された甕であろう。5は底部整形が回転糸切りである。

S152 埋土器記録表

部位	層位	土色	土性	備考
埋土	1	10YR4.3 に濃い黄褐色	砂質シルト	下面に焼面らしきものあり(天井面?)
	2	10YR4.3 に濃い黄褐色	砂質シルト	炭化物・焼土ブロックを少量含む
	3	10YR3.2 暗褐色	砂質シルト	0.2cm ² 内の焼土ブロックを少量含む
	4	10YR3.2 暗褐色	砂質シルト	炭化物を少量含む
	5	10YR3.1 黒褐色	砂質シルト	炭化物・焼土粒をやや多く含む
コマド・ソダ	6	10YR3.2 暗褐色	砂質シルト	0.2cm ² 内の焼土ブロックを多く含む
	7	10YR4.3 に濃い黄褐色	砂質シルト	焼土ブロックを少量含む
掘り方	8	10YR3.2 暗褐色	砂質シルト	炭化物粒・焼土ブロックを少量含む



第184図 S152 竪穴住居跡出土遺物

採取番号	登録番号	出土遺物	層位	種別	器種	口径×底径×器高cm	外面調整	内面調整	備考	写真 掲載
1	C-200	S152	埋土	土師器	杯	(15.2) × (8.0) × 3.3	1) 縁部~体部0.18°、底部0.9°	1) 縁部~底部0.18°	内面黒色処理	68
2	C-202	S152	埋土	土師器	杯	(12.4) × (6.5) × (3.5)	1) 縁部2.2°, 体部摩滅、底部0.9°	1) 縁部~底部0.18°	内面黒色処理	68
3	C-199	S152	埋土	土師器	甕	× × (23.0)	胴部0.9°	胴部0.9°		68
4	C-201	S152	埋土	土師器	甕	(19.1) × × (13.2)	1) 縁部3.2°, 胴部0.9°	1) 縁部3.2°, 胴部0.9°		68
5	D-02	S152	埋土	099土師器	杯	× (7.6) × (4.6)	0.7°調整、底部回転糸切り			67
6	E-042	S152	埋土	須恵器	甕	× 13.0 × (10.0)	0.7°調整、外周~底部0.9°	0.7°調整、外周~底部0.9°		67

SI53 竪穴住居跡(第185～186図)

[位置・確認面] 3A区北半部、調査区西壁沿いで住居東辺の一部を確認した。上部をⅡ層ないしⅢ層によって削平されている。住居埋土へのⅢ層の落ち込みはみられなかった。

[重複] SI52、SK42に切られ、SI54を切る。

[規模・形態] 調査範囲となったのは南北3.8m、東西0.35mの範囲である。平面形は隅円方形を呈するものと考えられるが詳細は不明。

[方向] 東壁を基準にした主軸方位はN-5°-Eである。

[堆積土・構築土] 4層に分層した。1層は住居埋土にあたり、微量ではあるが、焼土・炭化物が含まれている。2層は周溝内の埋土、3・4層は掘り方の埋土である。

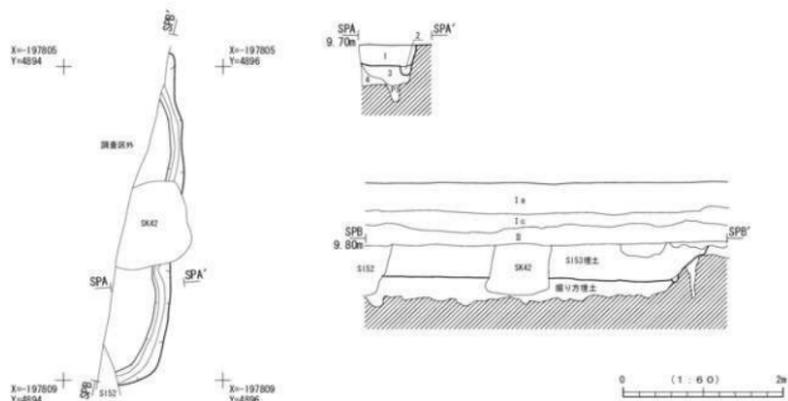
[壁面] IV層中を壁面としており、壁高は28.3cm～32.3cmが残存する。床面付近の立ち上がりはやや急角度である。

[床面] 3層上面を床面とするが、大部分は調査区外であり、詳細は不明。

[周溝] 壁際に確認した。幅13cm～20cm、深さ9.2cm～9.8cmである。

[掘り方] 大部分は不明だが、底面よりピットが検出された。

[出土遺物] 土師器環1点を掲載した。平底状の底部から緩やかに立ち上がり、直立する口唇部にいたる。



第185図 SI53竪穴住居跡

SI53 埋土柱記表

部位	層位	土色	土性	備考
埋土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土・炭化物粒を微量
周溝	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	堆山小ブロックを少量
船床	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	堆山ブロックが混入、粒状焼土炭化物が混入
掘り方	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	堆山ブロックが少し混入

SI53 焼土埋土柱記表

部位	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	10YR2/2照褐色シルトブロックが少し混入

SI53 施設観察表

遺構名	平面形状	規模(cm)	深さ(cm)	備考
P1	楕円形	28×15	34	



0 (1 : 3) 10cm

第186図 SI53竪穴住居跡出土遺物

探検番号	発掘層	層位	種別	器種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真 掲載	
1	C-203	SI53	1層	土細器	杯	11.6×6.4×2.7	1層部21°、底部-9°2'	1層部-底部9°2'	内面黑色処理	66

SI54 竪穴住居跡(第187図)

[位置・確認面] 3A区北半部、調査区西壁沿いで、住居の東側コーナー部のみを確認した。西側の大部分は調査区外となる。埋土中へは、わずかではあるがⅢ層の落ち込みが認められる。

[重複] SI52、SI53に切られる。

[規模・形態] 調査範囲は南北2.6m、東西2.3mで平面形は隅円方形を呈するものと考えられる。

[方向] 東壁を基準として、主軸はN-25°-Wを向くと推定できる。

[堆積土・構築土] 5層に分層した。1・2層は住居埋土である。床面上の堆積である2層には焼土・炭化物が含まれる。3層は周溝の埋土、4・5層は掘り方の埋土である。

[壁面] Ⅳ層中を壁面とする。壁高は24.5cm～25.5cmが残存しており、立ち上がりは、やや外反するが垂直に近い。

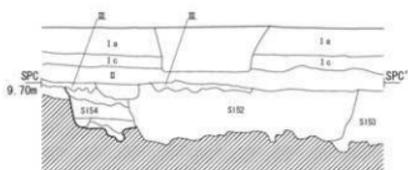
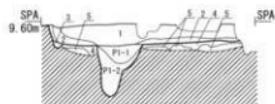
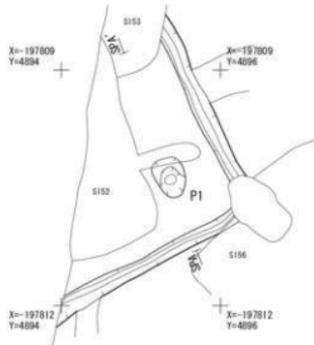
[床面] 4層上面を床面とする。検出部も、大部分がSI52の掘り方によって攪乱を受けている。

[柱穴] P1を確認した。位置関係、形状等から東側の主柱穴にあたるものと推定される。

[周溝] 検出部全体で壁際に確認できた。幅11cm～13cm、深さ3.8cm～6.5cmである。

[掘り方] 大部分が調査区外であり、また、SI52の攪乱を受けているため詳細は不明である。

[出土遺物] 掲載した遺物はない。



0 (1 : 60) 2m

第187図 SI54竪穴住居跡

SI54 埋土層記号

部位	層位	土色	土性	備考
埋土	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	10YR5/4より黄褐色ブロック混入、焼土粒・炭化物粒混入
	2	10YR2/2 黒褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒混入
周溝	3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	10YR2/3黒褐色が小ブロック状に混入
	4	10YR4/4 褐色	シルト	10YR2/3黒褐色シルトがまばらに混入、粒状炭化物が少し混入
掘り方	5	10YR4/3 に近い黄褐色	砂	10YR4/4褐色シルトがまばらに混入

SI54 地質博士目録表

部位	層位	土色	土質	備考
円	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	10YR4/4褐色シルトが小ブロック状に混入、粒状炭化物が少し混入
	2	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	10YR4/4褐色シルトがまばらに混入、粒状炭化物が少し混入

SI54 施設観察表

遺構名	平面図	規模(cm)	埋き(cm)	備考
P1	機円形	32×36	65	

SI55 竪穴住居跡(第188～190図)

[位置・確認面] 3A区北半部でプランを確認した。

[重複] SI56、57、62を切る。

[規模・形態] 主軸を東西にとる。東西4.18m、南北4.68mで、主軸直行方向がやや大きい隅円方形を呈する。

[方向] 主軸方位は、N-90°-Eである。

[堆積土・構築土] 11層に分層した。1・2層は住居埋土にあたり、1層には少量だが焼土・炭化物が含まれており、堆積状況からも人為的な埋め戻しが行われた可能性を指摘できる。3・4層はカマドの前庭部で認められた焼土と炭化物の層である。5層は煙道天井の残存部で、6～9層が煙道内部の埋土にあたる。9層は溝溝の埋土、10層はカマドの構築土、11層は掘り方の埋土である。

[壁面] IV層および、SI56、SI57、SI62の埋土を壁面としており、壁高は最も状態の良い西壁で28.9cmが、大きく削平を受けている北側でも16.9cmが残存する。

[床面] 11層上面を床面とする。

[柱穴] P1～P3を検出した。いずれも壁際に位置する。主柱穴とも考えられるが、掘り込みは浅い。

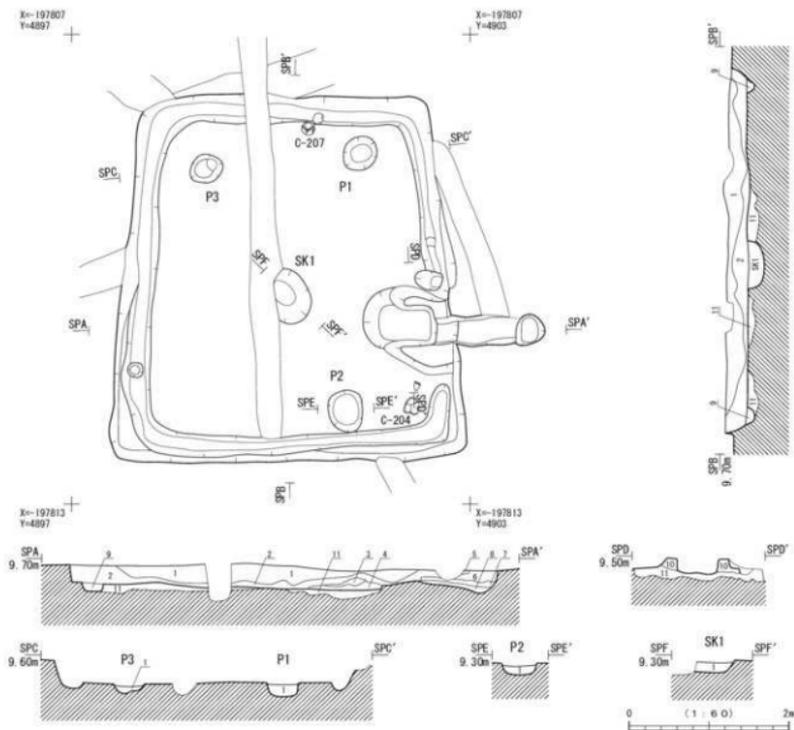
[溝溝] 北側では壁際に設けられているが、南半部、特にコーナー付近ではやや住居の内側に入り、カマドの右袖からは離れている。幅は18cm～28cm、深さ8.4cm～10.2cmで、西側の底面にはビットが認められた。

[カマド・煙道] 東辺中央よりやや南側に設けられる。両袖はわずかに内湾している。外幅100cm、奥壁も竪穴の内側に入っており、奥行きは65cm、底面はわずかに窪んでいる。堆積状況から考えて、廃絶時に天井を破壊されたものとみられる。煙道は長さ108cm、幅36cmで、底面は先端へ向けて緩やかに低くなっており、深さは20cm前後である。先端部は平面規模にして37cm×36cm、深さ32.4cmのビット状に窪む。

[その他の施設] 床面中央部に炭化物を含む掘り込みであるSK1を確認した。

[掘り方] 底面は概ね平坦である。床面から掘り方底面までは非常に浅い。

[出土遺物] 土師器坏1点、埴1点、甕1点、鉢1点、須恵器坏6点、鉢1点、壺1点、鉄滓1点、紡錘車1点、石製模造品1点を掲載した。1は、体部と底部の境目に段を持つ皿形である。3は、内面黒色処理後、非常に丁寧なヘラミガキ調整が施されている。須恵器坏身の5・6・9は、底部整形が回転ヘラ切りである。10は底部回転糸切り後、外周回転ヘラケズリであり、8世紀第2四半期以降の底部整形技法が用いられている。11は、大型の鉢で、胎質や整形技法は須恵器であるが、口縁部外面に赤彩が施されている。12は短頸壺である。



第188図 SI55竪穴住居跡

S155 埋土層記号

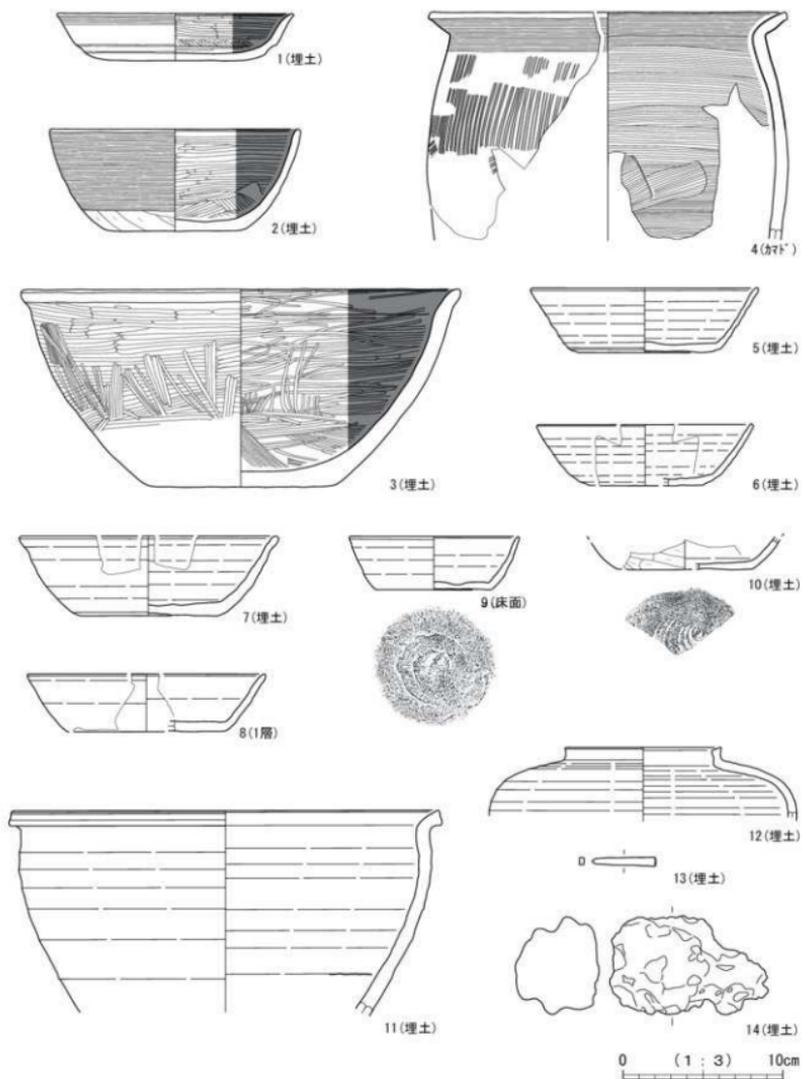
部位	層位	土色	土性	備考
埋土	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	炭化物・焼土ブロックを少量含む
	2	10YR3/3 暗褐色		φ3cm内の焼土ブロックを少量含む、人為的埋土の可能性もあり
キマド	3	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	φ1cm内の焼土ブロック・炭化物粒を多量含む
	4	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	φ1cm内の焼土ブロック・炭化物粒を多量含む
キマド天井	5	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	灰黄砂層
	6	10YR4/4 褐色	砂質シルト	φ1cm内の焼土ブロック少量
構造埋土	7	10YR4/4 褐色	砂質シルト	φ3cm内の焼土ブロックや少ない、天井面直下埋土含む
	8	10YR4/4 褐色	砂質土	
明溝	9	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	φ3cm内の焼土ブロック・暗褐色シルトブロックを多量含む
キマド・ソデ 掘り方	10	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	10YR5/4に近い黄褐色ブロック状、焼土粒混
	11	10YR3/3 に近い黄褐色	砂質シルト	10YR3/3暗褐色ブロック状、ベルト西側では10YR3/3に近い黄褐色、10YR3/2暗褐色ブロック層になる

S155 施設埋土層記号

部位	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	焼土ブロックを多量に含む
P2	1	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	焼土ブロックを多量に含む
P3	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	
SK1	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	焼土小ブロックを多量に含む、炭化物ブロックを微量含む

S155 施設断層表

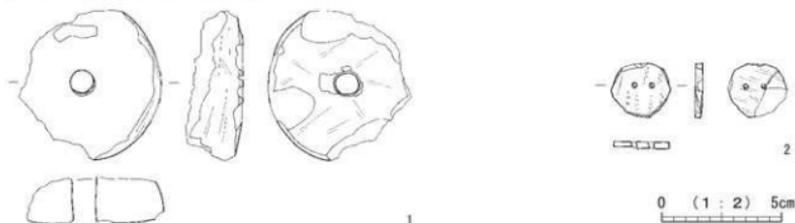
遺構名	平面図	縦断(cm)	深さ(cm)	備考	遺構名	平面図	縦断(cm)	深さ(cm)	備考
P1	円形	46 × 41	21		P3	円形	42 × 37	18.8	
P2	楕円形	53 × 43	17.2		SK1	不整形	71 × 43	21.3	



第 189 圖 SI55 竪穴住居跡出土遺物(1)

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真掲載
1	C-205	SI55	埴土	土師器	杯	14.5×10.8×3.0	11層部27F、体部一部磨耗、剥落	11層部一部0.18°	内面黒色処理	68
2	C-207	SI55	埴土	土師器	陶	(15.6)×9.0×6.5	11層部一部27F、底面0.9°	11層部一部0.18°	内面黒色処理	68
3	C-204	SI55	埴土	土師器	鉢	(27.5)×(12.0)×12.5	11層部一部0.18°、磨耗	11層部一部0.18°	内面黒色処理	68
4	C-206	SI55	埴土	土師器	鉢	(22.4)××(14.5)	11層部27F、胴部27F	11層部27F、胴部27F		68
5	E-043	SI55	埴土	土師器	杯	(14.0)×(8.0)×4.1	075調整、底面回転0度	075調整	内外面火焼痕	68
6	E-045	SI55	埴土	土師器	杯	(12.4)×(7.2)×3.9	075調整、底面回転0度	075調整	外面火焼痕	68
7	E-046	SI55	埴土	土師器	杯	(16.0)×(8.0)×5.1	075調整、底面回転0.9°→0.18°	075調整		68
8	E-047	SI55	1層	土師器	杯	(14.8)×(9.8)×3.2	075調整、底面0.1°	075調整		68
9	E-049	SI55	床面	土師器	杯	10.8×7.2×3.4	075調整、底面回転0度	075調整	底面×1層直	68
10	E-050	SI55	埴土	土師器	杯	×(8.4)×(1.9)	075調整、底面回転0度→外周0.9°	075調整		68
11	E-048	SI55	埴土	土師器	鉢	(26.4)××(12.8)	075調整	075調整	外面赤彩	68
12	E-044	SI55	埴土	土師器	盃	(9.5)××(4.9)	075調整	075調整	外面自然熱、厚張	69

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	備考				写真掲載
13	N-18	SI55	埴土	鉄製品	刀子	残存長4.0、幅0.6、厚0.4cm				69
14	N-19	SI55	埴土	鉄製品	鉄片	長6.2、幅0.8、厚5.3cm				69



第190図 SI55竪穴住居跡出土遺物(2)

図版番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ (cm)	重量(g)	石材	備考	写真掲載
1	K-025	SI55	埴土	3A	石製品	粘土板	—	6.4×5.8×2.3	54.66	凝灰岩	欠損品、最大径約6.5cm、穿孔径1.1cm	69
2	K-024	SI55	床面直	2B	石製品	石製物品	B11	2.2×2.4×0.3	2.44	緑泥片岩	欠損品、円形、穿孔径0.2cm、孔間隔0.5cm	69

SI56 竪穴住居跡(第191～192図)

[位置・確認面] 3A区北半部でカマド付近を中心に確認した。

[重複] 大部分をSI51、SI55に切られる。

[規模・形態] 北西から南東方向を主軸としており、規模は主軸方向で4.68m、主軸直行方向で4.5mである。平面形は隅円方形を呈する。

[方向] 主軸方位はN-46°-Wである。

[堆積土・構築土] 15層に分層した。1～5層は住居埋土で、床面上に堆積する4層には炭化物粒が混入している。6層は焼土・炭化物を多く含み、堆積状況から煙道天井部の崩落土と考えられる。7層は煙道内の埋土で、8～10層はカマド内部と焚き口付近に広がる灰と焼土の層である。12層はカマド構築土、11層は周溝内の埋土にあたり、13・15層は掘り方の埋土である。

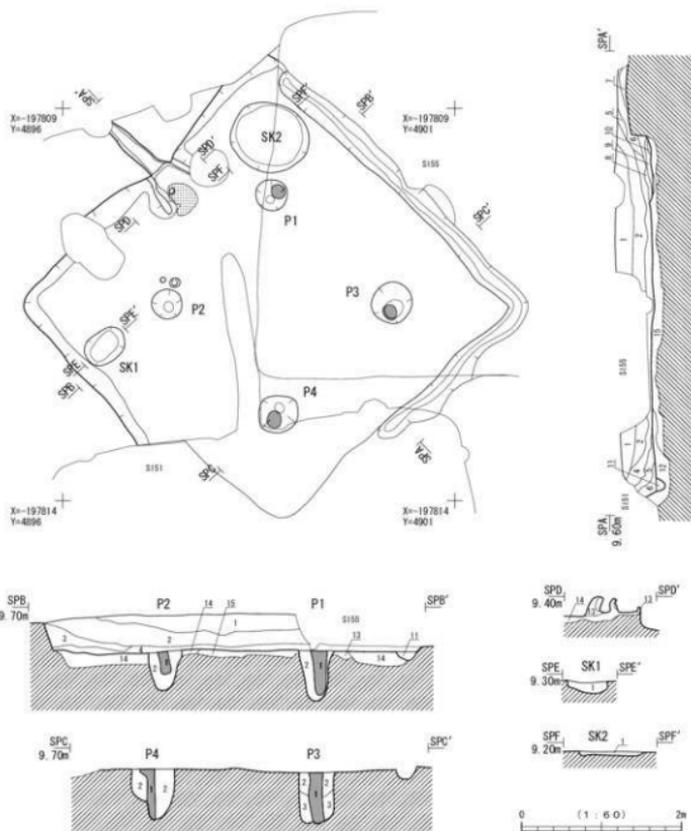
[壁面] IV層中を壁面としている。東側と南側は上面の遺構によって大きく攪乱されているが、西側と北側では33cm～45cmが残存する。残存部の立ち上がりはやや外反するが垂直に近い。

[床面] 14層上面を床面としている。

[柱穴] P1～P4を確認した。4基共に柱の痕跡が認められる。位置や形状などからも、主柱穴と考えられる。柱間は210cmで位置は住居の中央に寄っている。

[周溝] 東側から南側にかけて検出した。幅8cm～17cm、深さ10cm～15cmである。

[カマド・煙道] 北辺中央部に設けられる。袖は外側へわずかに開いており、右側内部には自然石を据えて支柱と



第191図 SI56竈穴住居跡

SI56 埋土目録表

部 位	層 位	土 色	土 質	備 考
埋 土	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	10YR2/4暗褐色シルトがまばらに混入、粒状炭化物が微量混入
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	10YR2/2黒褐色シルトがブロック状に混入、粒状焼土が微量混入
	3	10YR4/4 褐色	シルト	10YR3/4暗褐色シルト
	4	10YR2/4 暗褐色	シルト	10YR4/4がまばらに混入、粒状炭化物がやや混入
	5	10YR2/3 黒褐色	シルト	10YR4/3に多い黄褐色シルトが混入
カマド・煙道	6	10YR2/4 暗褐色	シルト	炭化物・焼土が小ブロック状に多数混入、煙道の天井が崩落したものと考えられる
	7	10YR4/4 褐色	シルト	10YR3/4暗褐色が部分的に混入
カマド	8	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土ブロックが多数混入、焼土ブロックの層
	9	10YR1/7 黄灰色	粘性シルト	灰の層、粒状焼土が微量混入
	10	10YR4/4 褐色	粘性シルト	灰が少し混入
増築	11	10YR3/4 暗褐色	シルト	±1.0m内の焼山ブロックを多量
掘り方	12	5YR3/6 暗赤褐色	砂質シルト	焼土基本層、13層
カマド・ソツア	13	10YR4/4 褐色	砂質シルト	焼山ブロック・焼土・炭化物ブロックを少量
	14	10YR4/4 褐色	砂質土	灰白色焼山ブロック土を多量含む
掘り方	15	10YR5/4 に近い黄褐色	砂質シルト	褐色砂質土ブロックを多く含む

S156 施設遺土目録表

部位	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR2.4 暗褐色	シルト	
	2	10YR4.4 褐色	砂質シルト	灰褐色シルトブロックを多量に含む
P2	1	10YR4.4 褐色	砂質シルト	
	2	10YR4.4 褐色	砂質シルト	灰褐色シルトブロックを多量に含む
P3	1	10YR2.4 暗褐色	シルト	
	2	10YR4.4 褐色	砂質シルト	
	3	10YR4.4 褐色	砂質シルト	灰褐色シルトブロックを多量に含む
P4	1	10YR2.4 暗褐色	シルト	
	2	10YR4.4 褐色	砂質シルト	灰褐色シルトブロックを多量に含む
SK1	1	10YR2.3 暗褐色	粘性シルト	地山ブロックを多く含む
SK2	1	10YR5.4 に近い黄褐色	砂質シルト	

S156 施設概観表

遺構名	平面図	規模(cm)	深さ(cm)	備考
P1	円形	44×40 柱礎跡18×18	58	
P2	円形	48×38 柱礎跡φ15	37	
P3	円形	53×49 柱礎跡21×18	59	

遺構名	平面図	規模(cm)	深さ(cm)	備考
P4	円形	52×50 柱礎跡22×19	44	
SK1	楕円形	54×40	66	
SK2	円形	95×89	13	



第192図 S156竪穴住居跡出土遺物



図例番号	登録番号	出土遺物	層位	種別	器種	1層×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備考	写尺 単位
1	E-051	S156	埋土	須恵器	杯	×9.8×(3.4)	0%調整、底部手持ち991°	0%調整		40

している。右側袖部が失われており全体の把握は難しいが、外幅90cm、奥行き78cmと推定される。煙道も先端部が失われているが、長さ77cmが残存し、幅は29cm、深さ9cm～17cmである。

[その他の施設] SK1・2を確認した。SK1は西壁沿いでP1、P2の延長線上に位置する楕円形の掘り込みで、SK2はカマド右側の壁沿いで検出された浅い落ち込みである。

[掘り方] 底面はほぼ平坦だが、カマドの周囲を残して縁辺部がやや低くなっている。

[出土遺物] 須恵器杯1点を掲載した。底部前面に手持ちヘラ削り調整が施される。

S157 竪穴住居跡(第193～194図)

[位置・確認面] 3A区北半部で確認した。

[重複] S151、S155に切られる。

[規模・形態] 北西から南東に主軸をとり、規模は、主軸方向4m、主軸直行方向で4.2mと正方形に近く、平面形は隅円方形を呈する。

[方向] 主軸方位はN-32°Wである。

[堆積土・構築土] 9層に分層した。1層は住居埋土、2層は周溝内の埋土である。堆積状況から、人為的な埋め戻しが行われた可能性も指摘できる。3・4層はカマド内の灰と焼土の層で、3層からは骨片も検出された。5層は貼床の層とも考えられる。6・7層はカマドの構築土、8・9層は掘り方の埋土で8層の床面付近はグライ化を起こしている。

[壁面] IV層中を壁面としており、壁高は東側と南側で20cm～21.5cm、北側と西側で14cm程度が残存しており、床面付近の立ち上がりは緩やかに広がる形を呈する。

[床面] グライ化した8層上面、あるいは地山ブロックで構成される5層を床面とする。床面上には柱穴が認められなかった。

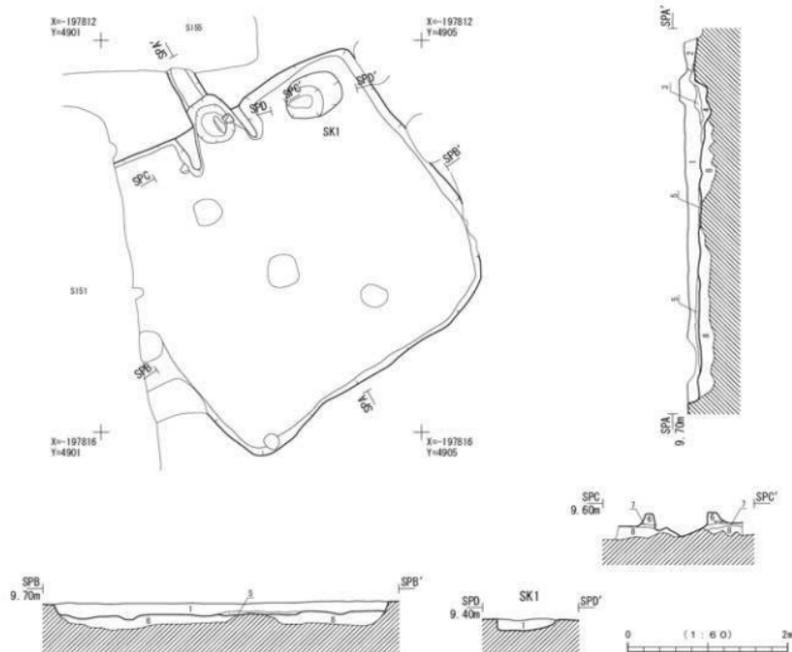
[カマド・煙道] 北辺中央部に設けられる。袖は北壁に対しほぼ直行する。外幅は110cm、奥行き75cmで、底

面は6cmから7cm程度窪んでおり、中央部に自然石を据えて支柱としている。煙道は先端部がSI55によって破壊されているが、長さ53cmが残存する。煙道の幅は32cm、深さ12.6cmである。

[その他の施設] カマドの右側、北東部コーナー付近で浅い掘り込みであるSK1を確認した。

[掘り方] 西側から東側に向かって舌状に掘り残して周辺部を掘込んでいる。底面の落差は7cm前後である。

[出土遺物] 土師器坏器3点、ミニチュア土器1点、甕2点、ロクロ土師器蓋1点、須恵器甕1点を掲載した。1は須恵器蓋模倣と考えられる。2は体部と底部の境目に段を持つ。7は口径が大きく、盤などの蓋と考えられる。



第193図 SI57竪穴住居跡

SI57 埋土柱記簿

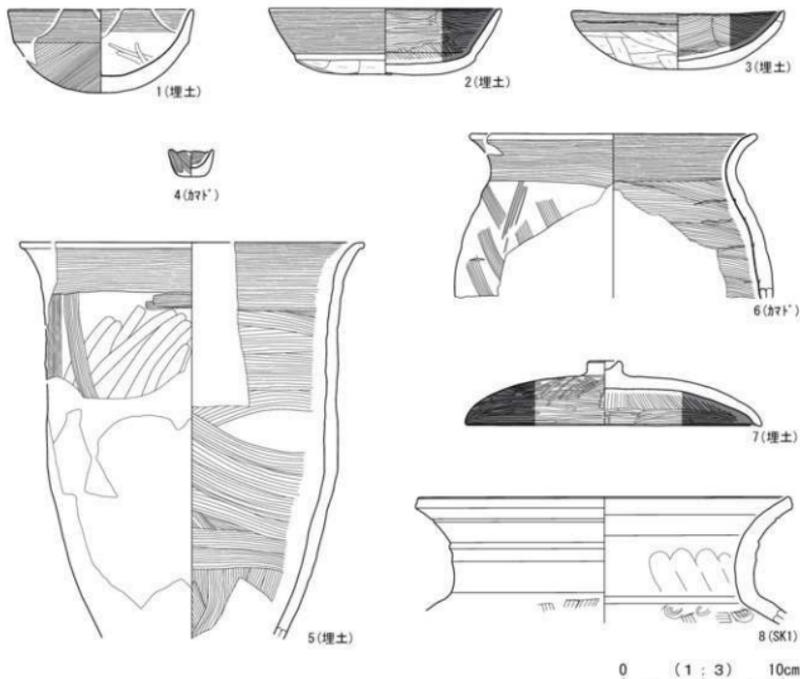
部位	層位	土色	土性	備考
埋土	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	地山微少ブロックを全体に少量含む、自然か人為か不明
カマド・煙道	2	10YR1/2 灰黄褐色	砂質シルト	φ3cm内の地山ブロックをやや多く含む
カマド	3	10YR1/3 に近い黄褐色	シルト	φ1cm程の地山ブロックを部、灰・骨片を含む
	4	10YR3/1 黄褐色	シルト	φ1cm程の地山ブロックを濃に含む
竪穴	5	10YR4/4 褐色	シルト	地山ブロックを少量含む
	6	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物・粘土粒を少量含む
カマド・ツタ	7	10YR2/3 黄褐色	シルト	炭化物を多量含む
	8	10YR4/1 黄褐色	シルト	地山ブロックを多く含む、床面層がライ化している(下段層と同一と見られるが床層の為)
掘り方	9	10YR3/3 暗褐色	シルト	地山ブロックを多量含む

SI57 施設埋土柱記簿

部位	層位	土色	土性	備考
SK1	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	φ3cm内の地山ブロック・炭化物・粘土ブロックを少量含む、人為埋土

S157 地誌報告表

遺構名	平面図	規模(cm)	深さ(cm)	備考
SK1	船形貯	71 × 56	19.8	



第194図 S157 竪穴住居跡出土遺物

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	類別	器種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真 掲載
1	C-309	S157	埋土	土師器	甕	(11.4) × × 5.3	1線部×2段、体部～底部×2	1線部×2段、体部～底部×1段、 磨光		69
2	C-211	S157	埋土	土師器	甕	(11.4) × × 4.2	1線部～体部×2段、底部×1段	1線部～底部×1段	内面黑色処理	69
3	C-215	S157	埋土	土師器	甕	13.2 × × 3.6	1線部×2段、体部～底部×1段	1線部～底部×1段	内面黑色処理	69
4	C-212	S157	8Y3	土師器	1段×1段	2.6 × 1.3 × 1.7	1線部～底部×1	1線部～底部×1		69
5	C-213	S157	埋土	土師器	甕	(21.6) × × (25.7)	1線部×2段、胴部×2	1線部×2段、胴部×2		69
6	C-214	S157	8Y3	土師器	甕	(17.8) × × (10.4)	1線部×2段、胴部×2、磨光	1線部×2段、胴部×2		69
7	C-216	S157	埋土	土師器	甕	18.3 × × 4.1	天草部～1線部×2段、4段×2段×2	天草部～1線部×2段	内外面黑色処理	69
8	E-052	S157	SK1	粗器器	甕	(22.8) × × (8.0)	0段調整、胴部平行細多目	0段調整、胴部×4段、青黒流文	内外面自然色	69

SI58 竪穴住居跡(第195～197図)

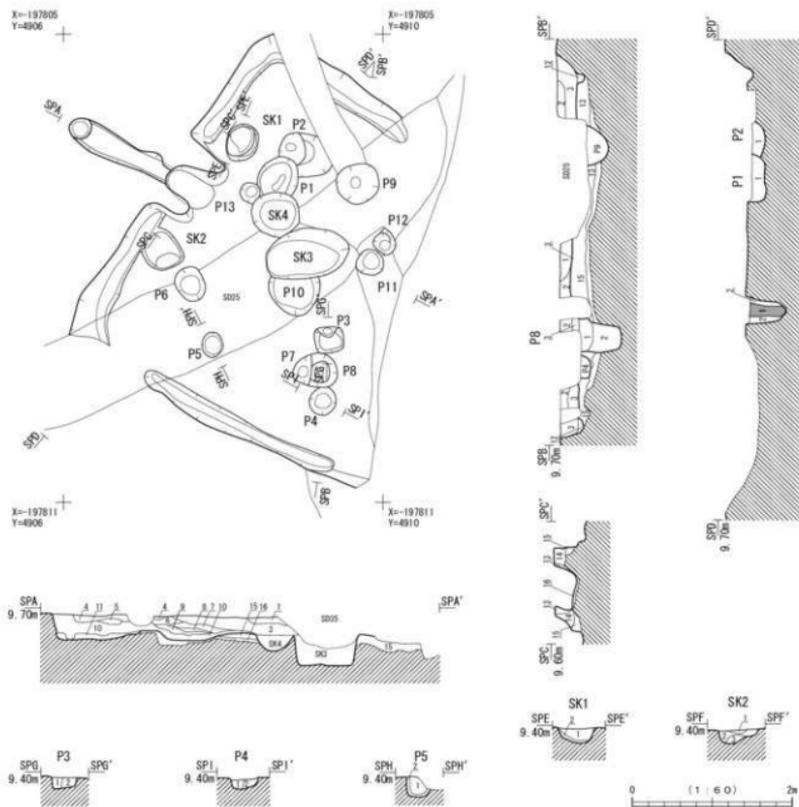
[位置・確認面] 3A区北半部、東側の攪乱沿いで住居の西半分を確認した。

[重複] SI59を切り。中央部をSD25によって切られる。

[規模・形態] 主軸を北西から南東にとる。南東部が失われた主軸方向は2.9mが残存し、主軸直行方向は4.6である。平面形は隅円方形を呈する。

[方向] 主軸方位はN-62°-Wである。

[堆積土・構築土] 16層に分層した。1～3層は住居埋土で、床面上の2層と3層には炭化物が混入している。4層は下面に被熱の痕跡を有しており、煙道の天井部分と考えられ、5層もこれに関連するものと推定できる。6～9層はカマド内および焚き口前面の灰や炭化物の層である。10・11層は煙道内部の埋土であり、12層は周溝内の埋土、13・14層はカマドの構築土にあたる。15・16層は掘り方の埋土である。



第195図 SI58竪穴住居跡

[壁面] IV層中を壁面としており、壁高は23cm～26cmが残存する。立ち上がりは緩やかに反外している。

[床面] 15層上部を床面とするものと考えられるが、SD25による視乱や、多数検出されたビット、土坑などにより、詳細な状況は不明である。

[柱穴] P1～P13を確認した。床面上から掘り込まれていることが明らかなのは、この内、P1～P6である。形状、位置関係から、P2、P6が主柱穴となる可能性がある。

[周溝] 基本的には検出された壁際を巡っているが、西壁の一部で途切れている可能性も指摘できる。幅は14cm～20cm、深さ10cm～11cmである。

[カマド・煙道] 西辺中央部に設けられる。袖は壁に対して直行している。外幅は94cm、奥行62cmで、底面は住居床面から10cm前後窪んでいる。煙道には天井部が残り、長さは88cmで、幅は25cm、深さは31cmを計る。煙道先端部はビット状に窪む。

S158 埋土柱状部

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
原土	1	10YR4/4 褐色	シルト	10YR4/3に近い黄褐色シルトが多めに混入
	2	10YR2/4 暗褐色	シルト	炭化物が散状に混入、10YR4/3に近い黄褐色がやや混入
	3	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物・焼土が散状に混入
カマド・煙道	4	10YR4/4 褐色	シルト	10YR3/3暗褐色シルトが混入、煙道の天井がそのまま残ったものと考えられる。下面は焼け土が露出に見られる
	5	10YR4/2 に近い黄褐色	シルト	10YR4/4褐色シルトがやや混入、炭化物が散状に混入
	6	10YR2/4 暗褐色	シルト	焼土がブロック状に混入、10YR4/3に近い黄褐色がやや混入
	7	10YR2/2 黒褐色	シルト	焼土がブロック状に混入、炭化物・灰が混入、焼土・炭化物・灰の層
カマド	8	10YR2/2 黒褐色	シルト	焼土・炭化物・灰が多数混入、炭化物が混入、特に焼土・炭化物が多く見られる層
	9	10YR2/2 黒褐色	シルト	焼土・炭化物・灰の層
カマド・煙道	10	10YR2/2 暗褐色	シルト	炭化物が多数混入、煙道部分では下面に多く焼土が見られる
	11	10YR4/4 褐色	シルト	炭化物がブロック状にやや混入
	12	10YR2/4 暗褐色	シルト	粒状炭化物がやや混入
周溝	13	10YR2/2 暗褐色	シルト	焼土・炭化物を多く含む
	14	10YR2/2 に近い黄褐色	シルト	0.5cm内の焼土・炭化物ブロックを少量混
掘り方	15	10YR4/4 褐色	シルト	焼土ブロックを少量含む、ブライ土を層状にはきむ
	16	10YR2/4 暗褐色	シルト	炭化物・焼土・炭化物を少量混

S159 施設埋土柱状部

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
P1	1	10YR2/4 暗褐色	シルト	焼土・炭化物がやや混入
	2	10YR2/4 暗褐色	シルト	焼土・炭化物がやや混入、10YR4/4褐色がやや混入
P3	1	10YR2/2 暗褐色	シルト	10YR4/4褐色が散状に混入、柱脚
	2	10YR2/4 暗褐色	シルト	10YR4/4褐色が散状に混入、粒状炭化物が少し混入
P4	1	10YR2/4 暗褐色	シルト	炭化物・焼土が散状にやや混入、柱脚
	2	10YR4/4 褐色	シルト	10YR2/3暗褐色が混入
P5	1	10YR2/2 暗褐色	シルト	粒状炭化物が少し混入
	2	10YR2/4 暗褐色	シルト	10YR2/3暗褐色が混入
P6	1	10YR2/4 暗褐色	シルト	焼土・炭化物が散状に混入、住居の主柱穴跡
	2	10YR4/4 褐色	シルト	炭化物・焼土が散状に混入
P7	-	-	-	-
P8	1	10YR4/4 褐色	シルト	焼土・炭化物を微量含む
P9	1	10YR4/4 褐色	シルト	丁寧に焼土・炭化物を少量含む
P10	1	10YR2/4 暗褐色	シルト	焼土が小ブロック状に混入、写真あり
P11	1	10YR2/4 暗褐色	シルト	焼土が小ブロック状に混入、日記のみ
P12	1	10YR2/2 暗褐色	シルト	焼土が少し混入、日記のみ
P13	1	10YR2/4 暗褐色	シルト	焼土の小ブロックが混入、粒状炭化物が混入、日記のみ
SK1	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物・灰・焼土の層、カマド内の埋土層と考えられる
	2	10YR2/2 暗褐色	シルト	焼土・炭化物がやや混入
SK2	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	焼土・炭化物・灰の層
	2	10YR2/2 暗褐色	シルト	焼土・炭化物がやや混入する
SK3	3	10YR4/4 褐色	シルト	焼土がブロック状に混入、炭化物がやや混入、カマド内の埋土層多数
	4	10YR4/2 に近い黄褐色	シルト	0.5cm内の焼土・炭化物ブロックを多く含む
SK4	-	-	-	-

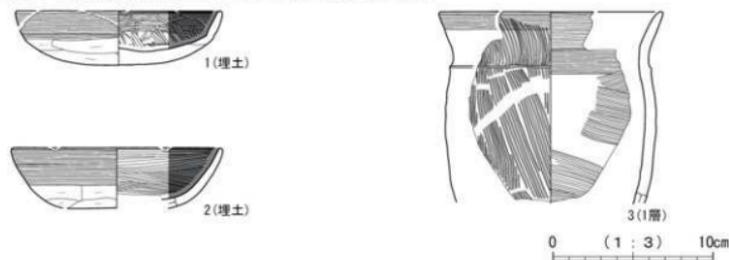
S159 施設埋土柱状部

遺構名	平面図	規模(cm)	深さ(cm)	備 考	遺構名	平面図	規模(cm)	深さ(cm)	備 考
P1	地円形	60 × 48	26		P8	地円形	44 × 34	42	
P2	小整形	70 × 54	47		P9	円形	54 × 52	16	
P3	方形	44 × 34	18		P10	円形	60 × 48	18	
		柱脚跡φ15			P11	円形	34 × 32	30	
P4	円形	36 × 30	14		P12	不整形	32 × 28	21	
		柱脚跡φ17			P13	円形	24 × 24	13	
P5	円形	30 × 28	26		SK1	地円形	48 × 40	20	
P6	地円形	44 × 36	47		SK2	地円形	50 × 40	19	
		柱脚跡φ18			SK3	地円形	130 × 62	28	
P7	小整形	34 × 22	17		SK4	円形	60 × 58	25	

[その他の施設] SK1～SK4を確認した。SK1とSK2は、それぞれカマダの左右、壁沿いに位置し、特にSK2にはカマダの灰や炭化物の廃棄が認められた。SK3・SK4は上部をSD25によって攪乱されており、帰属は不明である。SK3には焼土・炭化物が多く含まれる。

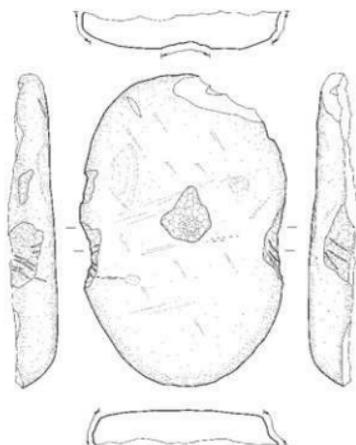
[掘り方] 底面は南側がやや低くなっているが、詳細は不明。落差は6cm前後である。P7、P8、P11、P12は掘り方底面からの検出である。

[出土遺物] 土師器環2点、甕1点、石鉢1点を掲載した。1は体部と底部の境目に稜を有し、やや外傾して口唇部に至る。2は平底状の底部から緩やかに外傾して口唇部に至る。



第196図 SI58 竪穴住居跡出土遺物(1)

図録番号	発掘番号	出土遺物	層位	種別	器種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真掲載
1	C-218	SE8	埋土	土師器	環	(12.8) × × 3.4	1) 縁部377F, 体部-底部777X9	1) 縁部377F, 体部-底部777E1	内面黑色地層	70
2	C-219	SE8	埋土	土師器	環	(13.0) × × (3.9)	1) 縁部-体部377F, 底部777X9	1) 縁部-底部777E1	内面黑色地層	70
3	C-217	SE8	1層	土師器	甕	(13.7) × × (12.2)	1) 縁部777F, 胴部777F	1) 縁部377F, 胴部777F		70



第197図 SI58 竪穴住居跡出土遺物(2)

図録番号	発掘番号	出土地点	層位	地区	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真掲載
1	K-6405	SE8	埋土	3A	石製品	石鉢	—	13.3 × 6.3 × 1.7	126.00	瀬河岩	欠部品、粘り付、西一層(卑)深さ(浅)、炭(軽)1箇南(程度(優))、原軸に二次加工あり	70

S159 竪穴住居跡(第198～199図)

[位置・確認面] 3A区北半部、東側の掘削沿いで確認した。

[重複] S158に切られる。

[規模・形態] 南北に主軸をとり、一辺が3.5mの隅門正方形を呈する。

[方向] カマドの主軸方位はN-17°-Wを指す。

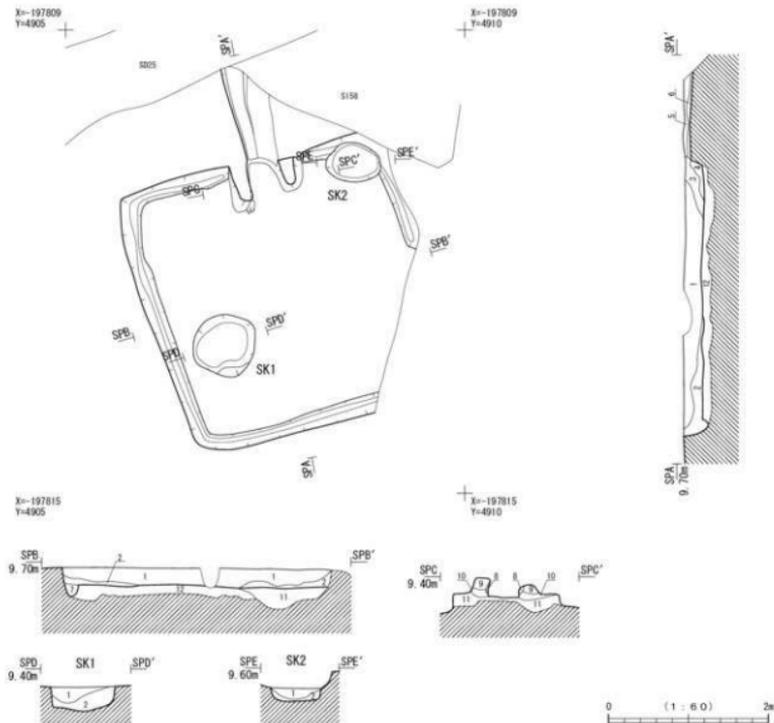
[堆積土・構築土] 12層に分层した。住居埋土にあたる1～5層の堆積状況から、人為的な埋め戻しが行われた可能性が高い。5・6層はカマド煙道内の埋土だが、6層については天井部分の崩落土と考えられる。7層は周溝内の埋土で、8～10層はカマドの構築土、11・12層は掘り方の埋土である。

[壁面] IV層中を壁面としており、壁高は21.2cm～23cmが残存する。床面付近の立ち上がりは垂直に近い。

[床面] 11・12層上面を床面とする。床面上に柱穴は認められなかった。

[周溝] カマドを除く、残存部の壁際を全周している。幅10cm～18cm、深さ8cm～13cmである。

[カマド・煙道] 北辺中央部に設けられており、両袖は北壁に対して直行している。外幅90cm、奥行50cmで、底面と住居床面に高低差は無い。煙道は先端部がSD25に東側が小溝による攪乱を受けており、長さ140cm、幅



第198図 S159竪穴住居跡

21.2cmが残存する。底面は水平になるものとみられ、深さは8cm程度である。

[その他の施設] SK1は西壁沿いで検出された円形の掘り込みで、SK2は北東コーナー部で周溝を切る形で検出されたSK1同様の掘り込みである。

[掘り方] 西側の底面がやや低くなっている他、東側にもピット状の落ち込みが存在する。

[出土遺物] 土師器甕1点を掲載した。口唇部が緩やかに外傾する長胴甕である。

S159 埋土目録表

部位	層位	土色	土性	備考
埋土	1	10YR3/3 暗褐色 10YR4/4 褐色	砂質シルト	φ5cm内のブロックによる炭台層・人為埋土の可能性強い
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	地山ブロックを密に含む、人為埋土の可能性強い
	3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	φ2cm内の地山ブロックを多量含む、人為埋土の可能性強い
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	地山小ブロック・炭化物等を少量含む、人為埋土の可能性強い
オマド・溝道	5	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土ブロックを少量含む
	6	10YR3/3 暗褐色	シルト	天石前高燐土ブロックを一部層状にはさむ
陶溝	7	10YR3/3 暗褐色	シルト	地山ブロックを多量含む
	8	7.5YR4/6 暗褐色	砂質シルト	焼土の層
オマド・ツツ	9	10YR4/4 褐色	砂質シルト	10YR2-3暗褐色シルトが小ブロック状に混入
	10	10YR3/4 暗褐色	シルト	10YR2-3暗褐色シルトが小ブロック状に混入
掘り方	11	10YR3/4 暗褐色	シルト	地山ブロックを多量含む
	12	10YR4/4 褐色	砂質シルト	10YR4/3に近い黄褐色砂質シルトを少し含む

S159 施設埋土目録表

部位	層位	土色	土性	備考
SK1	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	φ2cm内の地山ブロックを多量に含む
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	φ2cm内の地山ブロックを密に含む・人為的に埋められたもの
SK2	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	地山ブロックを多量に含む
	2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	地山ブロック等を人為的に埋められた

S159 施設概要表

遺構名	平面図	規模(cm)	深さ(cm)	備考	遺構名	平面図	規模(cm)	深さ(cm)	備考
SK1	円形	80×80	33		SK2	楕円形	68×50	11	



1(床面)

0 (1:3) 10cm

第199図 S159竪穴住居跡出土遺物

図録番号	発掘番号	出土遺物	層位	種類	器類	1/10×直径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真掲載
1	C-23	S159	床面	土師器	甕	(18.2) × × (14.0)	口縁部2ツツ、胴部0.4	口縁部2ツツ、胴部0.4		70

S160 竪穴住居跡(第200～202図)

[位置・確認面] 3A区北半部で確認された。

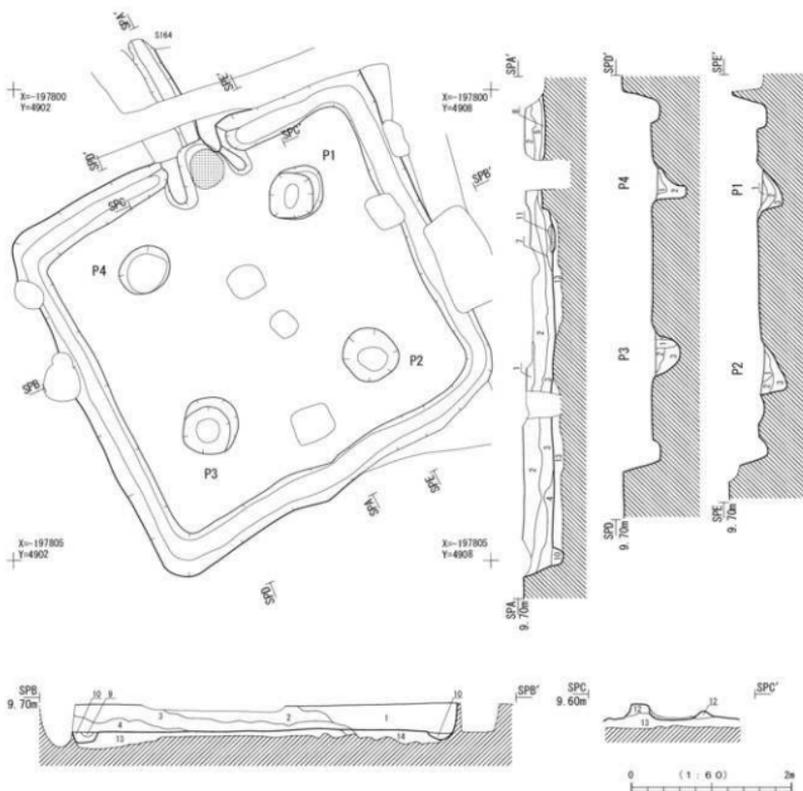
[重複] S168を切る。

[規模・形態] 主軸を概ね南北にとり、一边が4.3mの隅門正方形を呈する。

[方向] 主軸方位はN-30°-Wである。

[堆積土・構築土] 14層に分層した。1～4層は住居埋土である。壁際に認められる4層には炭化物が混入しており、2層の堆積は煙道内部にまで至っている。全体に地山をブロック状に含んでおり、人為的な埋め戻しが行われた可能性が高い。5～8層はカマド内および煙道の埋土、あるいは崩落土である。9・10層は周溝内の埋土にあたり、9層は壁材の痕跡とも考えられる。11層はカマド底面の被熱部位で、12層はカマドの構築土、13・14層は掘り方の埋土である。

[壁面] IV層中およびS168の埋土を壁面としており、壁高は32.5cm～37.5cmが残存する。立ち上がりは垂直に



第200図 S160竪穴住居跡

近い。

[床面] 13層上面を床面とする。

[柱穴] P1～P4を確認した。形状および位置関係から主柱穴と考えられる。周溝からはほぼ90cm内側に位置し、柱間は210cmである。

[周溝] カマド部分を除き、壁際を全周している。幅は比較的大きく25cm～30cmで、深さは12.6cm～15.6cmである。

[カマド・煙道] 北辺中央部に設けられており、軸はハの字状に開く形を呈する。外幅113cm、奥行き63cmで底面が僅かに窪んでいる。煙道は先端部をSI 64によって破壊され、西側も乱れを受けているが、長さ150cm、幅30cmが残存する。底面は水平で、深さ23.9cmを計る。

[掘り方] 底面は概ね平坦ではあるが、北東コーナー付近を残して縁辺部が低くなっている。落差は最大でも8cm前後である。

[出土遺物] 須恵器壺1点、土鍾1点、砥石1点を掲載した。1は肩部の沈線間に波状文を施した長頸瓶であろう。

S160 埋土目録表

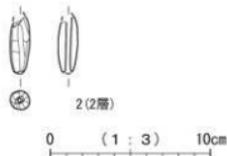
部位	層位	土色	土性	備考
埋土	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	φ3cm内の地山ブロックを多量含む、黒褐色シルトブロックを少量含む
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	φ1cm内の地山ブロックを細に含む
	3	10YR4/2 に近い黄褐色	シルト	φ3cm内の地山ブロックを細に含む
	4	10YR4/4 褐色	砂質シルト	炭化物粒を少量含む
カマド	5	10YR4/2 に近い黄褐色	砂質シルト	炭化物粒を少量含む
	6	7.5YR3/4 暗褐色	砂質シルト	φ4cmの焼土ブロックを少量に含む
	7	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭少焼土粒を少量に含む
	8	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物ブロックを少量に含む
四溝	9	10YR4/4 褐色	砂質シルト	地山ブロックを少量含む
	10	10YR4/6 褐色	砂質シルト	φ2cm内の地山ブロックを細に含む
カマド	11	2.5YR3/4 暗赤褐色	焼成土	
	12	10YR1/2 灰黄褐色	シルト	10YR5/4層状に混入、焼土粒・炭化物粒を混入
掘り方	14	10YR2/3 黒褐色	砂質シルト	ベルト東側で溝の埋土をまきあげているため、10YR2/3黒褐色がブロック状に混入している

S160 陥跡埋土目録表

部位	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物粒を少量含む
	2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	地山ブロック多量、黒褐色シルトブロック少量含む
	3	10YR4/2 に近い黄褐色	砂質シルト	地山ブロック多量含む
P2	1	10YR4/2 に近い黄褐色	粘性シルト	
	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質土	に近い黄褐色粘土ブロックを少量含む
	3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	に近い黄褐色粘土ブロックを少量含む
P3	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	に近い黄褐色シルトブロックを少量含む
	2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	に近い黄褐色シルトブロックを少量含む
	3	10YR4/2 に近い黄褐色	砂質シルト	暗褐色シルトブロックを少量含む
P4	1	10YR4/4 褐色	シルト	※P6は全て断面はゆるみかたで浅いもの 抜き取りのある可能性
	2	10YR4/2 に近い黄褐色	砂質シルト	灰白色シルトブロックを含む

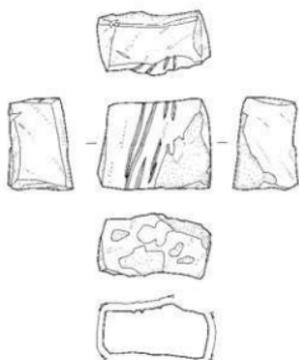
S160 陥跡観察表

遺構名	平面図	規模(cm)	深さ(cm)	備考	遺構名	平面図	規模(cm)	深さ(cm)	備考
P1	方形	68×67	30.9		P3	円形	80×72	37.3	
P2	方形	68×67	31.7		P4	陥凹形	67×56	43.3	



第201図 SI60 竪穴住居跡出土遺物(1)

図録番号	出土遺構	層位	種別	器種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真掲載
1	E-053	S160	2層	須恵器壺	φ × φ (L)	①調整、胴部彫刻波状文	②調整		70
図録番号	出土遺構	層位	種別	器種	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	備考	写真掲載	
2	P-35	S160	2層	土鍾	(L)×(W)×(T)	5.3	ナシ、赤彩	70	



0 (1:2) 5cm

第202図 SI60竪穴住居跡出土遺物(2)

図版番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種類	部 種	分類	長さ×幅×厚さ (mm)	重量(g)	石 材	備 考	写真 掲載
1	K4027	SR6	Ⅲ土	3A	石製品	砥石	ⅡB2	3.8×4.7×2.6	75.77	硬砂岩	定形品、磨面あり、孔状、穿孔、磨痕あり、自然磨あり	70

SI61 竪穴住居跡(第203～204図)

〔位置・確認面〕 3A区北端付近、東側の掘乱沿いで住居の西側半分を確認した。

〔規模・形態〕 規模は、主軸方向が6mで、主軸直行方向は4.4mが残存する。平面形は隅円方形を呈するものと考えられる。

〔方向〕 カマドは、ほぼ真北N-8°-Wを向く。

〔堆積土・構築土〕 14層に分層した。1～3層は住居埋土である。層中には、焼土・炭化物粒が含まれており、堆積状況からも、人為的な埋め戻しが行われた可能性が高い。4～7層はカマド内および煙道内の埋土で、下面に被熱の痕跡を有する4層はカマド天井部の崩落土と考えられる。8層は周溝内の埋土で、9層はカマド底面の被熱部位である。10～11層はカマドの構築土で、13・14層は掘り方の埋め土である。

〔壁面〕 IV層中を壁面としており、壁高は北壁側で24.4cm、西壁と南壁では34.8～36.7cmが残存する。立ち上がりは床面付近から外反している。

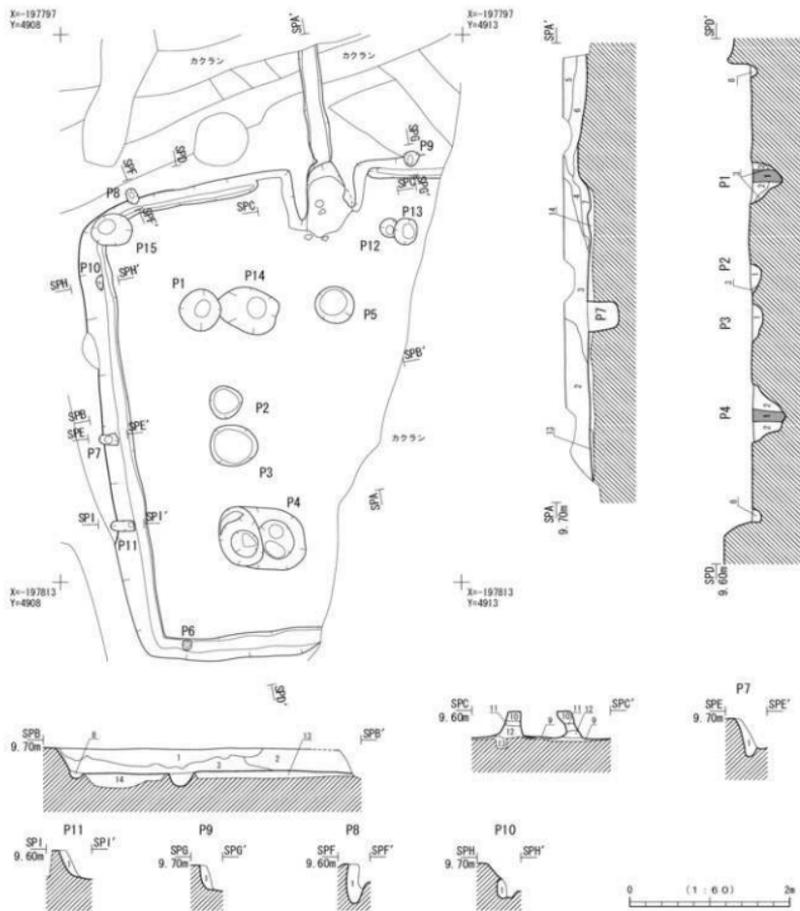
〔床面〕 13層上面を床面とする。

〔柱穴〕 P1～P15を確認した。P1、P14、P4が住居西側の主柱穴にあたるものと考えられる。P4は東西2つの柱穴が切り合っており、P14とP4東側、P1とP4西側をそれぞれ新旧の柱穴とする形で建て替えが行われている可能性もある。南北の柱間は約3mである。P1、P4には柱の痕跡も認められる。P6～P11は周溝の壁際底面から検出されており、壁柱穴と考えられる。P2、P3、P5からは焼土・炭化物が検出された。

〔周溝〕 カマドの左袖からやや離れている他は、残存部の壁際を通して確認された。底面に柱穴を有する。幅は10cm～25cmで、深さは西側で浅く5.6cm、南北では9.1cm～16.2cmである。

〔カマド・煙道〕 北辺中央部に設けられており、袖は北壁に対して直行する。外幅100cm、奥行き73cmで底面がわずかに窪んでいる。煙道は先端部が掘乱によって失われており、長さ157cmが残存する。幅は26cmで、底面は先端部へ向けてやや低くなるものとみられ、深さは概ね16.2cmである。

〔掘り方〕 東半分が失われているが、底面は東西の縁辺部が10cm程度低くなるものと考えられる。P4付近の床



第203図 SI61 竪穴住居跡

面下からはビット状の掘り込みも検出された。

[出土遺物] 土師器坏2点、鉢5点、須恵器坏1点、壺1点、土製品は紡錘車1点、支脚1点、鉄製品は刀子1点、棒状鉄製品1点を掲載した。1は、体部と底部の境目に稜を持ち、外傾し、口唇部先端で僅かに内傾する。3の小型の鉢は、台状の底部を持ち、7は無頸壺とも考えられるが、内面黒色処理とヘラミガキ調整である事から、これも小型の鉢とした。8は、底部回転系切り後未調整で、器形からも8世紀中頃まで下がる。9は長頸壺の下半部と思われる。

S61 埋土柱記録

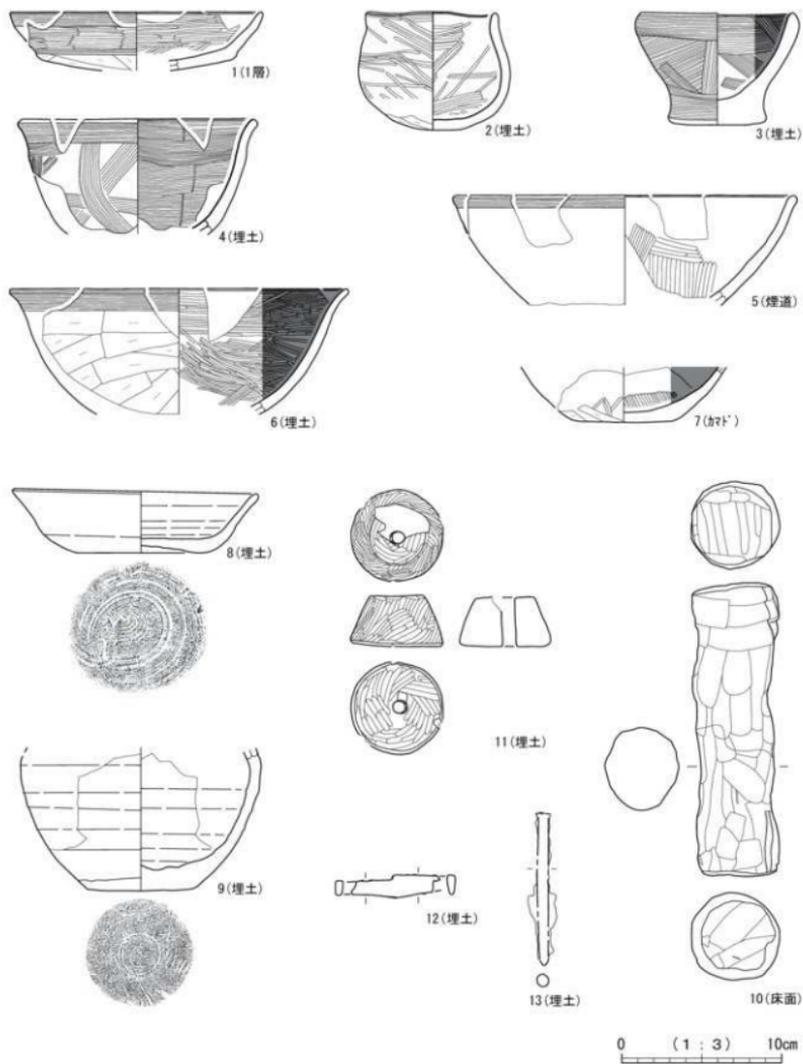
部位	層位	土色	土性	備考
埋土	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	粒状の焼土・炭化物が混入、層の下部に炭化物の層が見られる。人為的に埋められた層と考えられる
	2	10YR2/4 暗褐色	シルト	10YR4/3シルトが多めに混入しているところと、少なめに混入しているところがはっきりとはしないが層状に見られる
	3	10YR2/4 暗褐色	シルト	粒状炭化物がやや混入
	4	10YR1/3 に近い黄褐色	シルト	10YR3/4シルトがやや混入、層の下部に焼土が層状にある。カマドの天井部分の崩落土と考えられることができる
カマド	5	10YR2/4 暗褐色	シルト	焼土プロット粒状炭化物が混入、壁面の天井部の土に混入土が混入したものと考えられる
	6	10YR1/3 に近い黄褐色	シルト	焼土が多少混入しているが、壁面の崩落が2度程度起こったと考えられることができる
	7	10YR2/4 暗褐色	粘質シルト	焼土プロット・炭化物・6の層、生活時に堆積した層と考えられる
	8	10YR2/2 黒褐色	シルト	10YR4/4シルトが混入
カマド	9	5YR2/4 暗赤褐色	焼土層	2.5YR4/6焼土層
	10	10YR1/3 に近い黄褐色	シルト	
カマドノソテ	11	5YR2/3 暗赤褐色	シルト	2.5YR4/6焼土粒混
	12	10YR2/3 暗褐色		10YR4/3プロット混
	13	10YR2/3 暗褐色		10YR5/4プロット混
掘り方	14	2.5Y2/2 黒褐色	シルト	炭化物粒混、層の埋土をまきあげている

S61 施設埋土柱記録

部位	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR2/3 暗褐色	シルト	炭化物がやや混入
	2	10YR2/4 暗褐色	シルト	炭化物・焼土がやや混入、10YR4/4暗褐色が混入
	3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	10YR2/4シルトが混入
P2	1	10YR4/4 褐色	シルト	焼土プロットが混入、10YR2/2暗褐色が混入、炭化物が粒状に混入
	2	10YR2/3 暗褐色	シルト	
P3	1	10YR2/3 暗褐色	シルト	10YR4/3砂質シルトが混入、焼土炭化物がプロット状に混入
P4	1	10YR2/3 暗褐色	シルト	粒状炭化物が多量に混入、焼土が粒状に少し混入
	2	10YR2/4 暗褐色	シルト	焼土炭化物がやや混入、10YR4/3シルトがプロット状に混入
P5	1	10YR1/3 に近い黄褐色	砂質シルト	焼土プロット混入
P6	1	10YR2/3 暗褐色	シルト	両面の片
P7	1	10YR2/3 暗褐色	シルト	炭化物がやや混入
P8	1	10YR2/4 暗褐色	シルト	焼土がやや混入
P9	1			
P10	1	10YR1/4 暗褐色	砂質シルト	
P11	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	10YR2/3暗褐色シルトがやや混入
P12	1			
P13	1			
P14	1	10YR2/3 暗褐色	シルト	焼土プロットが混入
P15	1	10YR2/3 暗褐色	シルト	

S61 施設断面表

遺構名	平面図	幅長(cm)	深さ(cm)	備考	遺構名	平面図	幅長(cm)	深さ(cm)	備考	
P1	円形	54 × 52	41.8		P7	(兼) 楕円形	13 × (25)	47.8		
		柱礎跡 16 × 16		P8	楕円形		21 × 18		53.8	
				P9	円形		20 × 18		59.8	
P2	円形	41 × 41	15.5		P10	(兼) 円形	(50) × (19)	17.1		
		39 × 51		13.9	P11		(兼) 楕円形		62 × 18	35.2
P4	楕円形	47 × 55	42.7		P12	(兼) 円形	23 × (18)	6.3		
		579 × 60		42.5	P13		円形		34 × 28	8.4
		柱礎跡 17 × 17			P14		楕円形		80 × 59	31
					P15		楕円形		32 × 41	13.8
P5	円形	48 × 48	38							
P6	楕円形	13 × 11	53.8							



第204図 S161 竪穴住居跡出土遺物

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	口径×底径×高さ(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真掲載	
	1	C-222	SB61	1層	土師器	坏	(15.8) × × (3.7)	1) 縁部→FF、体部→1F、底部→2F	1) 縁部→底部→1F		70
	7	C-229	SB61	埋土	土師器	鉢	× 6.0 × (3.5)	体部器托、底部→2F	底部→2F		70
	3	C-224	SB61	埋土	土師器	鉢	(9.4) × 6.0 × 7.1	1) 縁部→FF、体部→底部→FF	1) 縁部→FF →FF、体部→底部→FF		70
	4	C-227	SB61	埋土	土師器	鉢	(14.5) × × (7.3)	1) 縁部→FF、胴部→FF	1) 縁部→FF、胴部→FF		70
	5	C-226	SB61	埋土	土師器	碗	(21.0) × × (7.0)	1) 縁部器托、体部器托	体部→1F		70
	6	C-223	SB61	埋土	土師器	碗	(21.0) × × (6.0)	1) 縁部→FF、体部→底部→2F	1) 縁部→底部→1F		70
	2	C-223	SB61	4層	土師器	鉢	8.0 × × 7.5	1) 縁部→体部→1F、底部→2F	1) 縁部→FF、体部→底部→1F		70
	8	E-055	SB61	埋土	灰磁器	坏	15.2 × 8.2 × 4.0	070調整、底部回転→2F	070調整		70
	9	E-054	SB61	埋土	灰磁器	壺	× 6.6 × (6.0)	070調整、底部回転→2F	070調整		70
図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	備考		写真掲載	
	10	P-37	SB61	床面	土製品	支脚	18.7 × 14.7	630.6	ナデ、底面ケズリ、上半分無垢		70
	11	P-36	SB61	埋土	土製品	網鉢	径5.8×厚3.3×孔径1.0	36.0	1F、茶色		70
図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	備考				写真掲載	
	12	N-20	SB61	埋土	鉄製品	刀子	片刃、残存長5.1、幅1.5、厚0.5cm				70
	13	N-21	SB61	埋土	鉄製品	釘	長9.7、径0.9cm				70

SI62 竪穴住居跡(第205～207図)

[位置・確認面] 3A区北半で確認した。

[重複] SI55に切れ、SI68を切る。

[規模・形態] 北西から南東に主軸をとり、規模は主軸方向が4.1m、主軸直行方向が4.88mで、平面形は主軸直行方向がやや大きい隅円方形を呈する。

[方向] 主軸方位はN-35°-Wである。

[堆積土・構築土] 19層に分層した。1～4層が住居埋土である。全体に炭化物粒を含む。炭化物は特に3層の上位で顕著に認められた。5層から12層は、カマドおよび煙道内の埋土にあたり、6・7層は天井部の崩落土と考えられる。13層は周溝内の埋土であり、14～16層は、カマドの構築土、17～19層は、掘り方の埋土にあたる。

[壁面] IV層およびSI68の埋土を壁面としており、比較的状态がよく、壁高は29cm～45cmが残存する。立ち上がりの床面付近はやや外反しているが、20cm前後より上は垂直に近くなる。北側と東側では立ち上がりの中腹から大きく外側へ開く形となっている。

[床面] 18層上面を床面としており、カマド右側の床面上からは土器が検出された。

[柱穴] P1～P4を確認した。位置関係と形状から、主柱穴と考えられる。柱間は広く、主軸方向で約240cm、主軸直行方向で約350cmで、全体的にコーナー近くに位置している。

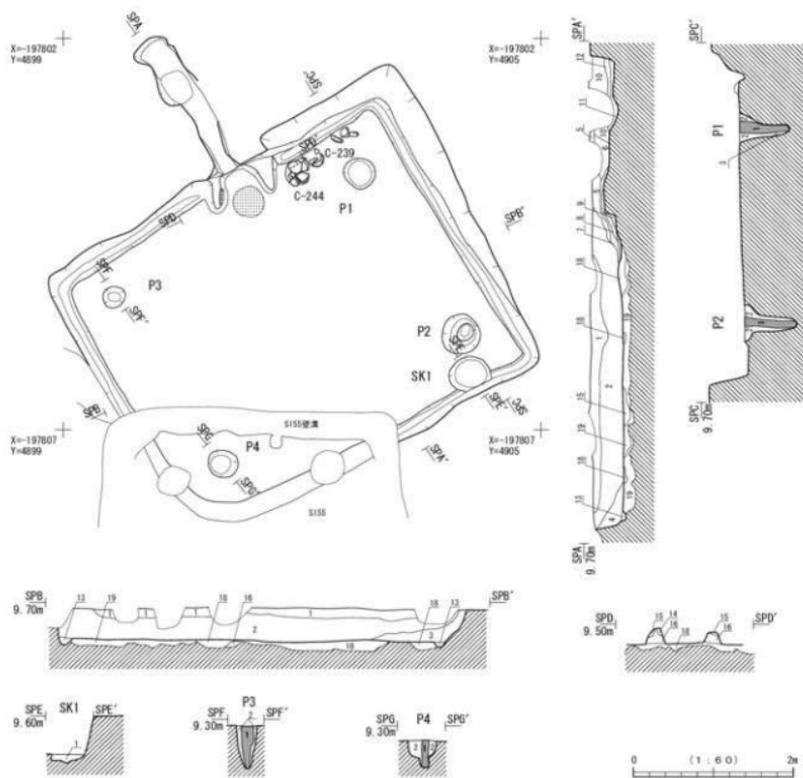
[周溝] 壁際を全周しているものと考えられる。幅は9cm～17cm、深さは全体に浅く、3cm～9cmである。

[カマド・煙道] 北辺の中央よりやや東側に設けられている。両袖は、わずかに内湾しており、やや右側の方が大きい。外幅111cmで奥行は65cm、燃焼部底面はわずかに窪んでいる。煙道は長さ196cm、幅27cmで、底面は先端部にかけて低くなっており、深さ13cm～30cmを計る。

[その他の施設] 南壁沿いで確認したSK1は、埋土中に炭化物を含む浅い掘り込みである。

[掘り方] 底面は概ね平坦だが、南東コーナー付近が低くなっており、北西コーナー部にはビット状の掘り込みも認められる。

[出土遺物] 土師器坏5点、甕4点、須恵器坏1点、蓋1点、壺1点を掲載した。1は平底状の底部から外傾する箱型の小型の坏。2・5は体部と底部の境目に弱く屈曲を持つ。3は関東系土師器であろう。7・8は長胴甕である。10は丸底状の底部から外傾し、体部中央で弱く屈曲し口唇部に至る。11はカエリが退化した後、垂下し始めている。12は、高台を有する事、また大ききから短頸壺と考えられる。



第205図 SI62 竪穴住居跡

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
埋土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	軟灰炭化物・焼土が少し混入
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	10YR4/4 粘質シルトをアロックス状に含む。軟灰炭化物が少し混入
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	層の上部に灰の層あり。軟灰炭化物・焼土がやや多い
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	軟灰炭化物がやや混入
	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR4/4 が少し混入
カマド	6	10YR2/3 黒褐色	シルト	焼土ブロックが多く混入。軟灰炭化物が少し混入。煙道天井の崩落土と考えられる
	7	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック炭化物が多量混入。カマド煙道の天井の崩落土と考えられる
	8	10YR3/1 黒褐色	シルト	灰の層。焼土ブロックが多量混入
	9	10YR2/3 黒褐色	シルト	焼土ブロック。炭化物が混入
	10	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土ブロックがまばらに混入
	11	10YR2/1 黒色	粘質シルト	焼土ブロック炭化物の層。焼1面及び焼土の崩落と見られる
	12	10YR4/4 褐色	シルト	炭化物がやや混入。カマド・煙道ともに天井部分は崩落したものと考えられる
煙道	13	10YR3/3 暗褐色	シルト	10YR4/4シルトがやや混入
	14	7.5YR3/4 暗褐色	シルト	焼土・基本層16層
カマド・アツア	15	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土・炭化物ブロックを少量
	16	10YR4/4 褐色	砂質シルト	焼土ブロックを密。軟状少量
	17	7.5YR3/4 暗褐色	シルト	焼土
掘り方	18	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土ブロックを多量含む
	19	10YR4/2 に近い黄褐色	砂質シルト	ブロックを密

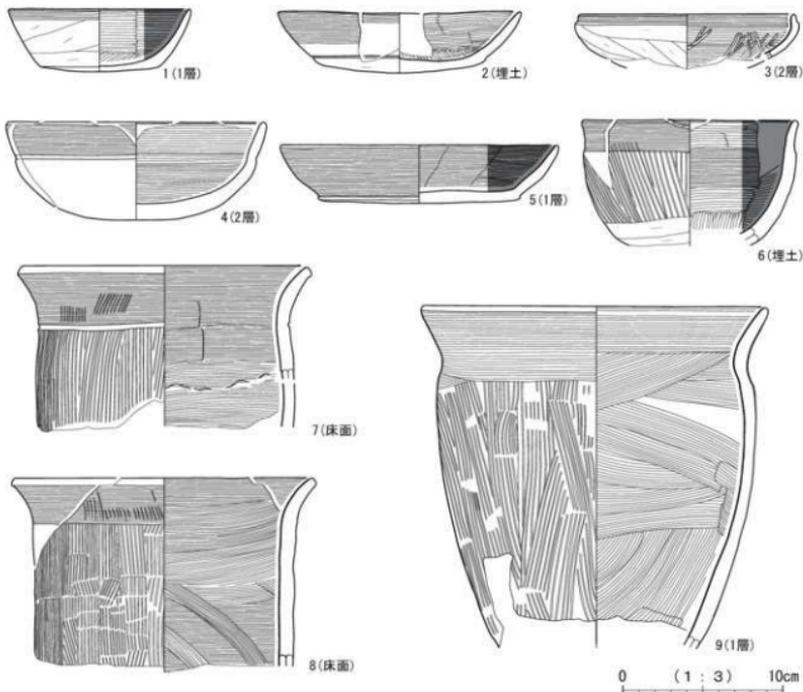
S162 施設遺土目録表

部位	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/3 暗褐色	粘性シルト	粒状炭化物・焼土が混入、土がスカスカ(空堀)のところがあるところあり
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	10YR4/3に多い黄褐色シルトが混入、粒状炭化物が少し混入
	3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	
P2	1	10YR2/2 黒褐色	粘性シルト	粒状炭化物・焼土が混入
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	10YR4/4褐色シルトが小アロク状に混入
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘質シルト	少量に強い粘土
	2	10YR4/4 褐色	シルト	10YR3/3暗褐色が少し混入
P4	1	10YR2/2 黒褐色	粘性シルト	炭化物・ブロックを少量含む
	2	10YR4/6 褐色	砂質シルト	
SK1	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	粒状炭化物が混入、粒状焼土が少し混入

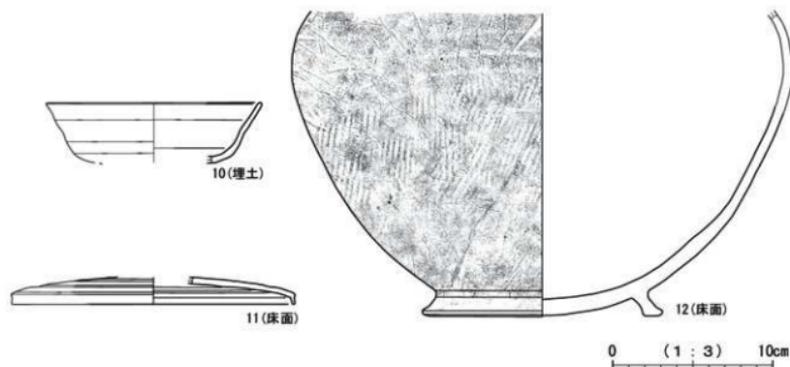
S162 施設観察表

遺構名	平面図	規模(cm)	深さ(cm)	備考
P1	円形	80 × 39	69	
P2	円形	68 × 48 柱間幅 15 × 12	74	
P3	円形	29 × 26 柱間幅 15	55	

遺構名	平面図	規模(cm)	深さ(cm)	備考
P4	楕円形	37 × 37	56	
SK1	楕円形	51 × 38	15	



第206図 S162竪穴住居跡出土遺物(1)



第207図 SI62 竪穴住居跡出土遺物(2)

図号 番号	登録番号	出土遺物	層位	種別	器種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真 掲載
1	C-235	S82	1層	土師器	杯	11.4×7.0×4.0	11層部29F、体部～底部29E'9	11層部～底部29E'8	内面黒色処理	71
2	C-236	S82	埋土	土師器	杯	(35.0)××3.9	11層部29F、体部磨光、底部29E'9	11層部～底部29E'8		71
3	C-237	S82	2層	土師器	杯	(14.0)××(1.5)	11層部29F、体部～底部29E'9	11層部29F、体部29F'→29E'8		71
4	C-238	S82	2層	土師器	杯	(16.0)××6.2	11層部29F、体部～底部磨光	11層部29F、体部～底部29F'		71
5	C-240	S82	1層	土師器	杯	17.4×12.6×3.7	11層部～体部29F、底部29E'9	11層部29F'～底部29E'8	内面黒色処理	71
6	C-234	S82	埋土	土師器	埴	(13.2)××8.0	11層部29F、体部29A、底部29E'9	11層部29F'、体部29F'→29E'8、底部29E'8	内外面黒色処理	71
7	C-229	S82	床面	土師器	甕	18.4××(10.4)	11層部29F、製部29F	11層部29F、製部29F'		71
8	C-244	S82	床面	土師器	甕	(19.0)××(12.3)	11層部29F、製部29F	11層部29F、製部29F'		71
9	C-243	S82	1層	土師器	甕	(21.9)××(21.8)	11層部29F、製部29F	11層部29F、製部29F'		71
10	E-066	S82	埋土	須恵器	杯	(13.4)××(4.8)	20F調整	20F調整	外面一部自然釉	71
11	E-067	S82	床面	須恵器	蓋	(17.6)××(1.8)	20F調整、天井部刷毛29E'9、重ね焼き	20F調整	外面一部自然釉	71
12	E-068	S82	床面	須恵器	竈	×(15.0)×(19.4)	20F調整、製部平行印3目、底面刷毛29E'9、刷毛高付	20F調整、製部2F平部調整	内面塗付者、製部塗	71

SI63 竪穴住居跡(第208～210図)

[位置・確認図] 3A区北端付近、調査区西壁沿いで住居の東半分を検出した。北西コーナー付近は調査範囲外となった。床面下からも柱穴が検出されており、拡張に伴う建て替えが行われた可能性が高い。

[規模・形態] 主軸を東西にとり、規模は主軸方向で5.12m、直行方向が5.36mで、平面形は隅円方形を呈する。

[方向] 主軸方位はN-78°-Wである。

[堆積土・構築土] 25層に分層した。1～6層は住居埋土であり、全体に炭化物を含んでいる。7～16層はカマドおよび煙道内の埋土である。7層は煙道の天井部分、8・9層は崩落したカマドの天井と考えられ、11層も煙道内部の崩落土とみられる。12層はカマド内の灰と炭化物の層である。13層は床面下に落ち込む焼土・炭化物の層で、カマドが造り替えられているものとも推測できる。17層は周溝内の埋め土、18・19層は、カマドの構築土にあたる。20～25層は床面下に位置する掘り方の埋土であるが、上部を20層によって削平される形となる22～24層までの堆積は住居の南側のみ認められ、拡張前の住居の埋土にあたるものと考えられる。

[壁面] N層中を壁面としており、壁高は22.9cm～37.3cmが残存する。立ち上がりは、やや外反する形を呈する。

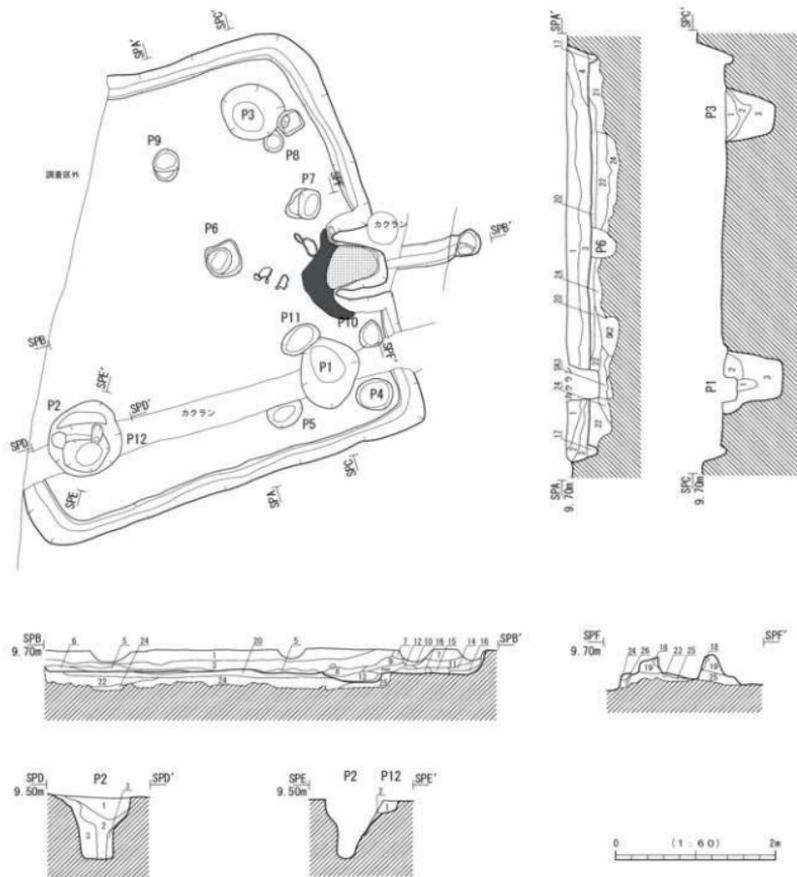
[床面] 20層上面を床面とする。拡張前の床面については、建て替えに伴って除去されている。

[柱穴] 床面上よりP1～P12を、床面下からはP13～P19を確認した。形状、位置関係から、P1、P2あるいはP12、P3が建て替え後の主柱穴とみられる。位置は全体にコーナー付近に寄っており、柱間は330cmとなる。

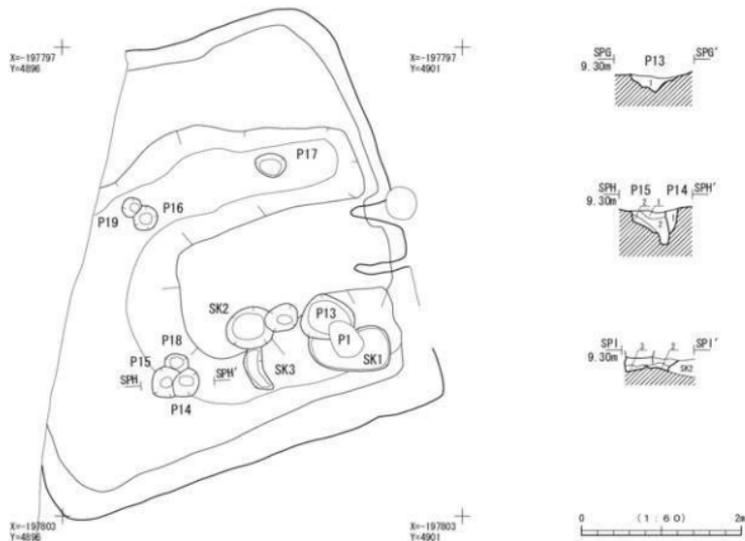
床面下検出のピットの内、建て替え前の主柱穴にはP13、P14・15・18、P16・19、P17があたるものと考えられる。これらは、掘り方底面で認められた窪みの内側に位置し、柱間は210cmとなる。これらの位置関係から、当住居の建て替えは南東コーナーを軸とし、北方向と西方向へ向かって拡張を行ったものと推定することができる。

[周溝] 検出部では、拡張後の壁際をほぼ全周している。幅15cm～16cm、深さ7.8cm～11.3cmである。

[カマド・煙道] 東辺中央よりやや南側に寄った位置に設けられている。両袖は東壁に対して直行しており、左側の先端部には平板に加工した石が認められた。焚き口を構成していた一部と思われる。外幅110cm、奥行き65cmで、燃焼部底面は床面から7～8cm窪んでおり、被熱が非常に顕著で、前底部にも焼土が分布している。煙道の



第208図 SI63 竪穴住居跡(1)



第209図 SI63竪穴住居跡(2)

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考	
埋土	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	10YR4/4砂質シルトが混入、粒状炭化物がやや混入、10YR2/3シルトがやや混入、部分的に粒状機土が混入	
	2	10YR2/4 暗褐色	シルト	10YR4/4砂質シルトが全体的に粒状に混入、炭化物や粒状にやや混入	
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	粒状炭化物が多数混入、機土がやや混入、10YR4/4砂質シルトが粒状にやや混入	
	4	10YR3/4 暗褐色	シルト		
	5	10YR2/3 暗褐色	シルト	炭化物が多数混入	
	6	10YR3/2 暗褐色	シルト	10YR4/4が粒状に少し混入	
カマド・煙道	7	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	10YR3/3がやや混入、煙道の天井部分と考えられる	
	8	10YR3/4 暗褐色	シルト	粒状炭化物・機土が少し混入	
	9	10YR2/3 暗褐色	シルト	機土ブロックが多数混入、炭化物が混入、カマドの天井部分の焼け面が露出したものと考えられる	
	10	10YR3/4 暗褐色	シルト	機土ブロック・炭化物が混入	
	11	10YR3/3 暗褐色	シルト	壁の上面に焼け面あり、トンネルの天井部分の内壁が露出したものと考えられる、機土も少し混入	
	12	10YR2/3 暗褐色	シルト	機土ブロックが多数混入、粒状炭化物が混入、灰の層、生活時の堆積と考えられる	
	13	10YR3/4 暗褐色	シルト	機土ブロックが多数混入、炭化物が混入、古いカマドの底面にはられた層と考えられる	
	14	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物の層、10YR2/3シルトが粒状に混入	
	15	10YR3/4 暗褐色	シルト	10YR2/1シルトが粒状に混入	
	16	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	粒状に炭化物が混入	
	17	10YR3/3 暗褐色	シルト	粒状炭化物がやや混入	
	カマド・ツツ	18	5YR3/6 暗赤褐色	シルト	機土の層、カマド内の熱の影響による
		19	10YR4/6 褐色	シルト	まがりのないきれいな土
		20	10YR2/3 暗褐色	シルト	10YR4/4シルトがまばらに混入
	掘り方	21	10YR4/6 褐色	砂質シルト	10YR2/4シルトが少し混入
22		10YR4/4 褐色	シルト	10YR3/3シルトがブロック状に混入、粒状の機土が少し混入	
23		10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物の層、機土ブロックがまばらに混入	
24		10YR4/6 褐色	シルト	10YR3/3が部分的に少し混入	
25		10YR4/4 褐色	シルト		

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
P1	1	10YR4/4 褐色	シルト	10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトがまばらに混入
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	粒状機土・炭化物がやや混入
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	粒状機土・炭化物が少し混入、10YR4/3シルトがまばらに混入
P2	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	粒状に炭化物が少し混入、10YR4/4砂質シルトが粒状に少し混入
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	10YR2/2暗褐色シルトがブロック状に少し混入
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	10YR3/3暗褐色砂質シルトがやや混入

S63 焼土層土層記述②

部位	層位	土色	土性	備考
P3	1	10YR2/4 暗褐色	シルト	
	2	10YR2/1 黒色	粘性シルト	10YR2/4シルトがブロック状に混入、焼土がやや混入、炭化物の層
	3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	10YR4/3に濃い黄褐色がまばらに混入
P4	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土ブロックが混入、粒状炭化物が混入、ゆるやかなくぼみに上の土が混入したよう
P5	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	粒状の焼土・炭化物が多数混入、灰の層
P6	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	10YR4/3砂質シルトがブロック状に混入、焼土・炭化物が散在して混入
P7	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	10YR4/4褐色細山ブロックが混入、粒状焼土・炭化物がやや混入、ゆるやかなくぼみに混入したよう
P8	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	焼土・炭化物が多数混入、ゆるやかなくぼみに混入
P9	1	10YR2/3 暗褐色	シルト	粒状炭化物がやや混入
P10	1	10YR4/4 褐色	シルト	炭化物・焼土がやや混入、ゆるやかなくぼみに混入
P11	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	炭化物・焼土がやや混入、ゆるやかなくぼみに混入
	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	10YR3/3暗褐色シルトがブロック状に混入
P12	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂	
P13	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	粒状炭化物が少し混入
P14	1	10YR3/3 に濃い黄褐色	シルト	10YR3/4暗褐色砂質シルトが混入
	1	10YR3/3 に濃い黄褐色	シルト	10YR4/4褐色シルトがブロック状に混入
P15	2	10YR2/4 暗褐色	シルト	粒状の焼土・炭化物が少し混入
	3	10YR4/6 褐色	シルト	10YR3/4暗褐色が一部分に混入
P16	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	地色がまばらに混入
P17	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	10YR3/4暗褐色がまばらに混入
P18	-	-	-	-
P19	-	-	-	-
SK1	1	10YR4/3 に濃い黄褐色	砂質シルト	粒状炭化物が少し混入
	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土・炭化物が多数混入
SK2	1	10YR3/3 に濃い黄褐色	シルト	10YR3/3暗褐色がまばらに混入
	2	10YR2/3 暗褐色	シルト	焼土・炭化物が混入
SK3	3	10YR4/4 褐色	シルト	
	3	10YR4/4 褐色	シルト	

S63 焼土層断面

遺構名	平面図	規模(cm)	深さ(cm)	備考	遺構名	平面図	規模(cm)	深さ(cm)	備考
P1	(横)楕円形	85 × 70	73		P12	(横)楕円形	23 × 14	8.6	
P2	円形	95 × 92	75.1		P13	(横)楕円形	65 × 45	22.7	
P3	円形	78 × 70	66.6		P14	楕円形	36 × 32	52.4	
P4	円形	47 × 41	14.9		P15	(横)円形	40 × 36	29.3	
P5	(横)楕円形	45 × 40	17.7		P16	円形	31 × 30	46.6	
P6	方形	44 × 44	28.3		P17	楕円形	20 × 20	29	
P7	方形	38 × 38	14.5		P18	(横)円形	30 × 23	43.1	
P8	楕円形	25 × 25	6.3		P19	(横)円形	25 × 25	28.4	
P9	楕円形	41 × 32	14.4		SK1	(横)方形	102 × 56	15	
P10	楕円形	34 × 30	11.5		SK2	円形	57 × 53	19.4	
P11	楕円形	50 × 31	13.5		SK3	不整形	57 × 23	5.2	

長さは120cm、幅は35cmである。底面はほぼ水平、深さは24.4cmを計る。煙道の先端は平面35cm × 30cm、深さ23.3cmのピット状に窪む。

[その他の施設] SK1～3は、いずれも床面下から検出された焼土・炭化物を含む掘り込みである。

[掘り方] カマドの前面を長方形に掘り残す他、北側が一段高くなっている事が認められた。段差は主軸に平行しており、拡張に伴う建て替えの痕跡と考えられる。

[出土遺物] 土師器坏3点、壺1点、甕1点、瓶1点、須恵器甕1点、土製紡錘車1点を掲載した。1・2は底部と体部の境目に段を持ち、3は体部と口縁の境目に段を持つ。4の小型短頸壺は、内面に丁寧なヘラミガキが施される。6は、多孔の瓶の底部である。

SI64 竅穴住居跡(第211～214図)

[位置・確認面] 3A区北端部で確認した。

[重複] SI72を切り、SI77に切られる。

[規模・形態] 南北を主軸としており、一辺が5.2m～5.3mの正方形に近い隅円方形を呈する。

[方向] 主軸方位はN-18°-Wである。

[堆積土・構築土] 17層に分層した。1～6層は住居埋土である。全体に焼土・炭化物を含んでおり、4層については、煙道がSI77に破壊された際の崩落土と考えられる。堆積状況から人為的な埋戻しが行われた可能性を指摘できる。7・8層は、カマド底面の焼土と炭化物の堆積である。9～12層は周溝内の埋土であり、10層は壁材の

痕跡と考えられる。13・14層はカマド内部の被熱部位、15・16層はカマド構築土にあたる。17層は掘り方の埋土である。

[壁面] IV層およびSI72の埋土を壁面としており、壁高は17.2cm～26.1cmが残存する。立ち上がりは垂直に近い。

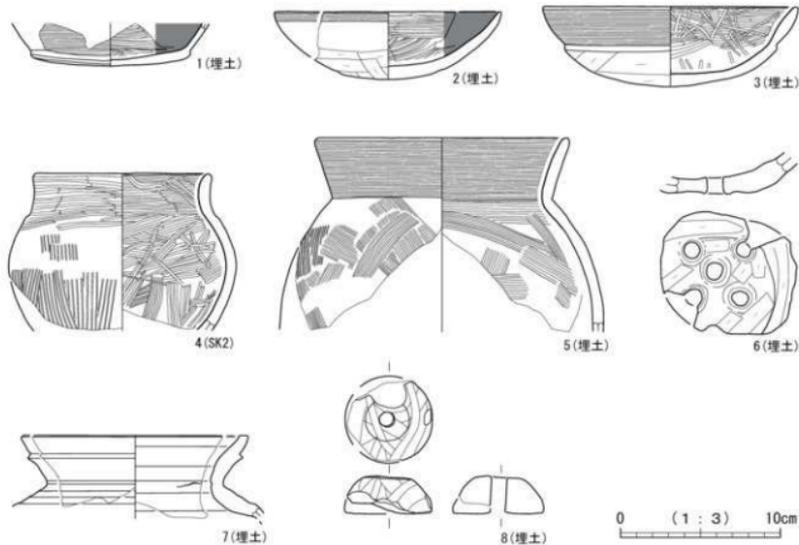
[床面] 17層上面を床面とする。床面上には土器・石などが多く認められた。

[柱穴] P1～P4を確認した。位置関係と形状から、主柱穴と考えられ、P3、P4からは柱の痕跡が検出されている。柱間は約300cmで、全体的な位置はコーナー付近に寄っている。また、各柱穴の埋土上層からは、複数の石が検出された。

[周溝] 壁際を全周している。幅15cm～20cm、深さ5.4cm～12.6cmを計る。

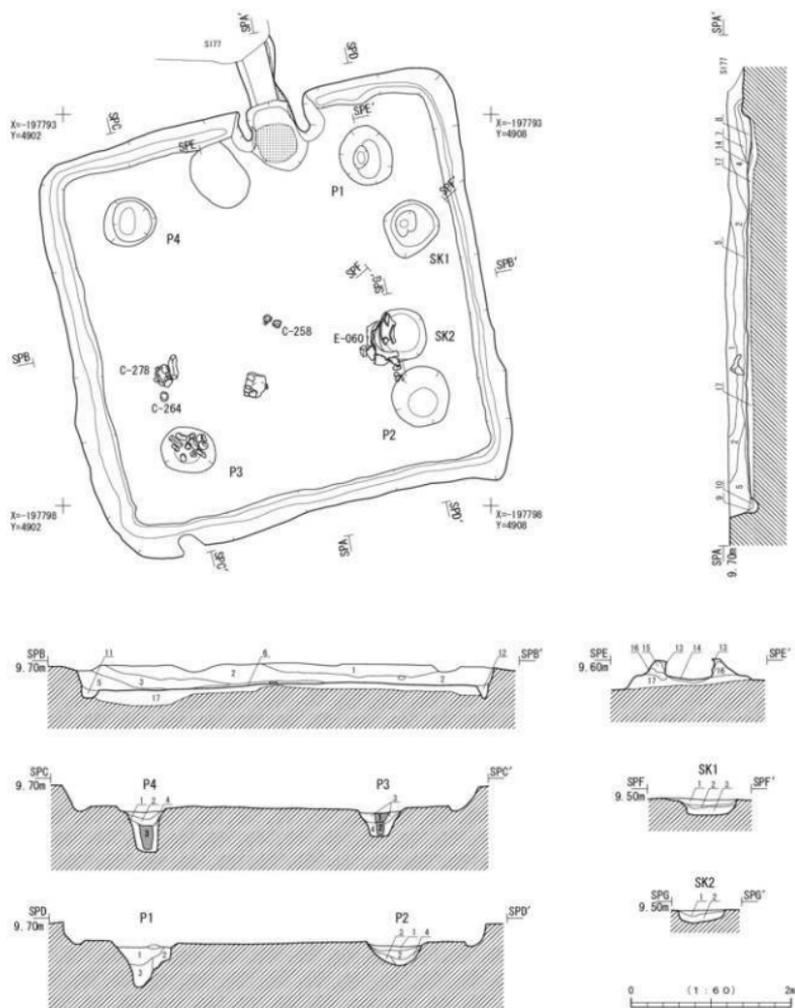
[カマド・煙道] 北辺中央部よりやや東よりに設けられている。両袖は、北壁に直行し、右側がやや大きい。外幅120cm、奥行き55cm、で顕著に被熱する底面は、住居床面より6～7cm程度窪んでいる。煙道はSI77によって先端部を破壊されており、長さ68cmが残存する。幅は47cmで東側の壁面は被熱痕跡が顕著である。深さは22.7cmを計る。

[その他の施設] 住居東側でSK1とSK2を検出した。共に内部からは焼土・炭化物が検出されている。SK2直上



第210図 SI63竪穴住居跡出土遺物

図号 番号	登録番号	出土遺物	層位	種別	器種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真 掲載
1	C-245	SK3	埋土	土師器	杯	×10.0×(2.7)	体部PPF, 底部PPC	体部～底部PP	内面黒色処理	72
2	C-249	SK3	埋土	土師器	杯	(14.2)×6.0×4.2	1)体部PPF, 体部PPC, 体部PPC, 体部PPC	1)体部～底部PP	内面黒色処理	72
3	C-250	SK3	埋土	土師器	杯	16.0××5.1	1)体部PPF, 体部PPC	1)体部～底部PP	内面黒色処理	72
4	C-253	SK3	SK2	土師器	壺	(10.8)××(10.0)	1)体部PP, 胴部PP	1)体部PP, 胴部PP		72
5	C-251	SK3	埋土	土師器	梁	(16.0)××(12.2)	1)体部PP, 胴部PP	1)体部PP, 胴部PP		72
6	C-246	SK3	埋土	土師器	壺	×××(2.6)	底部PPC	底部PPC	多孔	72
7	E-059	SK3	埋土	土師器	甕	(14.0)××(6.3)	PP調整	PP調整	内外面自然色	72
図号 番号	登録番号	出土遺物	層位	種別	器種	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	備考	写真 掲載	
8	P-38	SK3	埋土	土製品	紡錘車	(17.5)×厚2.3×口径1.0	30.7	ナナ	72	



第211图 SI64竖穴住居跡

からは須恵器が出土した。

[掘り方] カマドの右側から住居中央部を残し、周辺部を大きく掘り込んでいる。底面の比高差は15cm前後である。

[出土遺物] 土師器坏12点、埴4点、甕4点、鉢1点、ミニチュア土器1点、蓋1点、須恵器坏2点、壺1点、土鍾1点、鉄滓1点が出土した。1は丸底から緩やかに立ち上がり、口唇部の先端で直立する。4～8・10・14・15は平底状の底部である。16は小型の片口鉢である。18は高台付きの埴か。内面は黒色処理後、非常に丁寧なヘラミガキが施されている。24は、ロクロ土師器で盤や皿の蓋であろう。25は底部突出型の高台付きの坏身である。

S164 埋土柱記表

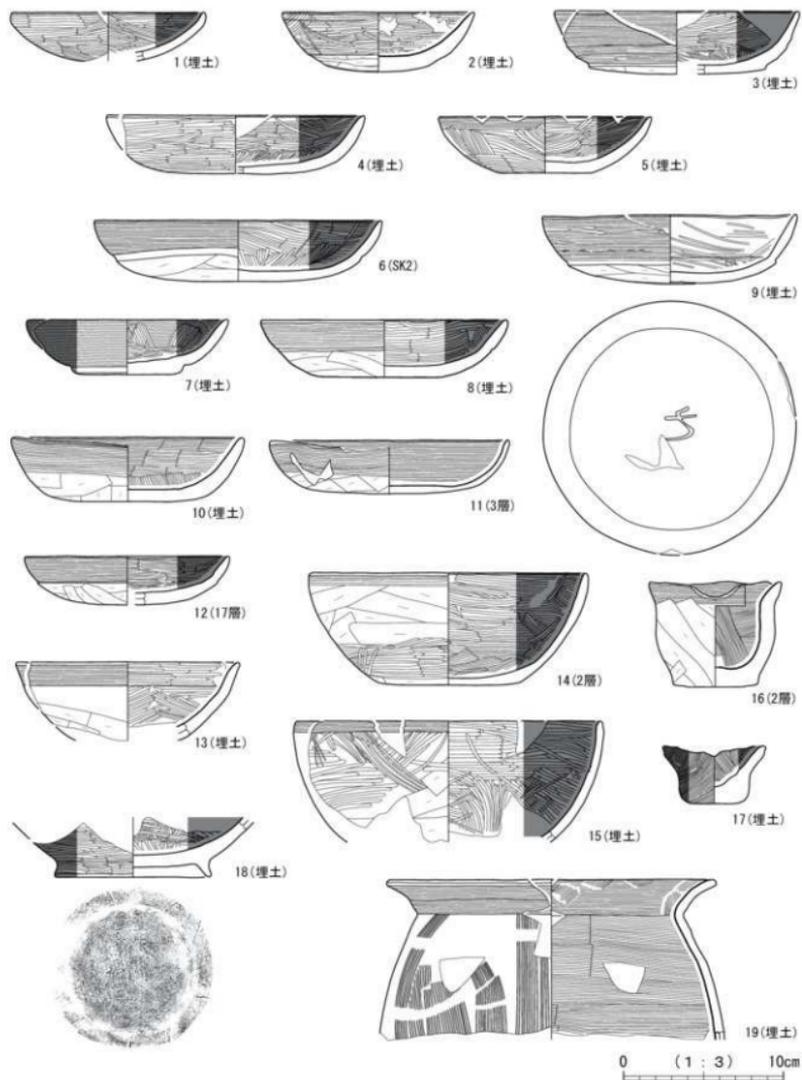
部 位	層 位	土 色	土 質	備 考
埋土	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	φ10cm内の炭化物・焼土ブロックを少量含む、東ベクト中にはやや大きめの焼土ブロックが下部に層状になって埋まっている
	2	10YR3/3 に近い黄褐色	砂質シルト	φ10cm内の炭化物・焼土ブロックを少量含む
	3	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	φ10cm内の炭化物・焼土ブロックをやや多く、焼土ブロックを少量含む
	4	10YR3/4 暗褐色	シルト	下面に厚さ15cm程度の天舟磁器あり
	5	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物・焼土粒を少量含む
	6	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	
カマド	7	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	φ10cm内の焼土ブロックや多く、炭化物物を少量含む
	8	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	φ10cm内の焼土ブロックを多量、炭化物物を少量含む
四溝	9	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質土	暗褐色シルトブロックを含む
	10	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	灰褐色・地山小ブロックを少量
	11	10YR3/2 灰黄褐色	砂質シルト	焼土ブロックを少量
	12	10YR4/4 褐色	砂質シルト	
カマド	13	2.5YR4/4 に近い赤褐色	焼成研出面	
	14	2.5YR3/3 暗赤褐色	焼成面	
カマド・ソテ	15	2.5YR4/2 灰赤色		
	16	10YR5/4 に近い黄褐色	砂質シルト	10YR4/2ブロック混
掘り方	17	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	10YR5/4ブロック層炭化物混、西壁で下層の埋土(10YR3/2暗褐色)をまきあげている

S164 施設埋土柱記表

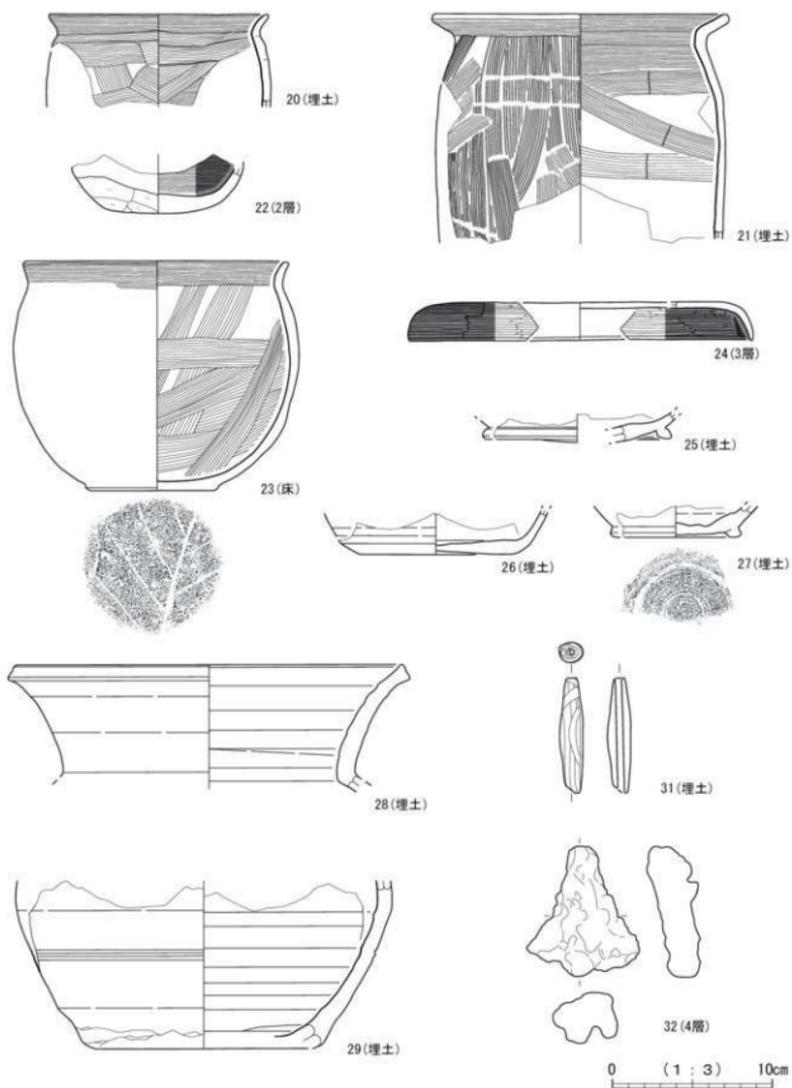
部 位	層 位	土 色	土 質	備 考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒混
	2	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト(電目砂)	10YR4/2灰黄褐色ブロック混
	3	10YR3/2 暗褐色	シルト	炭化物粒混
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒若干混
	2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	
	3	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	10YR3/3暗褐色ブロック混
	4	10YR3/2 暗褐色	砂質シルト	
P3	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	炭ブロック少量
	2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	炭粒微混
	3	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	地山ブロック少量
	4	10YR3/2 暗褐色	砂質シルト	地山ブロックやや多い
P4	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭ブロック少量
	2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	地山ブロック少量
	3	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	
SK1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒混
	2	10YR5/4 に近い黄褐色	砂質シルト	
	3	10YR3/2 暗褐色	シルト	炭の炭粒混、焼土粒混入
SK2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒混
	2	10YR2/2 黒褐色	シルト	焼土・炭混入層、5YR3/6暗赤褐色焼土ブロック混

S164 施設輪郭表

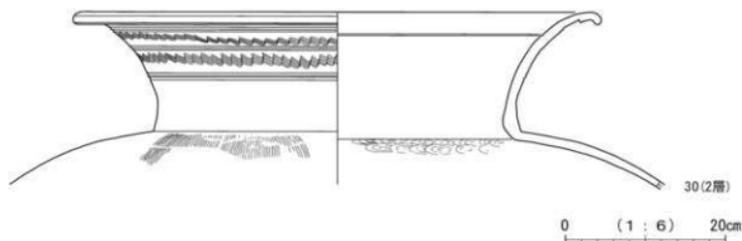
遺構名	平面図	長径(cm)	短径(cm)	備 考	遺構名	平面図	長径(cm)	短径(cm)	備 考
P1	楕円形	75 × 65	24.9		P4	円形	66 × 60 柱基礎17 × 17	54.6	
P2	円形	75 × 72	32.6						
P3	楕円形	70 × 56	39		SK1	方形	69 × 63	27.4	
		SK2			円形	64 × 58	14.9		



第212図 SI64竪穴住居跡出土遺物(1)



第213圖 SI64竪穴住居跡出土遺物(2)



第214図 SI64竪穴住居跡出土遺物③

図録番号	出土遺物	層位	種別	器種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真掲載	
1	C-256	S84	埴土	土器部	杯	(11.8) × × (1.2)	1.1線部~底部0.1' ±	1.1線部~底部0.1' ±	内面黒色処理	72
2	C-258	S84	埴土	土器部	杯	(12.0) × 2.0 × 3.8	1.1線部~底部0.1' ±, 底部0.1' ±	1.1線部~底部0.1' ±	内面漆付着	72
3	C-259	S84	埴土	土器部	杯	(15.2) × × (1.4)	1.1線部0.1' ± → 1' ±, 底部0.1' ± → 1' ±, 底部0.1' ±	1.1線部~底部0.1' ±	内面黒色処理	72
4	C-261	S84	埴土	土器部	杯	(16.0) × × (1.7)	1.1線部~底部0.1' ±	1.1線部~底部0.1' ±	内面黒色処理	72
5	C-267	S84	埴土	土器部	杯	(13.2) × 6.0 × (3.6)	1.1線部0.1' ±, 底部~底部0.1' ±	1.1線部~底部0.1' ±	内面黒色処理	72
6	C-269	S84	S82	土器部	杯	(17.8) × × 3.9	1.1線部~底部0.1' ±, 底部0.1' ±	1.1線部~底部0.1' ±	内面黒色処理	72
7	C-270	S84	埴土	土器部	杯	(12.8) × 6.8 × 3.5	1.1線部~底部0.1' ±, 底部手持ち0.1' ±	1.1線部~底部0.1' ± → 0.1' ±	内外面黒色処理, 台状底部	72
8	C-271	S84	埴土	土器部	杯	15.4 × 7.8 × 3.7	磨肌, 1.1線部~底部0.1' ±, 底部0.1' ±	1.1線部~底部0.1' ±	内面黒色処理	72
9	C-273	S84	埴土	土器部	杯	15.8 × × 4.4	1.1線部0.1' ±, 底部~底部0.1' ±	1.1線部~底部0.1' ±	底部漆着	72
10	C-274	S84	埴土	土器部	杯	14.2 × 7.0 × 4.1	1.1線部0.1' ±, 底部~底部0.1' ±	1.1線部~底部0.1' ±		72
11	C-277	S84	3層	土器部	杯	(15.0) × (1.8) × (2.0)	1.1線部0.1' ±, 底部~底部0.1' ±	1.1線部0.1' ±, 底部~底部0.1' ±		72
12	C-279	S84	17層	土器部	杯	(12.7) × × 3.0	1.1線部0.1' ±, 底部~底部0.1' ±	1.1線部~底部0.1' ±	内面黒色処理	72
13	C-287	S84	埴土	土器部	碗	(14.0) × × (1.0)	1.1線部0.1' ±, 底部0.1' ±	1.1線部~底部0.1' ±		72
14	C-278	S84	2層	土器部	碗	17.6 × 9.2 × 7.2	1.1線部0.1' ±, 底部0.1' ± → 0.1' ±, 底部0.1' ±	1.1線部~底部0.1' ±	内面黒色処理	72
15	C-265	S84	埴土	土器部	碗	(19.0) × × (1.7)	1.1線部0.1' ±, 底部~底部0.1' ± → 0.1' ±	1.1線部~底部0.1' ±	内面黒色処理	72
16	C-263	S84	2層	土器部	鉢	- × (16.3) × (6.7)	1.1線部0.1' ±, 底部~底部0.1' ±	1.1線部0.1' ±, 底部0.1' ±	片目跡	73
17	C-255	S84	埴土	土器部	鉢	12.7 × × 4.0 × 3.8	底部~底部0.1' ±	底部~底部0.1' ±	内外面黒色処理	73
18	C-264	S84	埴土	土器部	鉢	- × (16.6) × (3.8)	底部0.1' ±	底部0.1' ±	内外面黒色処理, 高台	73
19	C-262	S84	埴土	土器部	甕	(20.4) × × (10.2)	1.1線部0.1' ±, 胴部0.1' ± → 0.1' ±	1.1線部0.1' ±, 胴部0.1' ±		73
20	C-260	S84	埴土	土器部	甕	(13.6) × × (16.9)	1.1線部0.1' ±, 胴部0.1' ±	1.1線部0.1' ±, 胴部0.1' ±		73
21	C-266	S84	埴土	土器部	甕	(18.6) × × (14.6)	1.1線部0.1' ±, 胴部0.1' ± → 0.1' ±	1.1線部0.1' ±, 胴部0.1' ±		73
22	C-275	S84	2層	土器部	杯	- × × (1.8)	底部~底部0.1' ±	底部~底部0.1' ±	内面黒色処理	73
23	C-278	S84	床面	土器部	甕	16.1 × 8.2 × 14.6	1.1線部0.1' ±, 胴部~底部磨肌, 底部木蓋面	1.1線部0.1' ±, 胴部~底部0.1' ±	内面漆付着	73
24	C-268	S84	3層	土器部	蓋	(12.0) × × 2.5	天弁部~1.1線部0.1' ±	天弁部~1.1線部0.1' ±	内外面黒色処理	73
25	E-063	S84	埴土	灰産物	灰	- × (11.4) × (1.9)	0.1' ±調整, 底部同軸0.1' ±, 胎付高台	0.1' ±調整	底部突出部, 高台	73
26	E-064	S84	埴土	灰産物	灰	- × 9.5 × (1.4)	0.1' ±調整, 底部同軸0.1' ±	0.1' ±調整		73
27	E-065	S84	埴土	灰産物	灰	- × (12.8) × (1.9)	0.1' ±調整, 底部同軸0.1' ±, 胎付高台	0.1' ±調整	高台	73
28	E-062	S84	埴土	灰産物	灰	(14.0) × × (8.9)	0.1' ±調整	0.1' ±調整		73
29	E-061	S84	埴土	灰産物	灰	- × (13.6) × (10.7)	0.1' ±調整, 外周~底部0.1' ±	0.1' ±調整		73
30	E-060	S84	2層	灰産物	灰	(13.6) × × (12.0)	0.1' ±調整, 底部同軸0.1' ±, 胴部磨肌0.1' ±	0.1' ±調整, 青濁文	大型	73
図録番号	出土遺物	層位	種別	器種	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	備 考		写真掲載	
31	F-39	S84	S82	土製品	土鏃	7.4 × 1.5 × 孔径0.4	12.9	ナギ, 全面漆着	74	
図録番号	出土遺物	層位	種別	器種	備 考				写真掲載	
32	N-22	S84	4層	鉄製品	鉄片?	長さ8.2, 幅7.0, 厚4.0cm				74

SI65 竪穴住居跡

[位置・確認面] 3A区北端で検出された。

[重複] SI77の一部のプランを共有して建てられたものと推定された。

[規模・形態] 東西を主軸にとり、一辺が3.3mの正方形に近い隅円方形を呈する。

[方向] 主軸方位はN-100°-Eである。

[堆積土・構築土] 17層に分層した。1・2層は住居埋土である。全体に焼土・炭化物を含む。3層はカマド天井部分の崩落土であり、4層はカマドの底面から焚き口の前方に広がる灰と焼土の堆積である。5~8層は煙道内の埋土にあたる。9層は周溝内の埋土で、10・11層はカマドの構築土である。12層は貼床で、13~17層は掘り方の埋土であり、13層はカマド直下の焼土層である。

[壁面] 基本的にSI77の埋土を壁面とするものとし、壁高は40cm前後が残存する。立ち上がりは垂直に近い。

[床面] 12層が貼床の層である。

[柱穴] 壁沿いよりP1～P3を検出した。壁柱穴と考えられる。

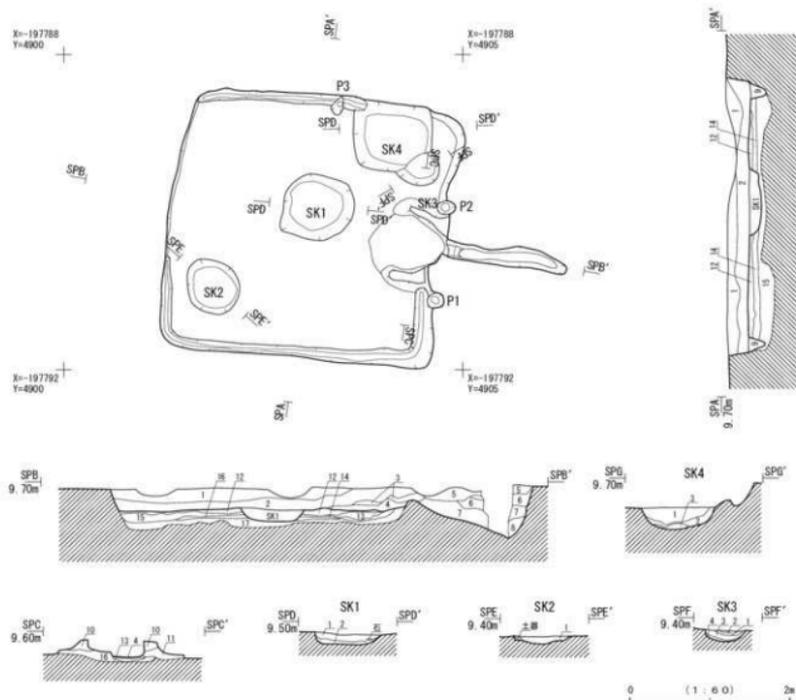
[周溝] 壁際に設けられているが、西壁の北半とカマドの左側が途切れている。幅10cm～14cmである。

[カマド・煙道] 東辺中央部に設けられており、両袖はやや内湾して広がる。外幅120cm、奥行94cmである。煙道は長さ150cm、幅24cmで、深さ17cm～32cmである。

[その他の施設] SK1～SK4を検出した。SK1とSK3には焼土が捨てられている。

[掘り方] カマドの周囲を舌状に掘り残し、周辺部を掘り下げている。

[出土遺物] 土師器碗1点、須恵器環2点、甕1点、砥石1点を掲載した。土師器は大ぶりの塊である。2、3も口径の大きい環である。



第215図 S165壁穴住居跡

S165 埋土層記述(1)

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
埋 土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	南ベト層中に灰化物・焼土が多く混入
	2	10YR2/3 暗褐色	シルト	南ベト層中については10YR3/2出層色に近い色調で灰化物・焼土を散状に含む
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	北西部の南層土が5YR2/3黒褐色塊状土プロック混
	4	7.5YR2/3 暗褐色	シルト	焼土層・灰化物5YR4/6赤褐色焼土殻・灰混合
	5	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	
カマド・煙道	6	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	5YR2/3焼粘赤褐色焼土殻・灰化物散入
	7	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	煙道前層土5YR2/3焼粘赤褐色プロック混

S165 埋土封記表①

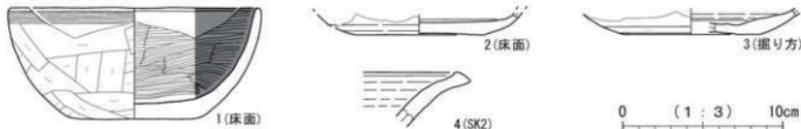
部位	層位	土色	土性	備考
ホマド・棟道	8	10YR2/2 黒褐色	シルト	5YR2/3極細赤褐色焼土粒・炭化物粒混入
明溝	9	混成ナシ		
ホマド	10	10YR3/3 暗褐色	シルト	10YR5/4に多い黄褐色ブロック混。炭化物粒・焼土粒混
	11	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物粒・焼土粒混。10YR3/4暗褐色成状に混
陥床	12	10YR3/4 暗褐色	シルト	10YR5/4に多い黄褐色ブロック混。陥床面に貼った面
	13	5YR3/3 暗赤褐色	焼土層	5YR4/6赤褐色焼土・炭化物混
掘り方	14	10YR4/4 褐色	砂質シルト	炭化物粒・焼土粒混入。10YR3/4暗褐色ブロック混
	15	10YR3/2 暗褐色	シルト	S165古墳集積アワン層土
	16	10YR5/4 に多い黄褐色	シルト	10YR3/3暗褐色ブロック混。炭化物粒混
	17	10YR3/3 暗褐色	シルト	10YR5/4に多い黄褐色ブロック混

S165 施設埋土封記表

部位	層位	土色	土性	備考
P1	1	-	-	
P2	1	-	-	
P3	1	-	-	
SK1	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	粒状の焼土・炭化物が多数混入。10YR4/3に多い黄褐色シルトがブロック状に混入
	2	10YR4/4 褐色	シルト	粒状炭化物が混入。10YR3/4暗褐色が混入
SK2	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	φ1cm内の焼土ブロックを多く含む
SK3	1	10YR4/4 褐色	シルト	
	2	10YR4/3 に多い黄褐色	シルト	焼土・炭化物ブロックを多量に含む
	3	10YR4/3 暗褐色	砂質シルト	炭化物・焼土ブロックを少量含む
SK4	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒を若干含む
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	10YR5/3に多い黄褐色砂をブロック状に含む
	3	10YR5/3 に多い黄褐色	砂	10YR3/3暗褐色ブロックがわずかに入る

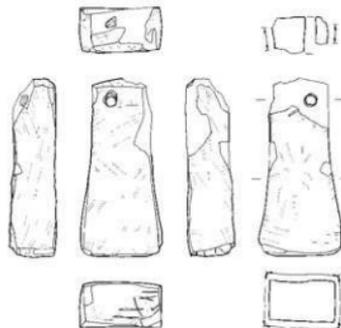
S165 施設断面表

遺構名	平面図	規模(cm)	深さ(cm)	備考	遺構名	平面図	規模(cm)	深さ(cm)	備考
P1	方形	30 × 20	39		SK2	円形	74 × 64	14	
P2	楕円形	30 × 18	32		SK3	円形	50 × 40	15	
P3	小方形	22 × 10	14		SK4	方形	100 × 84	28	
SK1	円形	90 × 82	14						



第216図 S165竪穴住居跡出土遺物(1)

図録番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	口径・底径×器高cm	外面調整	内面調整	備考	写真 掲載
1	C-280	S165	床面	土師器	碗	15.9 × 8.5 × 7.1	1) 縁部調整、体部一底部調整	1) 縁部一底部調整	内面黒色処理	74
2	E-066	S165	床面	灰磁器	杯	× 8.2 × (1.3)	0) 調整、底部調整	0) 調整		74
3	E-068	S165	掘り方	灰磁器	杯	× 8.4 × (1.7)	0) 調整、底部調整	0) 調整		74
4	E-067	S165	SK2	灰磁器	盃	φ3.25 × × (0.7)	0) 調整	0) 調整		74



第217図 S165竪穴住居跡出土遺物(2)

図録番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ cm	重量g	石材	備考	写真 掲載
1	K-028	S165	床層	3A	石製品	鏡石	磨石	7.6 × 3.3 × 1.9	69.7g	砂質	完成品、面取り、柱状、有孔、穿孔径0.6cm	74

SI66 竪穴住居跡(第218～219図)

[位置・確認面] 3A区北端部、調査区西壁沿いで小規模なプランの東側を確認した。

上部はⅡ層あるいはⅢ層によって削平されている。

[規模・形態] 一边が約2.4mの小規模な方形を呈するものと考えられる。

[方向] 東辺を基準とした主軸方位はN-19°-Wである。

[堆積土・構築土] 5層に分層した。1～3層は住居埋土である。特に3層は炭化物の層で、住居埋土全体にも炭化物が含まれている。4層は溝溝内の埋土、5層は掘り方の埋土である。

[壁面] IV層中を壁面としており、壁高は26cmが残存する。立ち上がりはわずかに外反している。

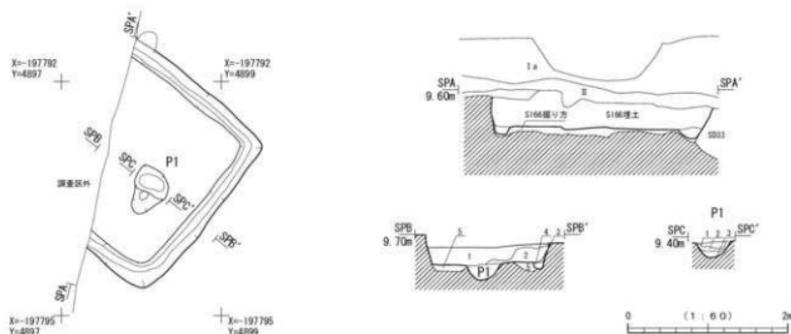
[床面] 5層上面を床面とする。

[柱穴] 床面上から不整形のピットであるP1を確認した。

[溝溝] 壁際を全周するものと考えられる。幅13cm～17cm、深さ6.7cm～9.5cm。

[掘り方] 掘り方底面の標高は、床面に近く、土坑状の落ち込みも認められた。

[出土遺物] 土師器甕1点、瓶2点を掲載した。1は丸胴で頸部で直立し、若干外反する口唇部に至る。2は鉢形に開く単孔の瓶である。3は砲弾形の多孔の瓶であるである。



第218図 SI66竪穴住居跡

SI66 埋土目録表

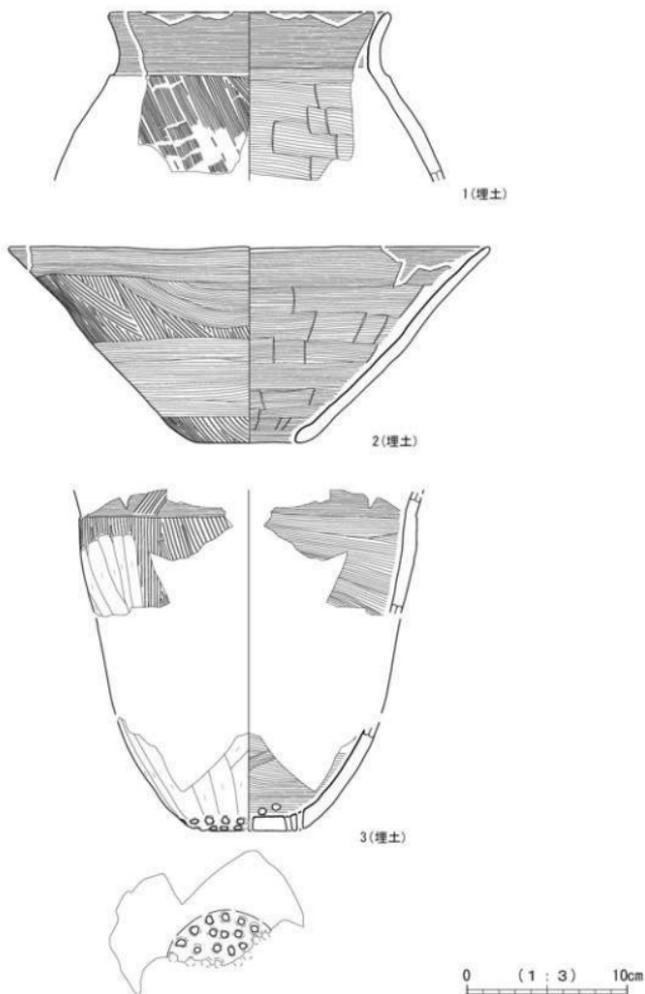
部位	層位	土色	土性	備考
埋土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	地山ブロックを多量、炭化物粒を少量含む
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	地山ブロックを密、炭化物粒をやや多く含む
	3	10YR1.7/1 灰色	シルト	炭化物層
埋底	4	10YR2/4 暗褐色	シルト	10YR2.3シルトがまばらに混入、10YR4/4地山がやや混入
掘り方	5	10YR3/4 暗褐色	シルト	約2m内の地山ブロックを多量含む

SI66 掘り方埋土目録表

部位	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/4 褐色	シルト	暗褐色シルトブロックを少量含む
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	暗褐色シルトブロックを多く含む
	3	10YR5/4 に近い黄褐色	シルト	

SI66 施設観察表

遺構名	平面図	幅(m)	深さ(m)	備考
P1	不整形	約×30	12.1	



第219図 SI66 竈穴住居跡出土遺物

図版番号	登録番号	出土遺物	層位	類別	器種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真掲載
1	C-283	SI66	埋土	土師器	豆	(17.8) × × (10.7)	1[線部>?F、胴部>?F]	1[線部>?F、胴部>?F]		74
2	C-282	SI66	埋土	土師器	瓶	(30.1) × 7.2 × 12.3	1[線部>?F、胴部~底部>?F]	1[線部>?F、胴部>F、孔外周>?C]平孔		74
3	C-284	SI66	埋土	土師器	瓶	× (8.0) × (7.3)	1[線部>?F ~>?F、胴部>?F~底部>?F]	1[線部>?F、胴部~底部>?F]	多孔、穿孔径0.5cm	74

SI67 竪穴住居跡(第220～221図)

[位置・確認面] 3A区北端部で確認した。

[重複] SI77に切られる。

[規模・形態] 東西に主軸をとり、一辺が3mの正方形に近い隅円方形を呈する。

[方向] 主軸方位はN-64°-Eである。

[堆積土・構築土] 11層に分層した。1層は住居埋土、2層は床面直上、あるいは床面で認められたグライ化を起こした堆積である。3・4層はカマド内の埋土で、5層は焚き口の前面に広がる炭化物の層である。6・7層は煙道内の埋土、8層は周溝内の埋土、9・10層はカマドの構築土にあたる。11層は掘り方の埋土である。

[壁面] IV層中を壁面としており、削平によって上部は大きく失われており、壁高は5cm～20cmが残存するのみである。

[床面] 11層上面、あるいは2層を床面とする。顕著なグライ化が認められた。

[柱穴] 北壁沿いにP1を確認した。埋土には焼土と炭化物をブロック状に含んでいる。

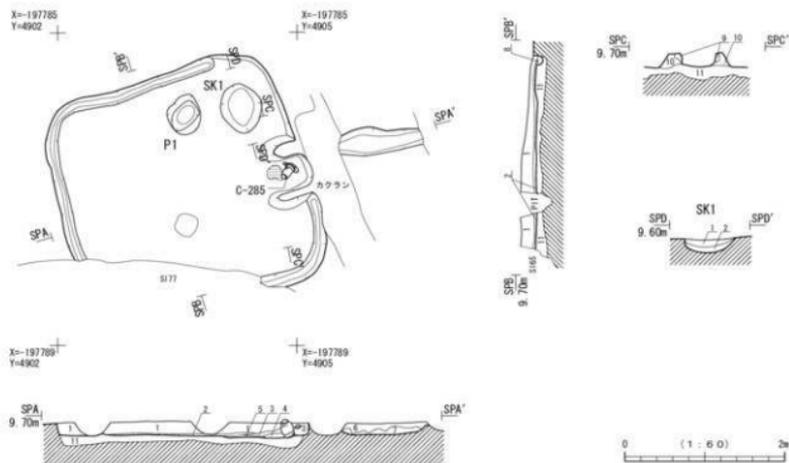
[周溝] 壁際で検出された。北東コーナー付近、SK1の周囲が途切れている。幅10cm～12cm、深さ5cm～11cmである。

[カマド・煙道] 東辺中央部に設けられており、両袖部は東壁に対して直行する。外幅90cm、奥行56cmで、底面中央部からは外面が被熱した甕が出土しており、これを支柱としていた可能性がある。煙道は先端部と中程が失われており、長さ142cmが残存する。煙道の幅は28cm、上部も削平を受けており、確認された深さは5cm前後である。

[その他の施設] 北東コーナーよりSK1を検出した。炭化物を人為的に埋めた痕跡が認められる。

[掘り方] 中央部から主辺部へ向かってなだらかに低くなっている。底面の比高差は5cmである。

[出土遺物] 甕2点を掲載した。



第220図 SI67竪穴住居跡

S167 埋土層記述

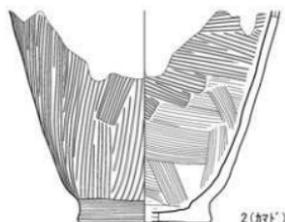
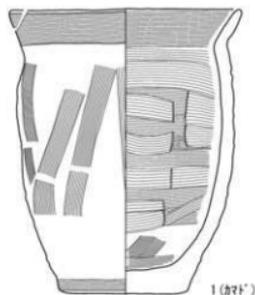
部位	層位	土色	土性	備考
埋土	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	φ10cm内の地山ブロックを多数、炭化物・焼土ブロックを少量、為埋土とみられる
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	床直上のグライ層?
	3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	φ30cm内の焼土ブロックを多く含む
カマド	4	10YR4/3 に濃い黄褐色	シルト	φ10cm内の焼土ブロックを多量含む、灰を含む
	5	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物層
カマド・煙道	6	10YR4/3 に濃い黄褐色	シルト	炭化物粒を多量
	7	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	厚層シルトブロックを散在含む
円溝	8	10YR4/4 褐色	シルト	地山小ブロックを多く含む
カマド・ソダ	9	5YR3/3 暗赤褐色	焼成面	炭化物粒混
	10	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒混、5YR3/3焼土混
掘り方	11	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	砂質シルト	10YR3/3ブロック混

S167 施設埋土層記述

部位	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR5/4 暗褐色	シルト	φ20cm内の焼土ブロック・炭化物ブロック多量を含む
SK1	1	10YR4/3 に濃い黄褐色	シルト	褐色シルト層を層状にはさまり、人色埋土
	2	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物層を層状にはさまり、まっくら、人色埋土

S167 施設断面表

遺構名	平面図	規模(cm)	深さ(cm)	備考
P1	楕円形	52 × 42	12	
SK1	方形	60 × 52	22	



0 (1 : 3) 10cm

第221 図 SI67 竪穴住居跡出土遺物

採取番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真 掲載
1	C-285	S167	8層?	土師器	甕	11.5 × 8.1 × 12.1	1層部0層?、胴部0層?、底部0層?、本無	1層部0層?、胴部一部0層?		74
2	C-287	S167	8層?	土師器	甕	→φ8.0 × (12.5)	胴部0層、底部0層?	胴部0層? → 0層、底部0層?		74

SI68 竪穴住居跡(第222～224図)

[位置・確認面] 3A区北半部で確認した。

[重複] SI60、SI62に切られる。

[規模・形態] 北西から南東方向を軸とし、規模は軸方向が4.01mで、直行方向の残存部は最大1.3mである。

[方向] 軸方位はN-41°-Wである。

[堆積土・構築土] 18層に分層した。1～6層は住居埋土で、全体に炭化物を含んでいる。7～11層は煙道内の埋土である。12層は周溝内の埋土、13・14層はカマドの構築土にあたり、15層はカマドの底部に残る焼土の層である。16～18層は掘り方の埋土である。

[壁面] IV層中を壁面としており、壁高は34.7cm～39cmが残存する。立ち上がりは勾配が少なく垂直に近い。

[床面] 16・17層上面を床面とする。

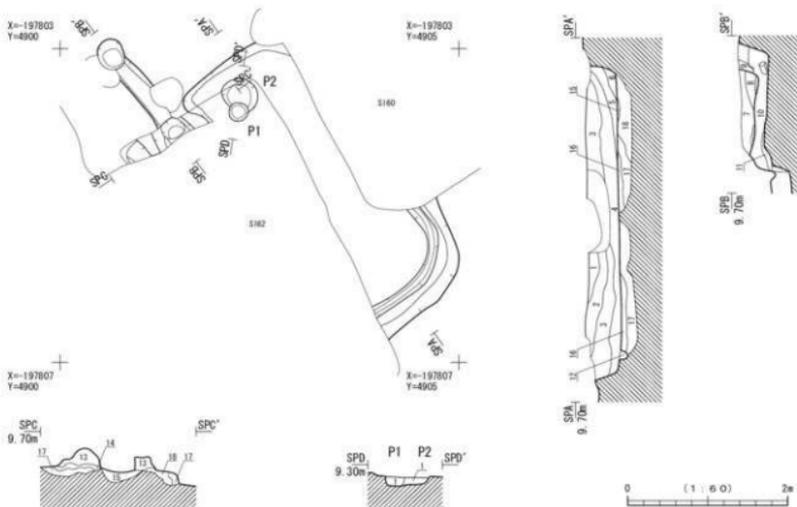
[柱穴] 北側コーナ一部付近で検出されたP1、P2は掘り込みの浅いピットで、柱穴とは考え難い。P1の埋土には、焼土・炭化物が多く含まれる。

[周溝] 南東コーナー付近でのみ確認された。壁際から20cm程度内側に設けられている。幅14cm～16cm、深さは6.4cm～7.2cmである。

[カマド・煙道] 北辺中央部に設けられているものと考えられる。焚き口から両袖の中程までが失われており、詳細は不明である。煙道は長さ154cm、幅25cmで、底面は先端部へ向けて深くなっており、深さ28.3cm～32.6cmである。

[掘り方] 大部分が失われており、詳細は不明である。

[出土遺物] 土師器杯1点、甕2点、砥石1点を掲載した。1は口縁と体部の境目に弱い段を持つ。2は小型の球形の甕。3は長胴甕である。



第222図 SI68竈穴住居跡

SI68 埋土目録表

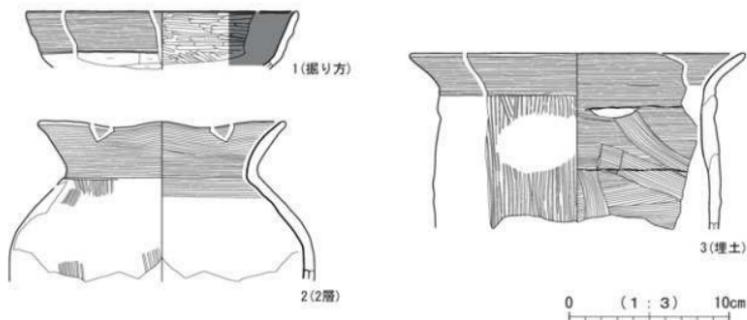
部位	層位	土色	土性	備考
埋土	1	10YR4/4 褐色	シルト	炭化物・焼土粒を少量含む
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	φ 3cm内の焼土・炭化物ブロックを層状に多く含む
	3	10YR4/4 褐色	シルト	炭化物・焼土ブロックを少量含む
	4	10YR4/4 褐色	シルト	φ 3cm内の焼土ブロックを多く含む
	5	10YR4/2 に近い黄褐色	砂質シルト	
	6	10YR4/6 褐色	シルト	
カマド・煙道	7	10YR4/4 褐色	シルト	焼土ブロックを少量含む
	8	10YR4/2 に近い黄褐色	シルト	
	9	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物粒を少量含む
	10	10YR4/4 褐色	シルト	φ 3cm内の焼土ブロックを全体にまばらに含む
	11	10YR3/2 黒褐色	シルト	φ 3cm内の焼土ブロックを多く含む炭化物層
周溝	12	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土ブロックを多く含む
カマド・ソツダ	13	10YR4/6 褐色	砂質シルト	炭化物粒を少量含む
カマド	14	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物・焼土ブロックを少量含む
	15	10YR4/2 に近い黄褐色	シルト	φ 3cm内の焼土ブロック・焼土ブロックを少量含む
掘り方	16	10YR4/4 褐色	砂質シルト	炭化物粒を少量含む
	17	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	焼土ブロックを少量含む
	18	10YR4/4 褐色	砂質シルト	にに近い黄褐色シルトブロックを多く含む

S68 施設遺土目録表

部位	層位	子色	土性	備考
P1	I	10YR4/4 褐色	シルト	炭化物粒を多量、焼土アロクを少量含む
P2	I	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	φ3cm内の焼土アロクを多く含む

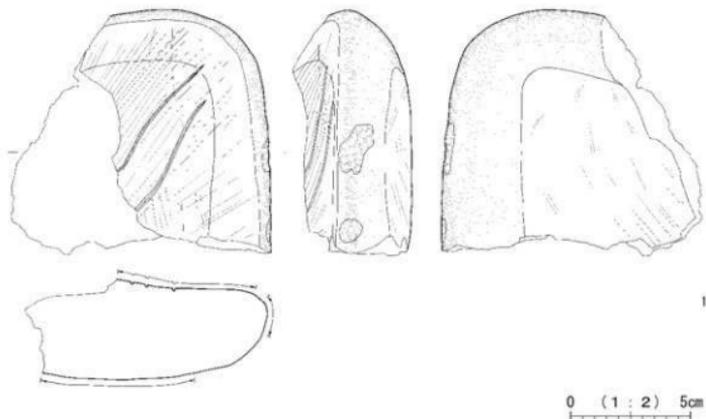
S68 施設観察表

遺構名	平面図	縦断(cm)	深さ(cm)	備考	遺構名	平面図	縦断(cm)	深さ(cm)	備考
P1	円形	25×24	14		P2	円形	43×43	13	



第223図 S168竪穴住居跡出土遺物(1)

採取番号	出土遺構	層位	種類	器種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真 掲載	
1	C-203	S168	振り方	土師器	杯	(16.8)××(1.7)	1)縁部0.99°, 底部0.92°	1)縁部-底部0.14°	内面黒色地味、明土質	74
2	C-202	S168	2層	土師器	甕	(15.5)××(11.1)	1)縁部0.99°, 胴部0.9°	1)縁部0.99°, 胴部0.99°	小砂礫多量に混入	74
3	C-200	S168	焼土	土師器	甕	(21.0)××(10.8)	1)縁部0.99°, 胴部0.9°	1)縁部0.99°, 胴部0.99°		74



第224図 S168竪穴住居跡出土遺物(2)

採取番号	登録番号	出土地点	層位	地況	種類	器種	分類	長さ×幅×厚さ (cm)	重量(g)	石材	備考	写真 掲載
1	K-029	S68	—	3A	石製品	砥石	I A2	9.8×10.8×4.3	700.39	石高安山岩	欠損品、自然磨、板状、無孔、自然面あり	75

SI69 竪穴住居跡(第225図)

[位置・確認面] 3A区北端部、東側の掘乱沿いで、住居の西側半分を確認した。東側の大部分は、掘乱により失われている。

[重複] SI70、SI74、SI75、SI76を切る。

[規模・形態] 南北を軸ととり、規模は軸方向で3.7mである。軸に直行する東西方向は最大で2mが残存する。平面形は隅円方形を呈するものと考えられる。

[方向] 西壁を基準とした軸方位は、N-4°-Wである。

[堆積土・構築土] 7層に分層した。1層は住居埋土である。2・3層は竪穴北側の掘乱の縁から検出された煙道の痕跡と考えられる。4・5層は5層を主体として周溝内の埋土にあたり、6・7層は掘り方の埋土である。

[壁面] 主としてSI75の埋土を壁面としており、壁高は19cm～39cmである。立ち上がりはやや外反する。

[床面] 6・7層上面を床面とする。

[柱穴] P1～P3を検出した。P2～P3が西側の支柱穴にあたる。柱間は約220cmである。

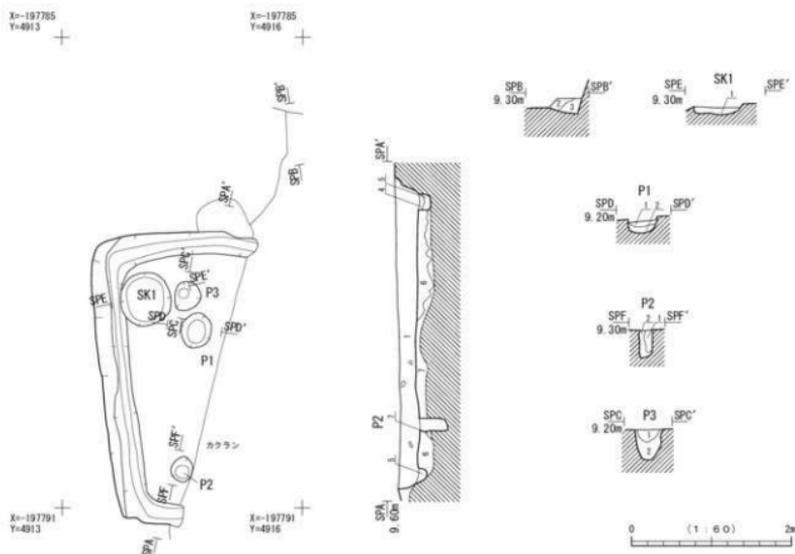
[周溝] 残存部では壁際周りで確認された。西壁沿いでは壁の立ち上がりと同配が異なり、間に後を成す形となる。

[カマド・煙道] 煙道の一部が掘乱沿いから検出された。北辺に設けられていたものと推定できる。

[その他の施設] 北西コーナー付近に、地山ブロックと焼土が落ち込んだ浅い掘り込みを検出した。

[掘り方] 大部分が失われており、詳細は不明だが、北東コーナー付近がやや低くなっている。

[出土遺物] 掲載した遺物はない。



第225図 SI69竪穴住居跡

S69 埋土跡断面

部位	層位	土色	土性	備考
埋土	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	地山小ブロックを少量含む、炭化物・焼土ブロックを少量含む
	2	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物ブロックを多量、にひい黄褐色シルトブロックを多く含む
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	φ1cm内の炭化物ブロックを多く含む
明溝	4	10YR1/2 灰黄褐色	シルト	地山ブロックを少量
	5	10YR3/3 暗褐色	シルト	φ1cm内の地山ブロックを少量
掘り方	6	10YR3/3 暗褐色	シルト	地山ブロックを少量含む
	7	10YR3/4 褐色	砂質シルト	暗褐色シルトブロックを少量、地山ブロックを密

S69 施設埋土跡断面

部位	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	地山小ブロックやや多く
	2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	地山ブロック多量、暗褐色シルトブロック少量
P2	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	(柱間)
	2	10YR4/3 にひい黄褐色	砂質シルト	
P3	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	10YR3/4暗褐色シルトが混入
	2	10YR4/3 にひい黄褐色	砂質シルト	10YR3/4暗褐色がまだらに混入
SK1	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	φ1cm内の地山ブロック、炭化物・焼土粒を少量

S69 施設断面表

遺構名	平面図	規模(cm)	深さ(cm)	備考	遺構名	平面図	規模(cm)	深さ(cm)	備考
P1	円形	44 × 38	18		P3	円形	40 × 32	45	
P2	円形	32 × 28	25		SK1	円形	64 × 62	15	

SI70 竪穴住居跡(第226～227図)

[位置・確認面] 3A区北端付近、東側の掘乱沿いで西側コーナー部分のみを確認した。住居の大部分は掘乱により失われている。

[重複] SI69に切られる。

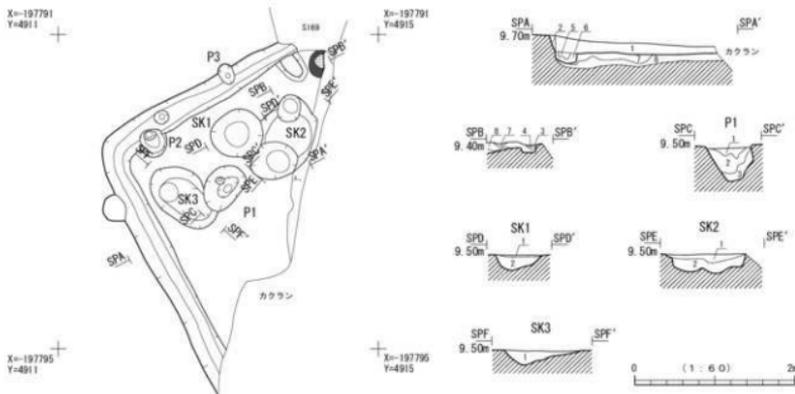
[規模・形態] 確認できた範囲は、西壁3.2m、北壁3mのみである。平面形は隅円方形を呈するものと考えられる。

[方向] 西壁を基準とした主軸方位はN-29°-Wである。

[堆積土・構築土] 8層に分層した。1・2層は住居埋土である。3・4層はカマド底面の被熱部位にあたる。5・6層は周溝内の埋土であり、5層は壁材の痕跡とも考えられる。7・8層は掘り方の埋土である。

[壁面] IV層中を壁面としており、壁高は15.8cm～23.5cmが残存する。壁の立ち上がりはやや勾配をもつものの、垂直に近い。

[床面] 7・8層上面を床面とする。



第226図 SI70 竪穴住居跡

S170 埋土柱記号

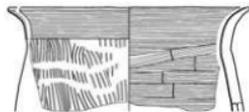
部位	層位	土色	土性	備考
埋土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	φ10cm内の地山ブロック多量、炭化物粒を少量含む、人為?
	2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	地山ブロック密、壁際のみの土?
カマド	3	10YR4/6 褐色	砂質シルト	地山の層(すべて)
	4	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土ブロック、粒状炭化物が混入
周溝	5	10YR2/3 暗褐色	シルト	
	6	10YR4/4 褐色	砂質シルト	暗色シルトブロックを少量
掘り方	7	10YR3/3 暗褐色	シルト	地山ブロックを多く含む
	8	10YR4/4 褐色	砂質シルト	地山ブロック多量

S170 居住土柱記号

部位	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR2/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを少量含む
	2	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	暗褐色シルトブロックを多く含む
	3	10YR4/4 褐色	砂質土	炭化物粒を少量
P2	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	φ20cm内の地山ブロックをやや多く含む
P3	1	10YR2/3 暗褐色	シルト	炭化物粒を少量、P4に付着らしきやわい部分があるが不明瞭
SK1	1	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	下手に暗褐色シルト層をはさむ
	2	7.5YR3/4 暗褐色	砂質シルト	φ5cm内の地山ブロックをやや多く、φ20cm内の焼土ブロック多量
SK2	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	φ10cm内の地山ブロックを少量、焼土ブロックを微量含む
	2	7.5YR3/4 暗褐色	砂質シルト	φ5cm内の地山ブロックをやや多く、φ20cm内の焼土ブロック多量、炭化物ブロックを少量
SK3	1	10YR3/3 暗褐色	粘性シルト	φ20cm内の焼土ブロックを密、炭化物ブロック少量、一部にφ15cmの地山ブロック含む

S170 施設簡略表

遺構名	平面図	幅(cm)	長さ(cm)	備考	遺構名	平面図	幅(cm)	長さ(cm)	備考
P1	掘り方	62×43	47.8		SK1	掘り方	65×40	39.2	
P2	掘り方	37×36	19.7		SK2	掘り方	108×71	25.8	
P3	掘り方	26×17	55.5		SK3	掘り方	96×62	18.5	



I(埋土)

0 (1:3) 10cm

第227図 S170竪穴住居跡出土遺物

図例番号	出土遺物	層位	種類	器種	口径×底径×高さ(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真掲載	
I	C-294	S170	埋土	土師器	壺	(15.2)××(φ.6)	[1]縁部33°、胴部34°	[1]縁部23°、胴部24°		25

[柱穴] P1～P3を確認した。形状および位置関係から、P1は西側の主柱穴にあたるものと推定できる。P2、P3は壁柱穴の可能性が高い。

[周溝] 残存部を通して、壁際で確認できた。底面にはピットが認められる。幅10cm～30cm、深さ11cm～11.4cmである。

[カマド・煙道] 北辺中央部に設けられていたものと推定できる。左袖のみが確認されており、形状は北壁に直行しているが、壁側には周溝が通る形となっている。

[その他の施設] SK1～SK3を確認した。SK2とSK3からは焼土・炭化物が密に検出された。

[掘り方] 詳細は不明だが、底面は、中央部から周辺部へ緩やかに傾斜するものとみられる。

[出土遺物] 土師器壺1点を掲載した。

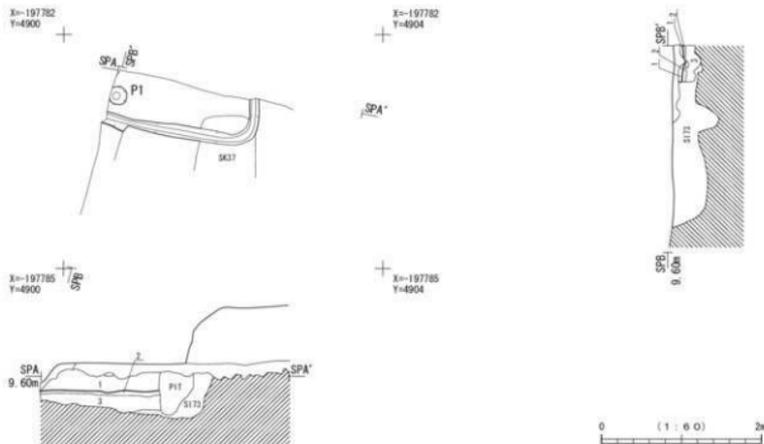
S171 竪穴住居跡(第228～229図)

[位置・確認面] 3A区北西の端部で住居の南東コーナー部のみを確認した。大部分は3B調査区の範囲となる。詳細については3B調査区にて報告するものとする。

[重複] S173に切られる。

[堆積土・構築土] 3A調査区の段階では3層に分層した。1層は住居埋土、2層は貼床、3層は掘り方の埋土にあたる。

- [壁面] SI73の埋土を壁面とする。現時点では詳細は不明。
 [床面] 2層を床面とする。床面上には炭化物が認められた。
 [柱穴] P1を検出した。全体との位置関係から再度総括したい。
 [周溝] 幅10cm～18cmの溝を確認した。
 [出土遺物] 土師器甕1点を掲載した。



第228図 SI71 竪穴住居跡

SI71 埋土誌記表

部位	層位	土色	土性	備考
埋土	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	φ 1cm内の地山ブロックを多量含む、入丸層
床面	2	10YR4/4 褐色		床面上層、炭化物ブロックを一部層状にはさむ
面り方	3	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	φ 1cm内の地山ブロックを多量含む、炭化物ブロックを少量含む

SI71 施設埋土誌記表

部位	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	φ 1cm内の地山ブロックを多量含む、入丸層
	2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	炭化物ブロックを一部層状にはさむ、床面上層
	3	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	φ 1cm内の地山ブロックを多量含む、炭化物ブロックを少量含む

SI71 施設断面表

遺物名	平面図	規模(cm)	高さ(cm)	備考
P1	円形	22 × 20	20	



1(1層)



第229図 SI71 竪穴住居跡出土遺物

図版番号	登録番号	出土遺物	層位	種類	器種	口径×底径×器高(cm)	外面調査	内面調査	備考	写真掲載
1	C-265	SI71	1層	土師器	甕	(口)7.5 × (底)6	1層部211F、胴部211→211'	1層部211F、胴部211'		75

SI72 竪穴住居跡(第230～233図)

[位置・確認面] 3A区北端部にカマド周辺および西側コーナーを確認した。大部分が上面の遺構によって失われている。

[重複] SI64, SI65, SI77に切られる。

[規模・形態] 主軸を北西から南東にとるが、規模は両軸ともに攪乱により不明である。北壁は3mが、西壁は4.8mが残存する。形状は隅円方形を呈するものと考えられる。

[方向] カマドの主軸方位はN-48°-Wを向く。

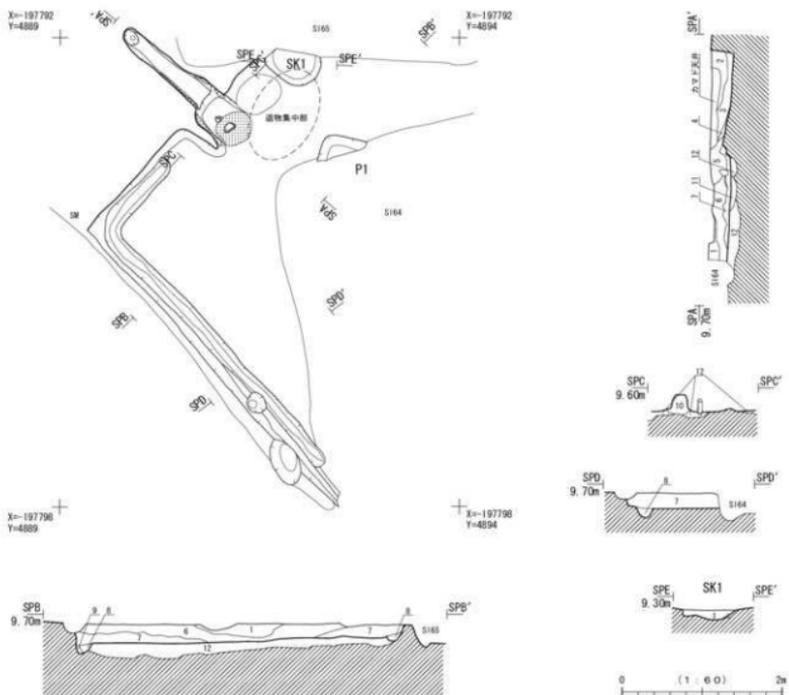
[堆積土・構築土] 12層に分層した。1・5～7層が住居埋土である。2～4層が煙道内の埋土にあたり、天井も残存している。8・9層は周溝内の埋土である。10層はカマドの構築土で、11・12層は掘り方の埋土である。

[壁面] IV層中を壁面としているが、残存箇所上部を攪乱されており、立ち上がりの形状は不明である。残存する壁高は16.3cm～27cmである。

[床面] 11層を床面とする。

[周溝] 西壁から北壁の直下で確認された。南西側コーナー付近では壁面からやや離れている。

[カマド・煙道] 北辺中央部に設けられていたものと考えられる。左袖のみが残存しており、形状は壁に対して直



第230図 SI72竪穴住居跡(1)

S172 埋土目録表

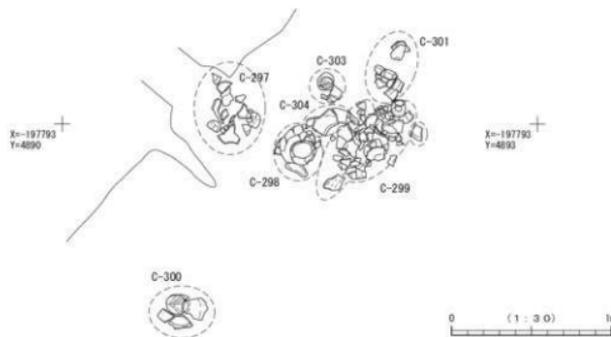
部位	層位	土色	土性	備考
埋土	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	地山ブロックをやや多く含む、人為埋土
	2	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	φ 1cm以内の焼土ブロックを少量含む
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	厚さ 1cm程度の土片断片を層状にはさま
	4	10YR2/2 黒褐色	シルト	微少と焼土ブロック・炭化物粒を少量含む
	5	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	φ 2cm以内の地山ブロックを多量含む
	6	10YR4/4 褐色	砂質シルト	地山ブロック土層
	7	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	地山ブロック土を少量含む
周溝	8	10YR4/2 に近い黄褐色	シルト	
	9	10YR4/4 褐色	砂質シルト	
カマド・フナ	10	10YR3/2 黒褐色	粘性シルト	炭化物粒を微量
掘り方	11	5YR3/4 暗赤褐色	砂質シルト	焼面層
	12	10YR3/3 暗褐色	シルト	大塚層上(黒褐色・褐色シルトブロック)を多く含む

S172 施設埋土目録表

部位	層位	土色	土性	備考
PI	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	φ 3cm以内の地山ブロックを多量含む
SK1	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	地山ブロックを多量含む

S172 施設断面表

遺構名	平面図	規模(cm)	深さ(cm)	備考	遺構名	平面図	規模(cm)	深さ(cm)	備考
P1	方形(↑)	(28)×(25)	15.6		SK1	(横)楕円形	(70)×(36)	8.2	



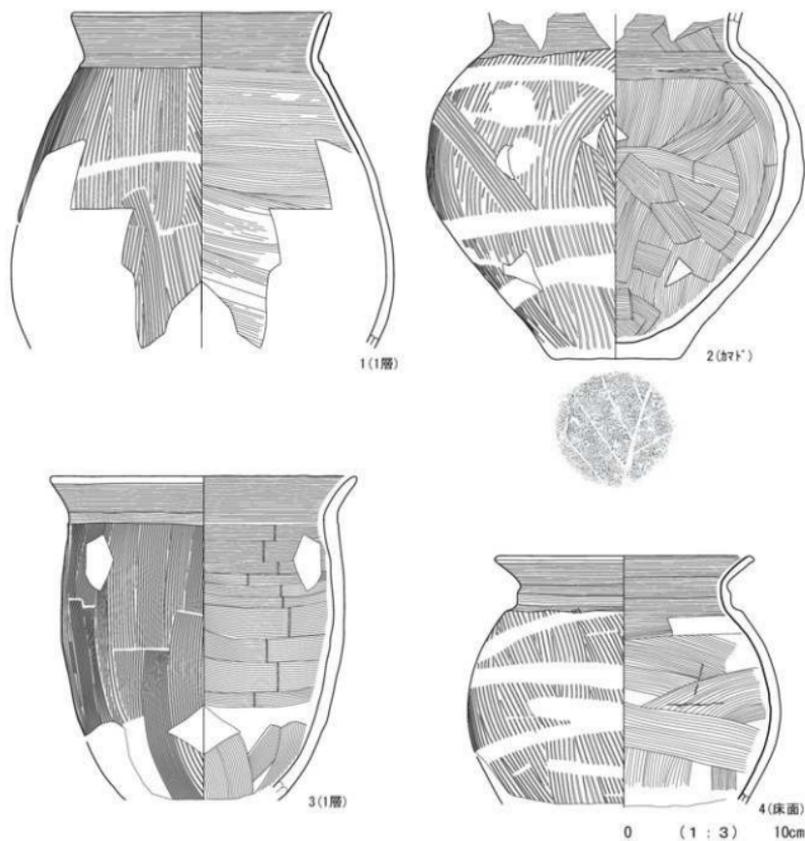
第231図 S172竪穴住居跡(2)

行する。煙道は長さ132cm、幅25cmで、底面は先端へ向かって低くなっており、深さは17.7cm～25.7cmを計る。また、先端部は平面19cm×16cm、深さ27cmのピット状に窪む。

[その他の施設] カマドの右側から検出されたSK1の上からは遺物が集中して出土した。

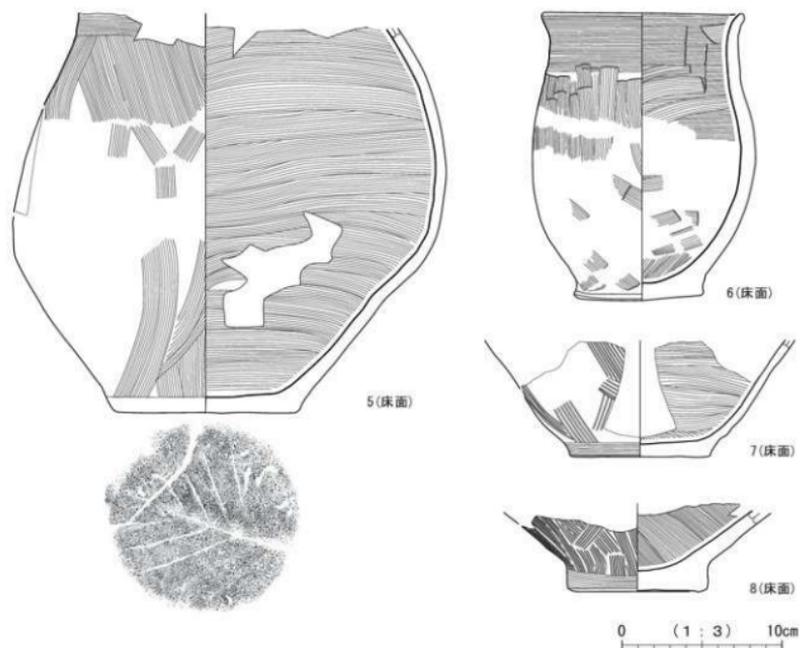
[掘り方] 大部分が破壊されており、詳細な形状は不明である。

[出土遺物] 土器器壺8点を掲載した。1はやや胴部中央が張り、直口に近いやや外傾する口唇部にいたる。器形は壺に近いがハラナデのみの内部調整から壺とした。2・4は中央部よりやや上位に最大径を持つ。6は頸部が直立し、先端で僅かに外反する。口唇部にいたる小型の壺である。



第232圖 SI72 竪穴住居跡出土遺物(1)

図号 番号	登録番号	出土遺物	層位	種類	器種	1層×直径×器高cm	外面調整	内面調整	備考	写真 図版
1	C-208	SI72	1層	土師器	甕	(16.2) × × (21.3)	11線部3層、胴部2層→3層	11線部3層、胴部3層		75
2	C-207	SI72	2層	土師器	甕	× (8.0) × (22.0)	11線部3層、胴部→底部2層	11線部2層、胴部→底部3層		75
3	C-206	SI72	1層	土師器	甕	(19.0) × × (26.0)	11線部3層、胴部2層	11線部3層、胴部3層		75
4	C-209	SI72	床面	土師器	甕	16.4 × × (15.8)	11線部2層、胴部2層	11線部2層、胴部3層		75
5	C-300	SI72	床面	土師器	甕	× 11.4 × (25.4)	11線部2層、胴部3層、乳足木葉痕	11線部2層、胴部3層		76
6	C-301	SI72	床面	土師器	甕	12.4 × 8.0 × 18.4	11線部3層、胴部→底部3層	11線部2層、胴部3層		76
7	C-303	SI72	床面	土師器	甕	× 9.8 × (7.4)	胴部4層、乳足木葉痕	胴部→底部3層		76
8	C-304	SI72	床面	土師器	甕	× 8.8 × (5.6)	胴部4層、乳足2層	胴部→底部2層		76



第233図 SI72竪穴住居跡出土遺物(2)

SI73 竪穴住居跡(第234図)

[位置・確認面] 3A区北西の端部で住居の南東コーナー部のみを確認した。大部分は3B調査区の範囲となっており、詳細については3B調査区にて報告するものとした。

[重複] SI71に切られる。

[堆積土・構築土] 6層に分層した。1・2層は住居埋土、3層は周溝の埋土、4～6層は掘り方の埋土である。現時点でも、人為的な埋め戻しが行われた可能性を指摘できる。

[壁面] IV層中を壁面としており、壁高は18cm～34cmが残存する。

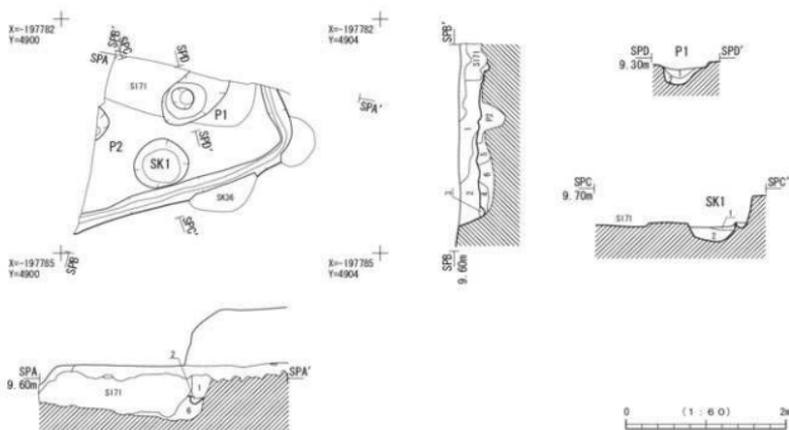
[床面] 4層上部が床面と考えられるが、不明瞭である。

[柱穴] P1は、位置と形状から、南東側の主柱穴となる可能性が高い。

[周溝] 壁際で確認した。幅10cm～16cm、深さ5cm～7cmである。

[その他の施設] 南壁際で、SK1を確認した。

[出土遺物] 掲載した遺物はない。



第234図 SI73 竪穴住居跡

SI73 埋土柱記簿

部位	層位	土色	土性	備考
埋土	1	10YR4/3 濃い黄褐色	砂質シルト	φ2m内の地山ブロックを多量含む。人為層、炭化物・焼土ブロックを少量含む
	2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	炭化物ブロックを少量含む
内溝	3	10YR4/4 褐色	シルト	
	4	7.5YR3/2 黄褐色	砂質土	地山ブロック層を層状にはさま。焼土ブロックを多く含む
掘り方	5	10YR4/6 褐色	砂質土	褐色色シルトブロックを多く含む
	6	10YR4/4 褐色	砂質土	地山ブロックを多く含む

SI73 焼土柱記簿

部位	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	
	2	10YR4/4 褐色	砂質土	
P2	—	—	—	
SK1	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	φ2m内の地山ブロックを多く含む
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	地山小ブロックを多量に含む。炭化物粒を少量含む

SI73 施設概要

遺構名	平面図	規模(cm)	深さ(cm)	備考	遺構名	平面図	規模(cm)	深さ(cm)	備考
P1	円形	70×54	60		SK1	円形	68×60	21	
P2	—	(38)×(10)	29						

SI74 竪穴住居跡(第235～237図)

[位置・確認面] 3A区北端部で確認した。

[重複] SI75、SI76を切り、SI69に切られる。

[規模・形態] 南北を主軸としており、主軸方向で3m、主軸直行方向で3.3mの左右に広い隅門方形を呈する。

[方向] 主軸方位はN-5°-Wである。

[堆積土・構築土] 16層に分層した。1～3層は住居埋土で全体に焼土・炭化物を含んでいる。4層は煙道天井部の崩落土と考えられ、5・6層は煙道内の埋土である。7・8層はカマド内および焚き口の前面に広がる灰と炭化物の堆積である。9層が貼床の層にあたり、11・12層は周溝内の埋土である。13・14層はカマド底面の被熱部位と考えられる。15層はカマドの構築土で、16層は掘り方埋土にあたる。

[壁面] IV層中およびSI76の埋土を壁面としており、壁高は22cm～39cmが残存する。立ち上がりはほぼ垂直となる。

[床面] 16層上面あるいは9層を床面とする。

[柱穴] P1～P3を検出した。P1、P2は位置、および形状から主柱穴とも考えられる。

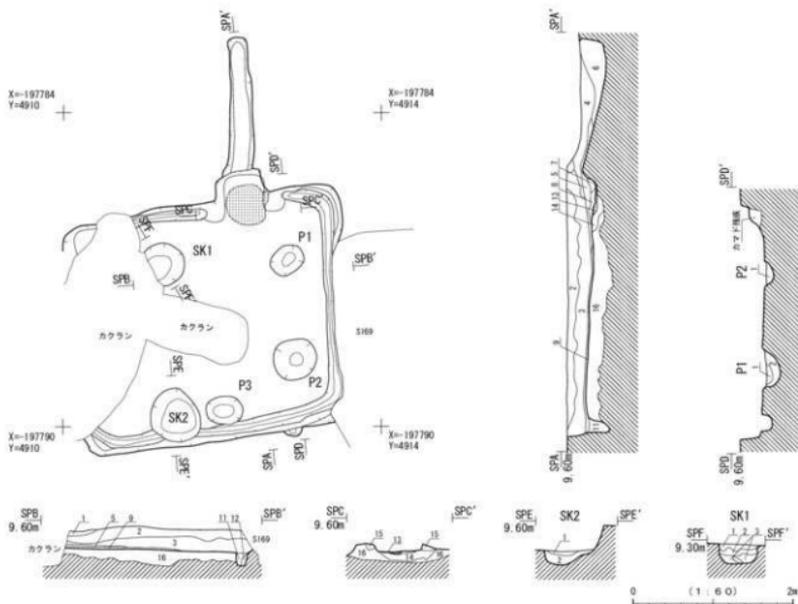
[周溝] コーナー付近ではわずかに壁から離れて設けられていた。北西コーナー部分は途切れているものと考えられる。幅12cm～20cm、深さ6cm～15cmを計る。

[カマド・煙道] 北辺の東側に設けられている。燃焼部は壁の外側に張り出しており、床面の被熱状況からも、焚き口は壁沿いに位置するものと考えられる。燃焼部の幅は50cm、奥行は80cmである。煙道の長さは168cmで、幅24cm。底面は先端へ向けて低くなっており、深さは平均で29cmを計る。

[その他の施設] SK1、SK2を確認した。共に、内部からは焼土・炭化物が密に検出された。

[掘り方] カマドの焚き口前方の底面に、土坑状の落ち込みが認められた。比高差は14cm前後である。

[出土遺物] 土師器杯3点、壺1点、須恵器杯3点、蓋1点、甕1点、砥石1点を掲載した。1・3は平底の杯。2は1・3より古手の器形。6は底部回転糸切り後外周回転ヘラケズリ整形を施す。7は小型の杯、8は長頸瓶の蓋であろう。



第235図 SI74 竪穴住居跡

S174 埋土層記層

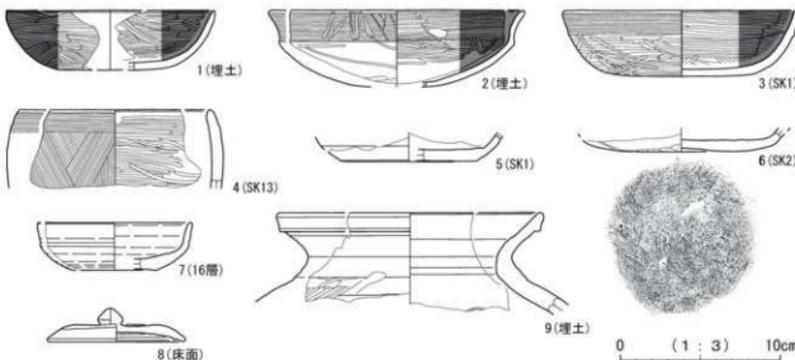
部位	層位	土色	土性	備考
埋土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	φ3cm内の地山ブロックを多く含む。炭化物・焼土ブロックを少量含む
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物・焼土ブロックを少量含む
カマド・煙道	4	10YR3/4 暗褐色	シルト	φ3cm内の焼土ブロック(天井部焼土)を多く含む
	5	10YR7/1 黒色	シルト	炭化物層
カマド	6	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	φ1cm内の焼土ブロックを多量含む。灰を含む
	7	10YR4/2 灰褐色	砂質シルト	焼土ブロックを含む
	8	10YR4/1 灰白色	シルト	微小焼土ブロックを多く含む。灰を含む
	9	10YR4/2 灰褐色	シルト	床面直上層
船床	10	10YR4/4 褐色	シルト	船山層と焼土ブロックの崩落層
	11	10YR7/1 黒色	シルト	
煙道	12	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土・焼土ブロックを少量
	13	10YR4/4 褐色	砂質シルト	焼土・焼土ブロックを少量
カマド	14	7.5YR3/3 暗褐色	焼成面	炭化物層
	15	10YR3/2 暗褐色	シルト	炭化物層
カマドノソ	16	10YR3/3 暗褐色	シルト	10YR5/4に多い黄褐色顔いブロック混。焼土粒・炭化物粒混

S174 焼跡埋土層記層

部位	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	φ1cm内の地山ブロック・焼土ブロックを多く
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土ブロックを少量
P2	3	10YR4/2 に多い黄褐色	シルト	炭化物粒を少量
	4	7.5YR3/2 暗褐色	シルト	φ2cm内の焼土ブロックを多く含む
SK1	1	10YR4/2 に多い黄褐色	シルト	炭化物を少量
	2	10YR2/2 黒褐色	シルト	(炭化物層) φ2cm内の地山ブロック・焼土ブロックを多く
SK2	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	(炭化物層) φ2cm内の地山ブロック・焼土ブロックを多く
	2	10YR3/3 に多い黄褐色	砂質シルト	φ1cm内の焼土ブロック・炭化物を多く

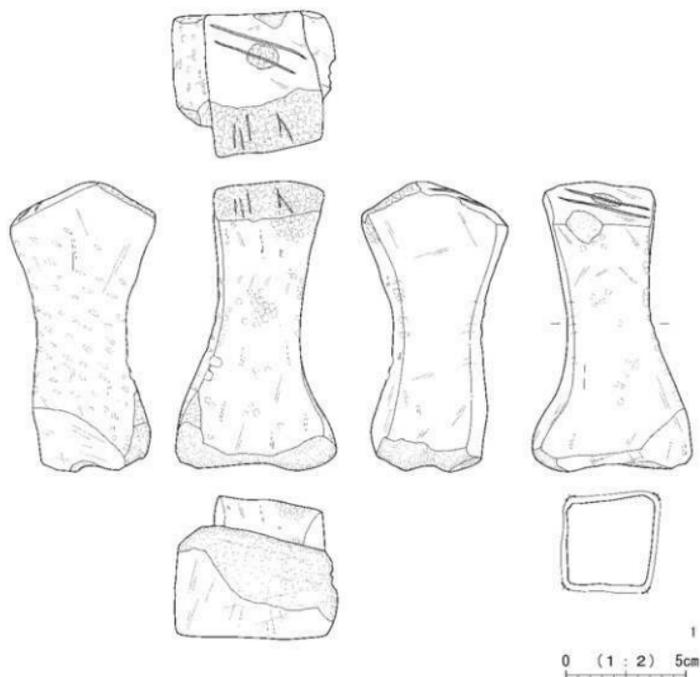
S174 焼跡観察表

遺構名	平面図	縦断(cm)	深さ(cm)	備考	遺構名	平面図	縦断(cm)	深さ(cm)	備考
P1	焼円形	42 × 32	12.2		SK1	円形	54 × 140	27	
P2	円形	52 × 50	23.8		SK2	円形	70 × 52	30	
P3	焼円形	44 × 34	12.4						



第236図 S174 竪穴住居跡出土遺物(1)

図号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	1/10×縦径×器高cm	外面調整	内面調整	備考	写真掲載
1	C-305	S174	埋土	土師器	杯	(13.0) × (5.6) × 4.0	1/10調整-底部→1/10	1/10調整-底部→1/10	内外黒色処理	26
2	C-306	S174	埋土	土師器	杯	(16.0) × × 4.99	1/10調整→1/10, 底部→1/10	1/10調整-底部→1/10	内面黒色処理	26
3	C-308	S174	SK1	土師器	杯	(14.8 × 9.8 × 4.2)	1/10調整→1/10, 底部→1/10	1/10調整-底部→1/10	内面黒色処理	26
4	C-310	S174	SK13	土師器	鉢	(11.8) × × (6.0)	1/10調整→1/10, 胴部→1/10	1/10調整-胴部→1/10		26
5	E-069	S174	SK1	須恵器	杯	× (7.8) × (1.8)	1/10調整, 底部回転糸切り→1/10	1/10調整	内外黒色処理	26
6	E-071	S174	SK2	須恵器	杯	× 8.8 × (1.4)	1/10調整, 底部回転糸切り→1/10	1/10調整	内外黒色処理	26
7	E-073	S174	16層	須恵器	杯	(9.6) × (5.3) × 3.1	1/10調整, 底部回転糸切り	1/10調整	外周一部(口縁)	26
8	E-072	S174	床面	須恵器	蓋	8.4 × × 2.2	1/10調整, 天井部回転→1/10, 宝珠状→1/10	1/10調整, 8/10	肌張色の蓋土	26
9	E-070	S174	埋土	須恵器	甕	(16.2) × × (6.3)	1/10調整, 胴部→1/10, 胴部平均口径	1/10調整, 胴部→1/10, 背海成文		26



第237図 SI74竪穴住居跡出土遺物(2)

図物番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種類	部 種	分類	長さ×幅×厚さ cm	重量(g)	石 材	備 考	写真 掲載
1	K4002	SI74	埋土	3A	石製品	砥石	B102	12.3×6.9×6.1	492.24	砂岩	完成品、面取り、柱状、無孔、自然面あり	26

SI75 竪穴住居跡(第238～239図)

[位置・確認面] 3A区北端部、東側の掘乱沿いで確認した。一部が3B調査区範囲となる他、大部分が失われている。

[重複] SI69に切られ、SI75、SI76を切る。

[規模・形態] 残存する範囲は、3.4m×2.4m程度である。平面形は隅門方形を呈するものと考えられる。

[方向] 主軸方位はN-18°-Wと考えられる。

[堆積土・構築土] 18層に分層した。1・2層は住居埋土である。3層はカマド内部の灰と焼土を含む層であり、4・5層はカマド底面の被熱部位である。被熱の痕跡が認められる6・7層はカマド直下の掘り方にあたる。8～12層はカマドの構築土である。13層は周溝の埋土にあたる。14～18層は掘り方の埋土であり、全体に焼土・炭化物を含んでいる。

[壁面] IV層中を壁面とするものと考えられ、壁高は、状態の良い北壁で17cm前後が残存する。立ち上がりは垂直に近くなるものとみられる。

[床面] 複数の掘り込みが確認されており、不明瞭である。

[柱穴] P1～P7を確認した。P1、P2からは柱の痕跡が検出されたが、関係性は不明である。

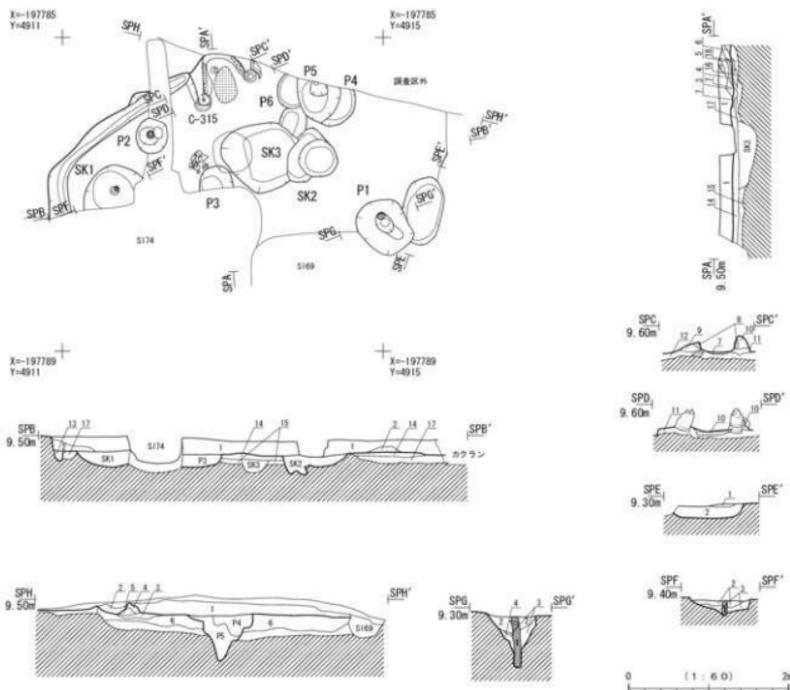
[周溝] 北壁の壁沿いに確認した。幅8cm～12cm、深さ7cm～8cmである。

[カマド・煙道] 北辺中央部に設けられていた。両袖部の平面形は直線的に開いている。先端部には土師器甕が伏せて配されている。特に右側では2点の甕が重なる状況で出土した。これらは、補強材として幅45cm、高さ30cm程度の焼き口を構成していたものと考えられる。カマドの外幅は90cm、奥行56cmである。今回の調査では、煙道は確認されていない。

[その他の施設] SK1～SK4を確認した。SK1には、柱の痕跡が認められる。カマド焼き口前面のSK2・3からは粒状の炭化物が検出された。

[掘り方] 大部分が失われており、詳細は不明である。

[出土遺物] 土師器坏1点、甕4点を掲載した。1は丸底から丸底から緩やかに立ち上がり、口唇部先端でわずかに直立する。



第238図 S175竪穴住居跡

S175 埋土封じ跡

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
埋土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	φ10cm内の地山ブロック・炭化物ブロックを少量含む、焼土粒を微量含む
	2	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	灰層-焼土粒を少量含む
	3	10YR4/2 灰青褐色	シルト	灰層-焼土粒を少量含む
	4	5YR4/6 赤褐色	シルト	焼面
	5	10YR4/2 灰青褐色	シルト	灰層-φ10cm内の焼土ブロックをやや多く含む
掘り方	6	10YR2/3 暗褐色	シルト	炭化物ブロックをやや多く含む
	7	10YR2/3 暗褐色	シルト	粒状炭化物が多数混入、焼土が埋
キマド・ツガ	8	5YR4/4 に近い赤褐色	シルト	5YR3/3明赤褐色が部分的に混入
	9	10YR4/4 暗褐色	シルト	部分的に10YR3/4暗褐色シルトが混入
	10	10YR3/4 暗褐色	シルト	下部に粒状炭化物と焼土が混入
	11	10YR3/2 暗褐色	シルト	粒状炭化物が少し混入
	12	10YR2/3 黒褐色	シルト	粒状炭化物と焼土が多数混入
	13	-	-	-
埋土	14	10YR4/4 褐色	シルト	10YR3/4暗褐色シルトが小ブロック状に混入、掘り床
	15	10YR3/3 暗褐色	シルト	粒状炭化物・焼土が混入
	16	5YR4/4 に近い赤褐色	シルト	3YR3/3の焼土の層
	17	10YR4/2 に近い黄褐色	シルト	10YR3/2がまばらに混入
	18	10YR3/4 暗褐色	シルト	粒状炭化物が少し混入

S175 施設埋土封じ跡

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
P1	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物粒を微量含む、柱断跡
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	φ10cm内の焼土ブロックを少量含む
	3	10YR4/6 褐色	砂質シルト	地山ブロックを密に含む
	4	10YR3/4 暗褐色	シルト	-
P2	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土・炭化物粒を微量に含む
	2	10YR2/3 暗褐色	シルト	-
P3	3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	-
P4	1	10YR4/2 に近い黄褐色	シルト	φ20cm内の地山ブロックを多く含む
P5	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	粒状の炭化物・焼土が混入
P6	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	10YR2/3暗褐色シルトがブロック状に混入
P7	-	-	-	平面図のみ
SK1	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土ブロックを微量含む
	2	10YR1/3 に近い黄褐色	シルト	焼土粒を少量含む
	3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	炭化物ブロックを微量含む
SK2	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	粒状炭化物が混入、ブロック状の焼土ブロックが混入
SK3	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	粒状炭化物が少し混入
SK4	1	10YR3/2 暗褐色	シルト	地山が含まれる
	2	10YR2/3 暗褐色	シルト	地山ブロック(20cm)が含まれる、焼土ブロックが多数含まれる、粒状炭化物が含まれる

S175 施設断片表

遺構名	平面図	縦断(cm)	深さ(cm)	備 考	遺構名	平面図	縦断(cm)	深さ(cm)	備 考
P1	掘り形	70 × 52 柱断跡10 × 8	67		P6	掘り形	(48) × (42)	12	
P2	円形	40 × 40 柱断跡10 × 9	34		P7	-	(30) × (20)	9	
P3	掘り形	42 × (28)	16		SK1	掘り形	80 × (50) 柱断跡6 × 6	28	
P4	掘り形	34 × (32)	29		SK2	掘り形	120 × 98	18	
P5	掘り形	(32) × (32)	50		SK3	小壘形	90 × 90	25	
					SK4	掘り形	88 × 50	10	

S176 竪穴住居跡(第240図)

[位置・確認面] 3A区北端部、S174の南側より住居のコーナー部分を検出した。大部分が失われている。

[重複] S174に切られる。

[規模・形態] 残存部は1.8m × 0.86mである。

[方向] 西辺を基準にした主軸方位はN-27°-Wを指である。

[堆積土・構築土] 4層を確認した。1・2層が住居埋土、3層が周溝内の埋土、4層が掘り方の埋土にあたる。

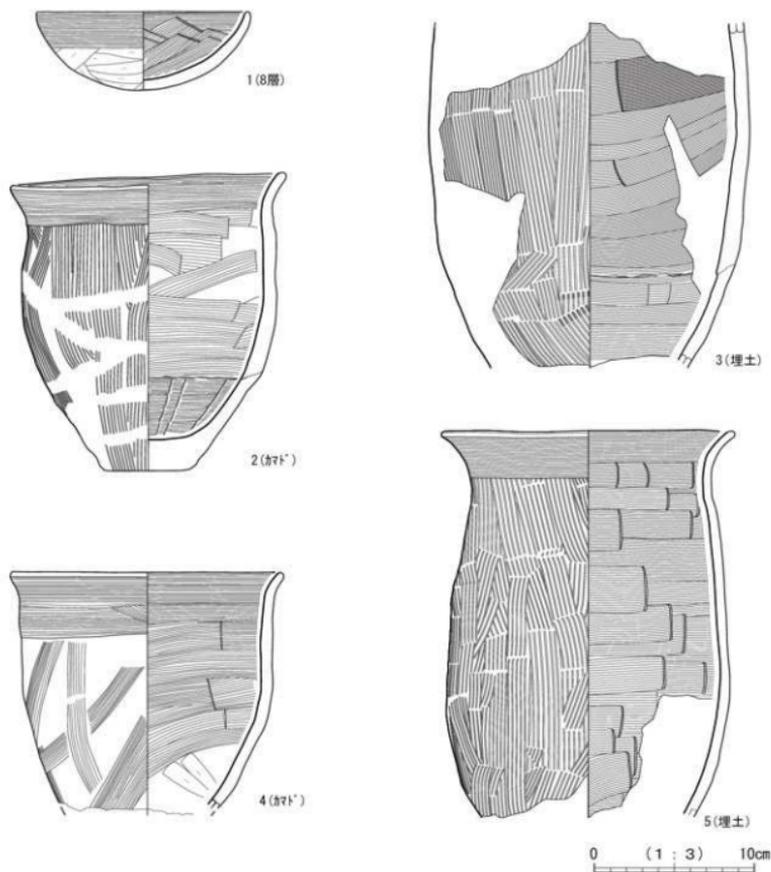
[壁面] IV層中を壁面としており、壁高は20cm ~ 28cmが残存する。

[床面] 4層上面を床面とする。

[周溝] 壁際で確認した。幅10cm ~ 12cm、深さ3cm ~ 4cmである。

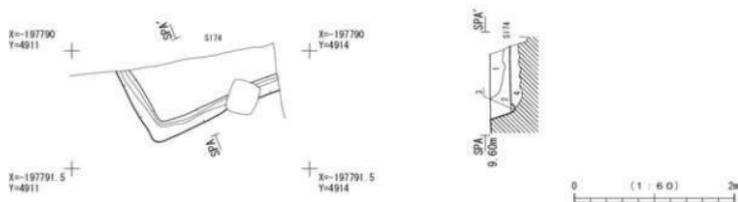
[掘り方] 大部分が失われており、不明。

[出土遺物] 掲載した遺物はない。



第239図 SI75竪穴住居跡出土遺物

図版番号	登録番号	出土遺物	層位	種類	器種	寸法(口径×底径×器高cm)	外面調整	内面調整	備考	写真掲載
1	C-316	SI75	本層	土織器	杯	13.6 × × 5.0	11線部2××', 体部-底部-1×1'0	11線部2××', 体部-底部2××'		77
2	C-313	SI75	893'	土織器	布	17.2 × 6.2 × 17.2	11線部2××', 胴部2××'→2××', 底部本層布	11線部2××', 胴部2××'		77
3	C-311	SI75	埋土	土織器	布	× × × (22.0)	胴部2××'	胴部2××'		77
4	C-314	SI75	893'	土織器	布	17.2 × × (15.5)	11線部2××', 胴部2××'	11線部2××', 胴部2××' → 下部5×××'0		77
5	C-315	SI75	埋土	土織器	布	(18.3) × × × (24.7)	11線部2××', 胴部2××'	11線部2××', 胴部2××'		77



第240図 SI76 竪穴住居跡

SI76 埋土誌記表

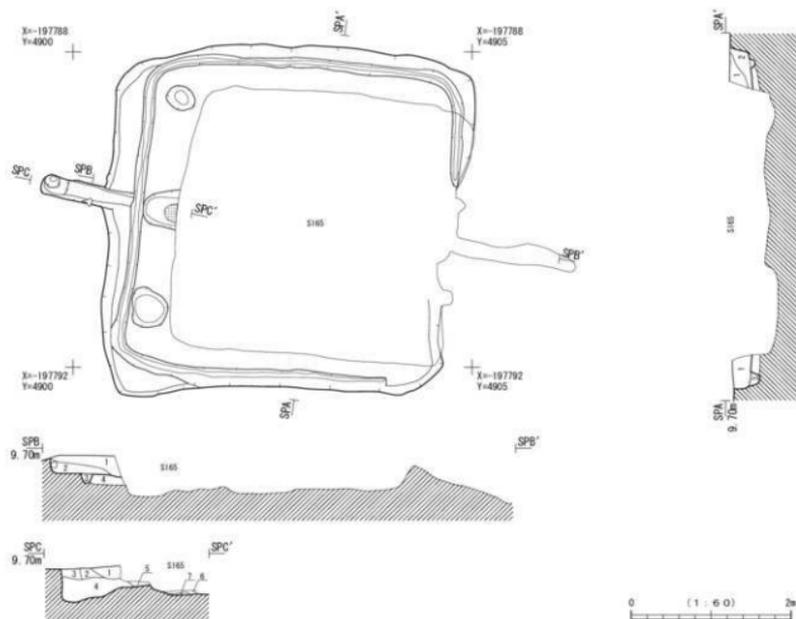
部位	層位	土色	土性	備考
埋土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	①3cm内の地山ブロックを多量含む、人為的にとみられる
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	②1cm内の地山ブロックを少量含む、人為的にとみられる
周溝	3	10YR3/3 に近い黄褐色	砂質シルト	地山ブロックを多量含む
掘り方	4	10YR3/4 褐色	砂質シルト	地山を多量含む、10YR3/3暗褐色を少し含む

SI77 竪穴住居跡(第241図)

[位置・確認面] 3A区北端部、SI65の周囲にこれより古いものと考えられるプランを確認した。

[重複] SI65に切られる。

[規模・形態] 東西に主軸をとり、一边が4.3m～4.2mの正方形に近い隅門形を呈する。



第241図 SI77 竪穴住居跡

S177 埋土目録表

部位	層位	土色	土性	備考
埋土	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	10YR5/4にぶい黄褐色ブロック状に混入
周溝	3	10YR3/2 暗褐色	シルト	西北側では10YR5/4ブロックが混入
カマド	4	5YR2/2 黒褐色	焼土灰炭層	

S177 施設埋土目録表

部位	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	φ1cm内の焼土ブロックを密に含む。炭化物ブロックを少量含む
	P2	1	10YR1/4 褐色	シルト

S177 施設輪郭表

遺構名	平面図	幅(m)	長さ(m)	備考	遺構名	平面図	幅(m)	長さ(m)	備考
P1	不整形	42×48	13		P2	円形	38×30	24	

[方向] 主軸方位はN-80°-Wである。

[堆積土・構築土] 1～7層に分層した。既に大部分が失われているため、詳細は不明だが、1・2層は住居埋土、3層は周溝内の埋土、床面下の4層は掘り方の埋土と考えられる。6・7層はカマドの被熱範囲である。

[床面] 4層上面を床面とする。大部分が失われており、明確ではない。

[柱穴] 西側の両コーナー壁際にP1、P2を確認した。主柱穴とも考えられる。

[周溝] 幅12cm～14cmで、西壁からはやや離れて設けられている。深さ4cm～6cmである。

[カマド・煙道] 煙道と燃焼部底面のみが検出された。奥壁側下面には周溝がめぐっている。煙道の長さは116cm、幅24cmで先端に向けて底面が下がっており、深さは38cmを計る。先端部は、深さ55cmのピット状に窪んでいる。

[掘り方] 大部分が破壊されており、不明である。

[出土遺物] 掲載した遺物はない。

(2) 溝跡(第242～245図)

竪穴住居跡の調査後、住居跡床面下より溝跡、SD33-SD34が検出された。この溝跡については、住居跡の検出作業時から確認されていた。堆積土が住居跡とはまったく異なり黒褐色を呈しており、関係するすべての遺構に切られていることから、時期的にも住居跡とは異なる可能性がある。

それぞれ東側を近代の土取りによって削平されており、全長は不明だが、軸方向から2条の溝は直交していたと推測され、何らかの区画溝となる可能性が考えられる。

SD33 溝跡

3A区北半部、47・48・50・51・53・55・56・58グリッドに位置する。SI60・61・64・65・66・72より古い。調査区をN-45°-Wの方向に、直線的に延びる。

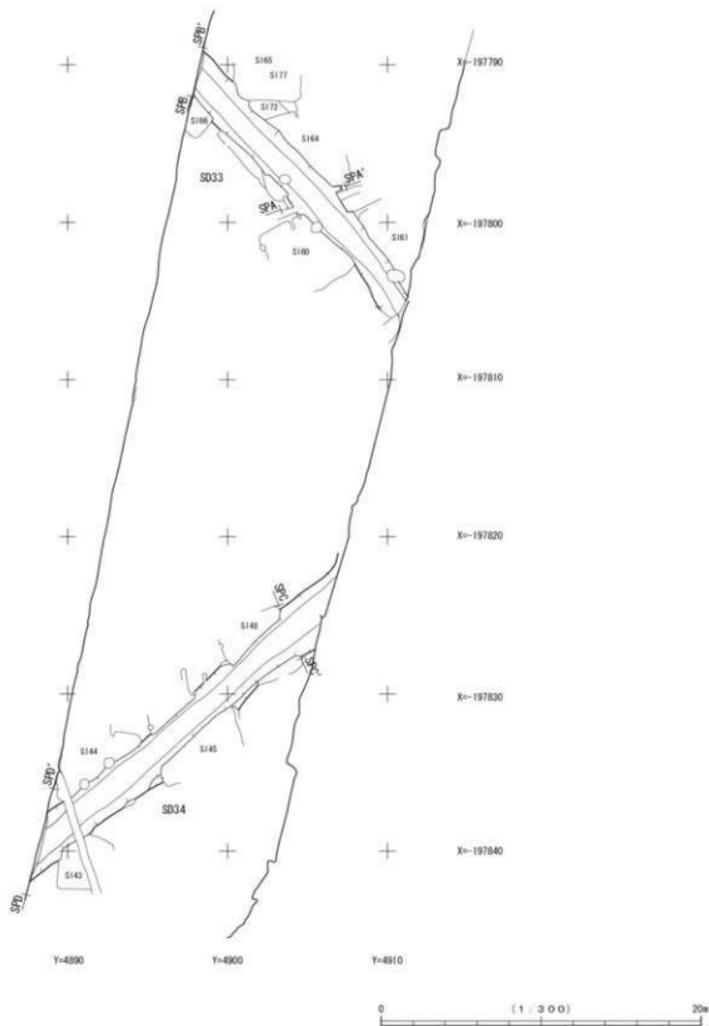
検出総長19.5m、上端幅約2.2m、下端幅1～1.2m、深さ60～75cmを測る。断面形は舟底形を呈する。底面から壁面にかけては、緩やかに立ち上がる。

堆積土は西壁セクションの観察で、7層が確認された。3a・3b層を2d層が切り、2c層より上層は自然堆積とみられる。このことからこの溝は、大部分が埋まった後に掘り直され、再度堆積した可能性がある。

SD34 溝跡

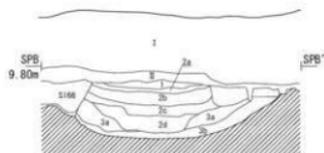
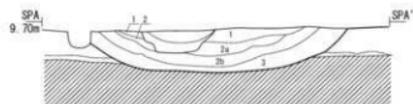
3A区中央部、29・32・33・36・37・38・39・41グリッドに位置する。SI43・44・45・48より古い。調査区をN-45°-Eの方向に、直線的に延びる。

検出長25m、上端幅2.7m、下端幅1～1.3m、深さ68～80cmを測る。断面形はSD33と同様、舟底形を呈す

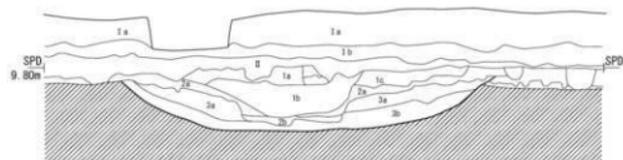
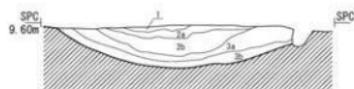


第242図 SD33・34溝跡

SD33



SD34



0 (1:60) 2m

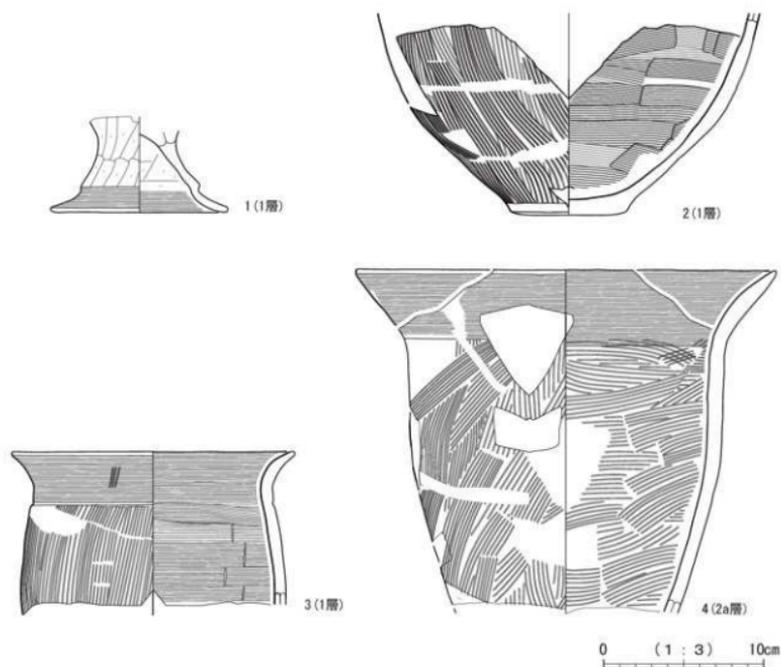
第243図 SD33・34溝跡断面図

遺跡名	グリッド	方向	幅(m)	長さ(m)	層位	土色	土性	備考	
SD33	47-48-50+ 51-53-55+ 56-58	N-45°-W	1950 × 230	60.4	1	10YR11/2	黒黄褐色	シルト	炭化物混、遺物を含む
					2a	10YR3/1	黒褐色	シルト	炭化物混
					2b	10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR14-3に濃い黄褐色の細かい粒が混入している
					2c	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	10YR12-2ブロック混、層上部に多い、層下部は明るい色調になる
					2d	10YR11/2	黒褐色	シルト	10YR14-2・2.5Y3/2が互層状に入る
					2e	10YR11/3	に濃い黄褐色	シルト	マンガン混濁
					2f	10YR11/4	褐色	シルト	わずかにグライ化が混入、マンガン混濁・酸化鉄混濁
SD34	29-32-33+ 36-37-38+ 39-41	N-45°-E	2500 × 268	68.5	1a	10YR3/3	暗褐色	シルト	炭化物粒を微量含む
					1b	10YR3/2	黒褐色	シルト	炭化物粒を微量含む
					1c	10YR3/3	暗褐色	シルト	1a層に類似
					2a	10YR2/2	黒褐色	シルト	下平に褐色砂質シルトブロック(2a)が混入
					2b	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	φ5cm内の2a・2b層ブロックを多く含む
					2c	10YR11/3	に濃い黄褐色	シルト	炭化物粒を少量含む
					2d	10YR11/4	褐色	砂質シルト	一部暗褐色にグライ化、酸化鉄混濁を全体に含む

る。底面から壁面にかけての立ち上がりも緩やかである。

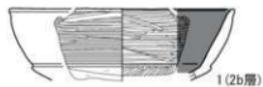
堆積土は西壁セクションの観察から、7層を確認した。3a・3b層を2a・2b層が切り、更にこれらを1b層が切る。2bまたは1b層の段階で掘り直された可能性がある。

SD33・34からは、土師器高坏1点、甕3点、坏1点を掲載した。1の高坏の脚は裾部に段を持つ。4の甕は長胴から頸部から「ハ」の字状に外反する長い口縁部を有する。いずれも古墳時代中期末から後期初頭までさかのぼる古い器形と考えられる。



第244図 SD33出土遺物

図版番号	登録番号	出土遺物	層位	種類	器種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真 掲載
1	C-362	SD33	1層	土師器	高杯	×11.2×φ1.1	胴体状部→99E'9→19'8, 胴部部899F'	胴体状部→91F'8, 胴部部899F'		78
2	C-360	SD33	1層	土師器	甕	×7.4×φ2.0	胴部→9	胴部→9F', 底部→91F'9		78
3	C-361	SD33	1層	土師器	甕	(7.0) × × (10.4)	1層部899F', 胴部→9	1層部899F', 胴部→9F'		78
4	C-363	SD33	2a層	土師器	甕	(6.2) × × (5.9)	1層部899F', 胴部→9→下半部→991F'9	1層部899F', 胴部→9→99F'		78



第245図 SD34出土遺物

図版番号	登録番号	出土遺物	層位	種類	器種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真 掲載
1	C-364	SD34	2b層	土師器	杯	(6.2) × × (4.6)	1層部899F'～体部→9F'→9'8, 底部→991F'9	1層部～底部→91F'8	内面黑色処理	78

(3) 遺構外出土遺物

遺構外出土土器は、そのほとんどが、試掘トレンチ(1T～7T)から出土しており、全部で33点を掲載した(第246～249図)。以下、その主な出土遺物について述べる。

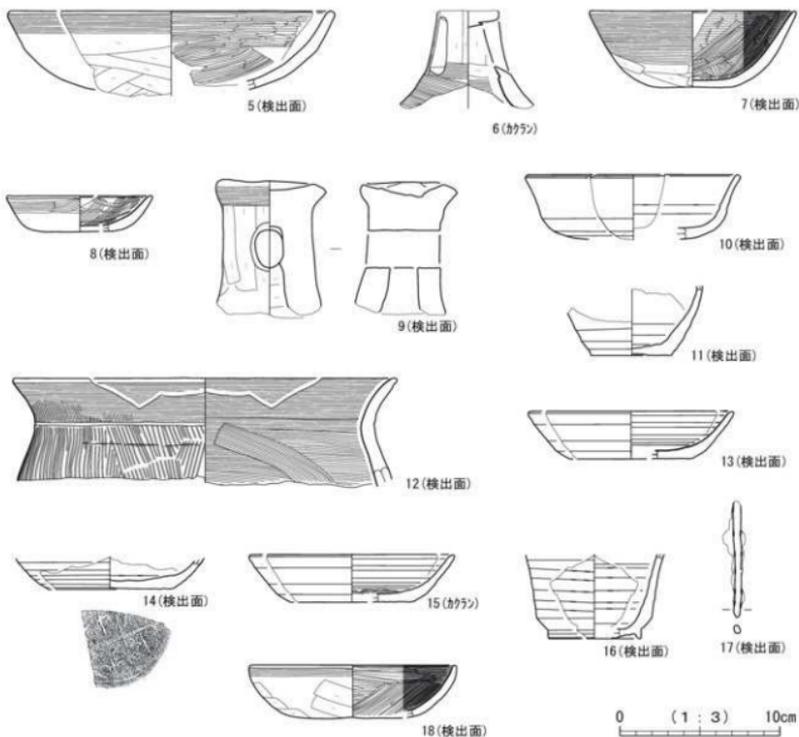
1Tからは、土師器埴1点、土鍾2点を掲載した。1は丸底の底部から立ち上がり、口唇部でわずかに外反する。2Tからは土師器埴2点、高埴1点を掲載した。4は内外面黒色処理後でいいいにヘラミガキを施す。5は口径の大きい埴で丸底の底部から緩やかに立ち上がり、体部上半でわずかに屈曲し口唇部にいたる。6の脚部は、三方透かしであろう。3Tからは土師器埴2点、高埴1点、甕1点、須恵器埴4点、壺形土器2点、釘1点を掲載した。7は、平底状底部を有する箱形の見込みの深い埴、8は、小型の皿状の器形を呈する。9は高埴とした。やや外に開く裾部から直立し、わずかに外側につまみだされた埴部と考えられる口唇部にいたる。脚は下半が中空で中央に横方向の穿孔が直交する。10は、丸底状の底部からわずかに外反する口唇部にいたる、7世紀後半代の器形を持つ。13・14・16の埴は、平底の盤状で、7世紀末以降8世紀前半代の器形である。13は、底部整形回転ヘラ切り、14は、ヘラ記号痕が観察される。11、12は内面整形の状態から壺と判断した。4Tからは、土師器埴1点、高埴1点、須恵器瓶1点を掲載した。18は、平底の底部から立ち上がり、直立する口唇部にいたる。19は高埴脚部、20は長頸瓶か広口瓶の肩部であろう。6Tからは、21の土製紡錘車が出土した。13条の織り紐をかけたあとの条痕が残る。7Tからは、土師器埴3点、甕1点、須恵器壺2点を掲載した。23は、丸底から直立し、体部と口縁の境目で強く屈曲し、外反する口唇部にいたる。また24は、体部と底部の境目に段を有し、強く逆「ハ」の字状に開く器形である。25は、球脚から直立する長い頸部を経て、強く内湾する口唇部にいたる。2B区からは、須恵器蓋1点、埴1点を掲載した。29は、7世紀中ごろ以降に出現した蓋のカエリが、退化しはじめた時期の所産である。内外面に重ね焼き痕が残る。30は、高台の付いた埴の底部で、静止糸切り後外周回転ヘラ削りが施されている。他には遺構検出面からだが、手すくねの土師器埴ミニチュア1点、刀子1点を掲載した。

石器については、4点を掲載した(第250～251図)。砥石はI類A2種1点、II類B2種2点が出土している。石材は2が砂岩で、1・3が凝灰岩である。不明石製品とした4は、柱状であり、断面形は8角形を呈する。石材は凝灰岩である。



第246図 遺構外出土遺物(1)

図版番号	発掘番号	出土遺物	部位	種別	器種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真掲載
1	C-407	3AK 12T	埴	土師器	埴	(17.2)×(8.0)×(6.5)	1脚部33°、体部膨脹、底部99°	1脚部～底部91°	内面黒色処理	79
4	C-389	3AK 23T	検出面	土師器	埴	(15.2)××(1.4)	1脚部～体部91°	1脚部～体部91°	内外面黒色処理	79
図版番号	発掘番号	出土遺物	部位	種別	器種	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	備考		写真掲載
2	P-47	3AK 12T	検出面	土製品	土鍾	3.8×径1.4×孔径0.5	6.5	ナデ		80
3	P-46	3AK 12T	検出面	土製品	土鍾	5.0×径1.7×孔径0.5	11.8	ナデ→1°、黒色		80

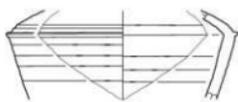


第247图 遗構外出土遺物(2)

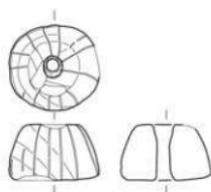
図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	口徑×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真掲載
5	C-368	3AⅠ区 2.3T	横断面	土師器	坏	Φ0.41 × × 0.64	1線部227°、底部297°	1線部—底部291°		79
6	C-408	3AⅠ区 2.3T	斜断面	土師器	高坏	× × (8.2) × (6.2)	脚部291°、297°、製部227°	脚部291°、製部227°	脚部に透かし	79
7	C-303	3AⅠ区3T	横断面	土師器	坏	(13.9) × (5.8) × 4.9	1線部227°、底部297°、底部291°	1線部—底部291°	内面黑色処理、朝 外敷?	79
8	C-302	3AⅠ区3T 付足	横断面	土師器	坏	Φ2.2 × (4.8) × 2.4	1線部—底部291°	1線部—底部291°		79
9	C-391	3AⅠ区3T	横断面	土師器	高坏	× × × (8.6)	脚部上端227°、脚部状部291°	脚部291°	脚中に貫通孔 あり	79
10	E-089	3AⅠ区3T	横断面	灰土器	坏	(13.0) × × (4.1)	290調整、底面同軸291°	290調整	外面白色粉	80
11	E-088	3AⅠ区3T	横断面	灰土器	壶	× 4.8 × (4.2)	290調整、底部下縁—底部手付5292°	290調整	底G	80
12	C-305	3AⅠ区 3.4T	横断面	土師器	甕	Φ2.0 × × (6.8)	1線部227°、製部227°	1線部227°、製部227°		79
13	E-101	3AⅠ区 3.4T	横断面	灰土器	坏	(12.6) × (7.6) × 3.1	290調整、底部下縁同軸291°、底面同軸290°	290調整、足込A297°		80
14	E-100	3AⅠ区 3.4T	横断面	灰土器	坏	× × (7.6) × (1.9)	290調整、底部下縁—底部291°	290調整	底面黒色	80
15	E-105	3AⅠ区 3.4T	斜断面	灰土器	坏	(14.4) × (9.6) × 4.0	290調整、底面同軸291°、297°	290調整	内外面火押痕	80
16	E-102	3AⅠ区 3.4T	横断面	灰土器	壶	× × (5.6) × (5.3)	290調整、底面同軸291°、脚付高台	290調整	小型逆上小、高台	80
18	C-306	3AⅠ区4T	横断面	土師器	坏	(13.0) × × 0.41	1線部227°、製部—底部291°	1線部—製部291°	内面黑色処理	79
図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	備考		写真掲載		
17	N-29	3AⅠ区 3.4T	横断面	鉄製品	釘?	長12.4、幅0.4、厚0.5cm		80		



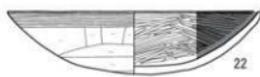
19(検出面)



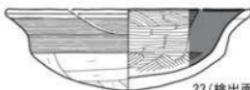
20(検出面)



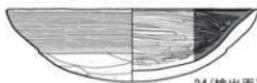
21(埋土)



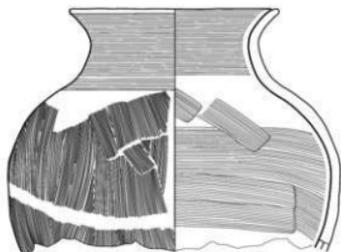
22



23(検出面)



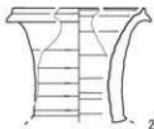
24(検出面)



25(検出面)



26(跡?)



27(検出面)

0 (1 : 3) 10cm

第248図 遺構外出土遺物③

図号 番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真 掲載
19	C-307	3A区4T	検出面	土師器	高杯	×(8.0)×(6.5)	難部→???		外面刷毛肌	79
20	E-103	3A区 3A4T	検出面	須恵器	壺	×××(5.6)	???	???		80
22	C-399	3A区	-	土師器	杯	15.8××4.0	1)難部???, 体部~底部→???	1)難部~底部→???	内面黑色処理	79
23	C-402	3A区7T	検出面	土師器	杯	(15.3)××4.2	1)難部???, 体部→???, 底部→???	1)難部~底部→???	内面黑色処理	79
24	C-403	3A区7T	検出面	土師器	杯	(15.8)××(4.7)	1)難部~体部→???, 底部→???	1)難部~底部→???	内面黑色処理	79
25	C-404	3A区7T	検出面	土師器	壺	(13.0)××(15.5)	1)難部???, 胴部→?	1)難部???, 胴部→???		79
26	E-104	3A区1T	跡?	須恵器	壺	×××(3.1)	???	???		80
27	E-106	2区7T	検出面	須恵器	壺	(8.2)××(7.3)	???	???	長部凸	79
図号 番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	備考	写真 掲載	
21	P-48	3区6T	S2埋土	土製品	紡錘車	径5.6×厚3.6×孔径0.8	115.3	十字、一面黒色、縦方向に線痕跡小?	80	